神經	興奮性 平流「ミリアムペーア」(KaSZ)	興奮性 感伝「コイル」間距離 (mm)
顔面神經 Facialis	1.0—2.5	130—110
筋皮神經 Musculocutaneus 尺骨神經 Ulnaris 正中神經 Medianus	0.1—1.5	140—110
橈骨神經 Radialis	0.9—2.7	120— 90
大腿神經 Femoralis	0.4—1.7	120—100
腓骨神經 Fibularis	0.2—2.0	127—100
筋肉	**平流電気による興奮性 MA(KaSZ)**	**導子の大さ ccm**
僧帽筋 M. trapezius	1.6	12
三角筋 M. deltoides	1.2—2.0	12
大胸筋 M. pectoralis major	0.4	6
上腕橈骨筋 M. brachioradialis	1.1—1.7	3
總伸指筋 M. extensor digitorum comm.	0.6—3.0	3
橈腕伸筋 M. extensor carpi radialis	0.8	3 3
円回内筋 M. pronator teres	2.5—2.8	3
短拇指伸筋 M. extensor pollicis brevis	1.5—3.5	3
大腿直筋 M. rectus femoris	1.6—6.0	20
脛側廣筋 M. vastus tibialis	0.3—1.3	20
前脛骨筋 M. tibialis anterior	1.8—5.0	12

場合には,電撃性ではなくて,むしろ蠕動狀に緩慢である。のみならず,神經を去つた筋肉では,攣縮律にも變化を來し,AnSZ 及び AnOZ は,KaSZ よりも弱い電流によつて起るようになる。この運動神經を奪われた筋肉は,脊髄前角における榮養中枢なる運動性神経細胞より隔離せられるために,約8-12 週を経過する中には全く変性に陥る。かように持続的に運動神經より隔離せられるか,または運動性核が完全に変性に陥つた際には,**完全変性反応** *complete reaction of degeneration* を呈するが,不完全に隔離せられて,なお再生の望みがある際には,**不全変性反応** *partial r. of d.* を呈する。この不全変性反応に際しては,神経よりの興奮性は減弱するが,多くは保たれる。しかし平流電気による直接的刺戟に際しては,この場合にも,攣縮は緩慢な經過を示し,攣縮律は變化し(KaSZ よりも AnSZ にたいする反応の方が大きい),且つ過興奮性を示す。

「**クロナキシー**」(時値) *Chronaxia*. 最近は電気的興奮性の変化を,「クロナキシー」の測定によつて知ろうと試みられる (Lapicque)。「クロナキシー」とは,基電流 (*Rheobase*) の 2 倍の電気的刺戟によつて,筋攣縮をおこすために必要な最短の通電時間,即ち利用時(單位 σ = msec=1/1000 秒)をいう。それには,最初平流を長時間閉鎖した際に,檢すべき筋肉に最小攣縮を起さしめる最小の電流の強さ(基電流)を測定する。次で,その 2 倍の強さの電流を用いて,最小攣縮を誘起すべき利用時,即ち「クロナキシー」を測定する。「クロナキシー」は,個々の筋肉にては,0.1—0.7(σ)の間の正常時値を示す。病的には,この値は 10-70(σ)に高まることがある(1σ=1/1000 秒)。この方法によると,電流の強さを測定するよりも,筋肉の興奮性の変化を精細に知り得るという。

C. 症候各論

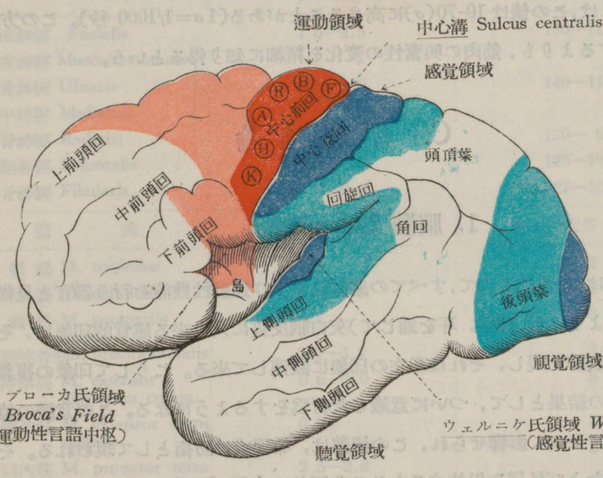
1. 腦髄 Encephalon

腦皮質の灰白質は,意識によつて,すべての感覚性および運動性機能を行う器官と見做される。身体の内部および外界より(例えば眼,耳を通じて)灰白脳皮質に入り來る感覚的印象は,そこに持続的の印象,即ち記憶の痕跡を残し,それは現在の印象に關連して來る。こうして印象の複雑な練磨,即ち熟考が行われ,その結果として,ついに意識した行爲をするようになる。この意識の協力の下に行われる行爲は,情慾によつて影響せられ,この情慾は,希望或は防衛として現われる。そしてその源泉となるのは,個体および種属を保持するための先天的の本能 *Instinct* である。

身体各部の随意運動を司どる皮質中枢は,各々,特別の場所に分れて存し,且つ一面においては,種々な感覚的印象,即ち眼,耳,嗅覚器,および味覚器,皮膚竝びに筋肉より媒介せられる知覚的印象は,脳皮質の特別な限局的分野によつて受納せられる。これらの個々の領域においては,脳皮質は頗る異なつた構造を示し,その差異は,系統發達的に古い中心溝 Sulcus centralis (Rolandi) の深部において特に著明である。即ち**中心前回**は,その幅の広い皮質の中に,大きい錐体狀の神經細胞を有し,その軸索突起は錐体路として,内包を通つて脊髄の最低部にまで下行し,これは意識した運動を司どる。これに反して**中心後回**は,かかる錐体細胞を含有せず,小顆粒狀または紡錐狀神經細胞の数層をもち,このものは知覚性印象を受納する。なお**後頭葉**の鳥距溝の部にも,皮質の顆粒狀性狀は特に著明にみとめられ,この所は視覚印象を意識的に受納する。この他 側大脳窩(ジルヴイ氏窩) Fossa cerebri lateralis (Sylvii) に面する側頭葉の**ヘッシュル氏回**の中では,聽覚印象が意識せられる。それ故に,顆粒狀皮質領域は感覚性,即ち求心性印象を受納する場所で,これに反し,大きい錐体細胞のある皮質領域は,運動性,即ち遠心性衝動を送り出す場所である。

意識運動性領域. 中心前回 Gyrus praecentralis および,これと連続する正中面に存する中心旁小葉 Lobulus paracentralis は,意識運動性領域と呼ばれ,就中 中心旁小葉および中心前回の最上部には,脚にたいする支配領域が存し,中心前回の中央 1/3 の部分には,胴,上腕,および手にたいする支配領域があり,下 1/3 の部分には,顔面,喉頭および舌にたいする支配領域が存する。これらの運動性皮質領域よりは,個々の筋肉の收縮が行われるのではなく,共動的筋肉群の一定の關連した運

動が，その拮抗筋と共に支配せられる。例えば，上腕の挙上，肘または手の屈曲および伸展，握むこと，または書字，その他すべての微細な目的運動が支配せられる。



中心前回	Gyrus praecentralis	上前頭回	Gyrus frontalis I
中前頭回	Gyrus frontalis II	下前頭回	Gyrus frontalis III
島	Insula	中心後回	Gyrus postcentralis
頭頂葉	Lobus parietalis	回旋回	Gyrus circumflexus
角回	Gyrus angularis	上側頭回	Gyrus temporalis superior
中側頭回	Gyrus temporalis medius	下側頭回	Gyrus temporalis inferior
後頭葉	Lobus occipitalis		

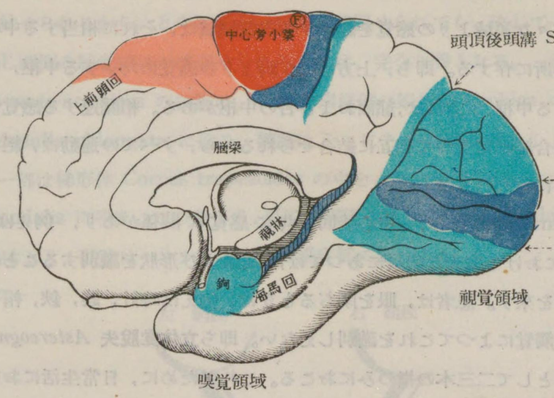
濃赤：個々の随意運動を司る領域（F 足，B 脚，R 胴，A 上腕，H 手，K 頭）；薄赤：複雑な運動動作を司る領域（ブローカ氏領域も，この中に含まれる）。

濃青：知覚路の終末部；薄青：知覚領域。

挿図 174. 大脳の凸面における回転および最も重要な皮質中枢の位置

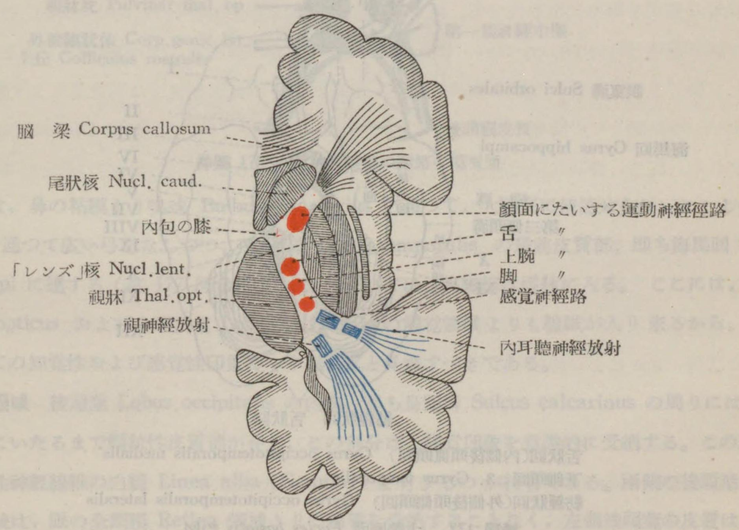
大脳皮質においては，個々の筋領域にたいする運動性中枢は，相互に隔たつて坐するから，中心前回の限局性傷害，例えば頭蓋損傷の後，膿瘍または腫瘍の際などには，多くは一肢或は一筋肉群のみが麻痺し，即ち**單癱** *Monoplegy* がおこる。そして，この際には，頗る屢々間代性痙攣を伴い，痙攣は，傷害部より出て，そこから規則的に，全半身の筋肉にひろがる（皮質癲癇 *cortical epilepsy* またはジャクソン氏癲癇 *Jacksonian epilepsy*）。これに反して，内包（出血の最も起りやすい場所）の大きい傷害に際しては，反対側の完全な**半身不遂**（偏癱）*Hemiplegy*（舌，顔，上肢および下肢の麻痺）がおこる。これは，そこでは全運動性經路が密集して，狭い場所を通過する故である。そして左側内包が侵されるときは，屢々失語症 *Aphasia* を伴う（後文参照）。

感覚性皮質領域 中心後回 Gyrus postcentralis においては，反対側の全半身の知覚性印象が



上前頭回	Gyrus frontalis I	中心旁小葉	Lobulus paracentralis
脳梁	Corpus callosum	視床	Thalamus
鉤	Uncus	海馬回	Gyr, hippocampi

挿図 175. 大脳の正中面における回転，および最も重要な皮質中枢の位置

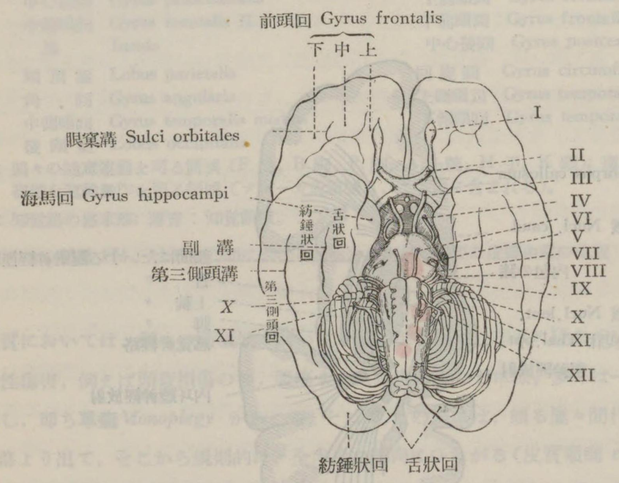


挿図 176. 内包 Capsula interna の水平断面図

受納せられ，就中 皮膚の知覚のみでなく，筋肉および關節の感覚，即ち位置および運動覚も受納せられる。そして身体の種々な領域よりの感覚を認識する皮質領域は，それに相当する中心前回の運動性皮質中枢に隣接する場所に存する。即ち，上方には，脚よりの感覚にたいする中枢，中央には，胴，上腕および手にたいする中枢，下方には，顔面および舌の中枢がある。相關連する感覚性および運動性皮質領域は，多数の聯合線維によつて相互に結合せられるから，すべての運動は，絶えず知覚性印象の指導および調節の下に行われうる。

頭頂葉 Lobus parietalis も亦，中心後回と共に感覚に關係があり，例えば回旋回 Gyrus circumflexus の領域における広大な病巣にあつては，觸覚および形狀を識別することの障碍，竝びに運動覚性追想像の消失を來す。患者は，眼を閉ぢるときは，例えば時計，匙，鋏，帽子などのような物体に手を觸れても，觸覚によつてこれを識別しえない。即ち**立体覚脱失** *Astereognosis* がおこる。この立体覚脱失は，時として二三本の指のみにおこる。これがために，日常生活において物体を使用することが，高度に障碍せられる（觸覚性行爲錯誤症 *tactile Apraxia*）。

全身よりの知覚性印象は，放線冠 Corona radiata を通つて，中心後回および一般に頭頂葉に伝達せられる。そして線維は，視牀 Thalamus の側核および腹核より來り，それは更に内側絨帶 Lemniscus medialis より，從つて脊髄より來る。

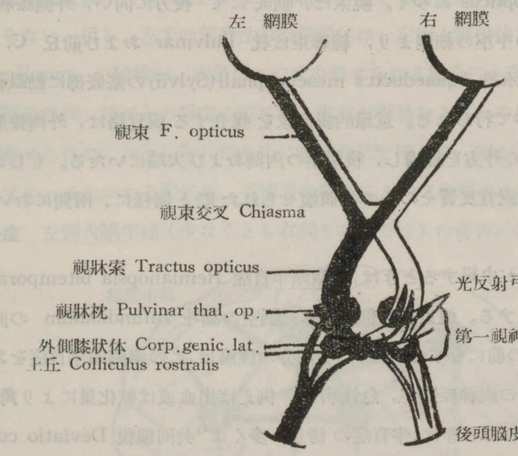


舌状回（内側後頭側頭回） Gyrus occipitotemporalis medialis
下側頭回 3. Gyrus temporalis
紡錘状回（外側後頭側頭回） Gyrus occipitotemporalis lateralis

挿図 177. 大脳底面 *Facies basialis* の図

聽覚領域 レイル氏島 Insula (Reilii) の深部にて，その後端に近い所には，下頭頂小葉 Lobulus parietalis inf. より上側頭回 Gyrus temporalis sup. にまで下行する一つの回転，即ちヘッシュル氏回 *Heschl's Winding* があり，その皮質は**聽覚印象**の中枢性認識部と見做される。兩側の聽覚領域は，互に密に連結せられるから，この回転が一側性に破壊せられても，決して一側性の聽覚障碍はおこらない。しかし兩側の聽覚領域が破壊せられるときは，完全な聾となる。

内耳神經 N. stato-acusticus の細胞は，側頭骨岩様部の蝸牛殼 Cochlea の中に排置せられ，その突起を延髄 Medulla oblongata に送る。**聽路**はそこにある聽神經核より，一部は聽線 Striae acusticae 中で，一部は梯形体 Corpus trapezoides の中を，外側絨帶 Lemniscus lateralis として下丘 Colliculus caudalis にゆき，この所より，更に内側膝狀体 Corpus geniculatum mediale にゆく。この内側膝狀体より，聽路はヘッシュル氏回の脳皮質に走行する。



挿圖 178. 視神經線維の徑路の模型図

嗅覚は，鼻の粘膜より嗅球 Bulbus olfactorius を通つて，大脳底に傳達せられ，ここより脳弓 Fornix を通つて広い弓をなしつつ，側頭葉 Lobus temporalis の最前皮質部，即ち海馬回 Gyrus hippocampi に達する（第 177 図參照）。一面においては，嗅線維は視牀に入る。ここには，視索 Tractus opticus および全頭頂葉 Lobus parietalis の觸覚領域よりも線維が入り來るから，視牀は，すべての知覚性および感覚性印象の一中枢器官と見做すべきである。

視覚領域 後頭葉 Lobus occipitalis の内側，即ち鳥距溝 Sulcus calcarinus の周りには，後頭葉の尖端にいたるまで顆粒性皮質部が存し，この部分は，視覚印象を意識的に受納する。この皮質部は，有髄性神經線維の白線 Linea alba (Gennari) を有するのが特有である。兩側の後頭葉の各々の視覚領域は，眼の全網膜 Retina 領域よりの認識を受納することなく，左側後頭葉の皮質は，兩側網膜の左半部よりの視覚印象のみが受納せられ，右側後頭葉の皮質は，兩側網膜の右半部よりの視覚印象のみを受納する（第 178 図參照）。兩側後頭葉の視覚印象．即ち網膜の右半および左半よりの視

覚印象は，脳梁の最後部，即ち脳梁膨大 Splenius corporis callosi によつて一つの綜合印象に結合せられる。こうして網膜における最も鋭敏な視覚部，即ち黄斑 Macula lutea は，兩側の後頭葉の中にて表現せられる。いま後頭葉或はその鳥距部 Regio calcarina のみが破壊せられるときは，その結果として，兩側網膜の同名半側（右ならば右半，左ならば左半）よりの視覚印象は，もはや認識せられない。從つて，兩眼の半視症，即ち**同側半盲症** *homonymous Hemianopsia* が現われる。そして光線は眼中にて交叉するから，反対側の視野の盲目を來す。

視束 F. opticus の神經線維は，網膜の桿狀細胞および円錐狀細胞より視束交叉 Chiasma f. opticorum にいたり，そこで，線維は部分的交叉をして，網膜右半の線維は右側に，網膜左半の線維は左側の視索 Tractus opticus にゆく。視索は，脳底にて後方に向い，外側膝狀体 C. g. laterale にまで走行する。この中枢の細胞より，線維束は枕 Pulvinar および前丘 C. rostralis にいたる。その部分には，中脳水道 Aquaeductus mesencephali (Sylvii) の基底部に動眼神經核が存し，**瞳孔反射**はこの徑路を通つて行われる。意識的視印象を媒介する視覚路は，外側膝狀体より後角 Cornu occipit. に沿つてその外方を經過し，後頭葉の内側および尖端にいたる。もしこの中樞性視覚路が中絶せられるときは，視覚皮質そのものの破壊せられた際と同様に，兩側において反対側視野の半盲症がおこる。

視束交叉における交叉線維が中絶するときは，兩側頭半盲症 Hemianopsia bitemporalis，即ち，兩側視野の側面半側の欠損を生ずる。視束交叉部は，第三脳室の漏斗 Infundibulum の直前にて，從つて脳下垂体 Hypophysis の前に存するから，この部分の腫瘍は，この兩側頭半盲症をおこすことが決して稀でない。またもし脳の視神經路が，急性病変，例えば出血或は軟化巣により**角回** Gyrus angularis の深部にて中絶せられるときは，半盲症の傍ら，多くは"共同偏視 Déviatio conjuguée" が現われる。即ち，兩眼は強迫的に同名側に偏向し，換言すると，兩眼は視力の保たれる側に向う。それ故に，患者は恰も病巣のある側を眺めている。

大脳の疾病にあつては，眼の病的偏向は，常に兩眼球において同じ方向に行われる。これは兩眼の視る方向は，大脳より常に同じ意味に支配せられるからである。それ故に，大脳の疾患にあつては，一側性の眼筋麻痺，從つて複像は決して現われない。**複像**は，常に四丘体または橋 Pons における眼筋核，またはその神經の疾病の際にのみ現われる。しかし延髄 M. oblongata における外転神經 Abducens の核の麻痺にあつては，眼の同名側偏視も現われる。但し，この際には常に同名側への偏視で，患者は，恰もその麻痺した肢の方向を眺める。

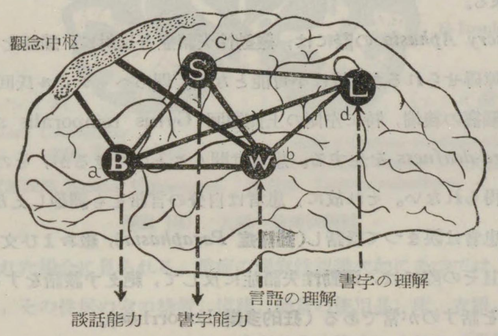
前頭脳皮質 個々の感覚をまず受納する場所，または随意運動を司令する場所と見做すべき限局性脳領域の隣接部，および，それよりも広い周囲には，一定の皮質領域があつて，その所にては，明らかに感覚が一そう練磨せられ，且相互の聯合的結合が行われる外，練習によつて習得せられるすべての複雑な行爲の実施が司どられる。聯合線維 *Association fibre* の広大な系統によつて，脳皮

質のあらゆる領域は相互に結合せられるから，種々な知覚性印象は，集まつて全体の印象となり，概念を生じ，行爲の企図をなし得るのである。

こうして中心前回よりも前方，殊に中前頭回 Gyrus frontalis medius の中には，一つの運動性領域があり，そこから一定の点にたいして随意的に兩眼の位置を定め，且つ頭部を旋回し，即ち視線の方向を定めうる。この他前頭脳の皮質が広汎な範囲に破壊されるときは，一般に複雑な行動を実施しえず，特に若干の連続的働作より組立てられる行爲が侵される（例えば点火すること，衣服を着ること，食うこと，飲むこと，書くこと，「バイオリン」をひくことなど）。茲に注意すべきは，かかる**運動性行爲錯誤症** *motor Apraxia* は，左側前頭領域の破壊に際してのみ現われるのが常であることで，從つて複雑な行爲の企図および継続は，主として左側大脳半球の中で行われることを認めなければならない。但し，左手の運動性行爲錯誤症は，左側大脳半球より右側前頭領域にいたる脳梁 Corpus callosum の線維が，病巣によつて中絶せられる場合にも現われうる。

前頭脳の疾病，特にその腫瘍の際には，患者の行爲およびその全体の擧動が，外部の狀況に一致して，調整せられなくなり，それがために禮儀作法を辨えず，例えば，室の中央にて排便をするようなことをする。またかかる際には，不適当な頓智によつて弁解するのが常である（頓智癖）。

失語症 左側大脳半球（少なくとも右利きの者では）の傷害にあつては，談話をする能力が失わ



B＝ブローカ氏中枢 *Broca's Centre*（運動性言語中枢）; a＝第三（下）前頭回 Gyrus frontalis III.
W＝ウェルニケ氏中枢 *Wernicke's Centre*（知覚性言語中枢）; b＝上側頭回 Gyrus temporalis sup.
S＝書字中枢; c＝中心前回 Gyrus praecentralis
L＝読書中枢; d＝角回 Gyrus angularis.

挿図 179. 皮質性言語中枢および連鎖模型図（Bing 氏による）

れて，所謂 失語症 *Aphasia* がおこる。この失語症にあつては，言語を發し得ないか，或は聽いた言語を理解することができない。左側脳半球の談話を司どる領域が破壊せられた場合には，右側脳半球のそれに相当する皮質部は，これを全く代償し得ないか，或は不完全に代償しうるのみである。

中心前回 Gyrus praecentralis の最下部，即ち舌，咽喉，口蓋，および口唇の運動を支配す

る部位より前方に，一つの回転があつて，それは側大腦窩 Fossa cerebri lateralis の前上行枝を囲繞する。これを**ブローカ氏回** *Broca's Winding* と称え，この所が傷害せられる時は，**運動性失語症** *motor Aphasia* がおこる。この際には，すべての言語筋を調節して正しい音話をする能力が失われる。即ち患者は談話しえず，ただ不可解な發音および語の断片をいい得るのみである。しかもその際，それに必要な筋肉は麻痺することなく[1]，他の機能，例えば表情或は食事のためには，正しくこれを用いうる。且し心中の語は，その綴の数と揚音とを以て，または音樂的の意味に保たれることがある。またその際には言語の理解は，全く侵されないのが常である。即ち，患者に何か要求する時は，それにたいして正しく追從する。これに反して，患者は他人の言語を模倣することは出來ない。もし該部が広く破壊せられるときは，患者は言語を想起しえず，それがために，言語を書いて現わすことも出來なくなる（**失書症** *Agraphia*）。またその際には，音読する力もなくなることが稀でない。殊に，半ば音読する習慣のある者では，そうである。

健忘性失語症 *amnestic Aphasia* とは，心中における言語のみでなく，談話をする力および言語を模倣する力は保たれるが，患者は詞，特に名詞，即ち物体の名称を想起し得ないような言語障碍をいう。患者は，人の名前または或る物体（時計，匙，眼鏡など）の名稱を思いつかないで，「あのほら何とか」などといい換えるか，または手まねで言い現わす。もし患者に思い出せない言語を教えると，患者は救われたと感じ，その語を正しく模倣しうる。この際には，言語の理解は，保たれる。輕度の健忘性失語症は，解剖的欠陥がなくても，腦性疲勞または循環障碍の際にも來る。

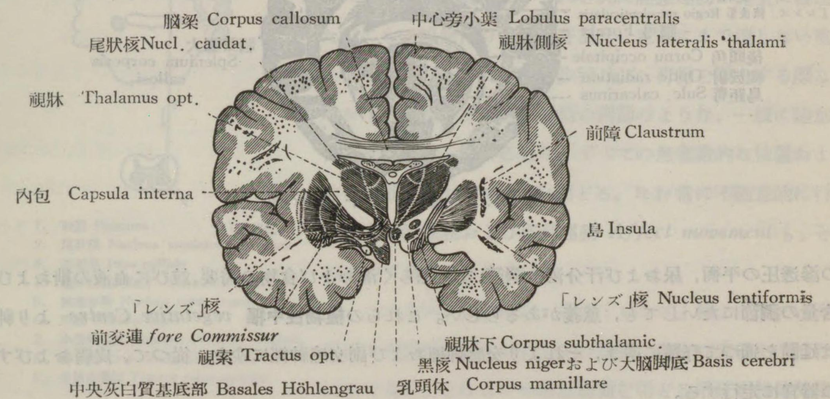
感覚性失語症 *sensory Aphasia* の際には，運動性失語症と反対に，談話をする力は保たれるが，言語を理解することが障碍せられるか，或は不可能となる。即ちヘッシュル氏回 *Heschl s Winding* の広い周囲，即ち側大腦窩の後端，特に左側の上側頭回 Gyrus temporalis superior が破壊せられるときは，**語聾** *Word-deafness* を生ずる。患者は聞くことはできるが，その言語は外國語のように響き，言語の概念が得られない。それ故に，患者は自分の言語をも調節しえないから，談話力の障碍も加わるのが常で，患者は誤まつて談話し（**錯語症** *Paraphasia*），綴および文字を誤まり，一つの文句をも形成しえない。且その際には，運動性失語症に反して，絶えず談話をすることを好むが，不可解な訳のわからぬ言語を話すのが常である（**狂的多辯** Logorrhöe）。

運動性（前頭性）および感覚性（側頭性）言語領域が，共に侵されるときは**完全失語症**がおこる。その際には患者は，自發的に言語を發しえず，且つ言語を理解しえない。
のみならず，読書または字を書くことも不良となる。

後頭葉 Lobus occipitalis. 鳥距溝 Sulcus calcarinus 或は視覚路の中の限局性傷害は，既に述べ

1) 失語症 *Aphasia* による言語障碍は腦皮質の傷害に基因し，この際には筋肉は侵されないで，しかも言語の障碍をおこすのであるが，これと区別すべきものに**構語性言語障碍**，即ち**構語障碍** *Dysarthria* または**構語不能** *Anarthria* がある。これは言語に用いられる筋肉（唇，舌，口蓋）の麻痺或は痿弱によつておこる言語障碍であつて，通常延髄における舌下神經および迷走神經の核の傷害によつておこる（球性言語障碍）。

たように，**同側半盲症** *homonymous Hemianopsia*，即ち両側網膜の同名半側の視力消失を來す。この際には，物体の視覚による識別は，他半側の視野の助けによつて行われるのが常である。左側の後頭葉，特に後頭葉の凸面が，広い範囲に亙つて破壊せられるとき，および同時に右後頭葉より左後頭葉に走行する腦梁の線維が中絶した際には，視覚による識別力の消失を來し，即ち**視覚性認識缺如** *optical Agnosia* 或は**精神盲** *mind-blindness* を生ずるのが常である。この際には，患者は物体を視うるが，追想像を失つているために，それを識別し得ない。視覚性認識欠如の際には，主として読む力も侵される。この**失読症** *Alexia*，並びに一般に視覚性の認識欠如は，通常右側性半盲症を伴う。失読症は，特に次の場合に見られる。即ち左側の角回 Gyrus angularis の部分に，深部に波及する病巣があつて，視覚路のみでなく，同時に後頭葉より側頭葉（即ち聽覚性言語理解の場所）に走行する

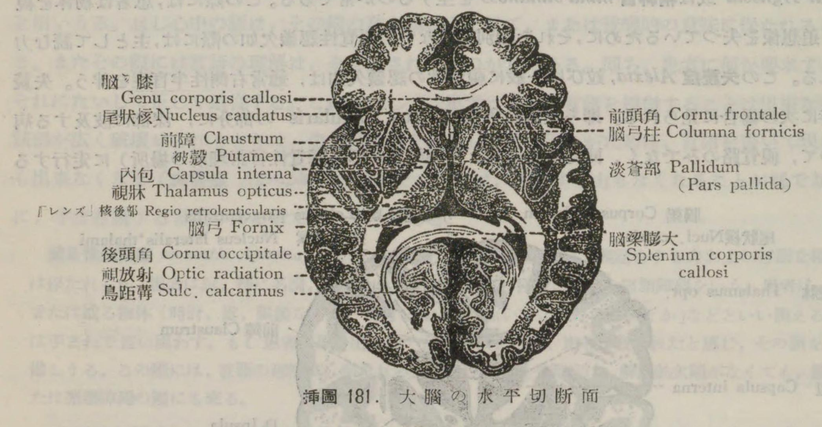


挿図 180. 大腦の前面切断図

聯合經路が破壊せられた場合に見られる。重症の視覚性認識欠如にあつては，患者は視覚を以て全く會得しえない。即ち，その住居の室の排置，道路，通常の使用品，床，衣服，食器のみでなく，色にたいしても追想像をもたない。それがために，患者は全く途方にくれる（視覚性行爲錯誤症性）。

視牀 Thalamus すべての皮質領域は，中央神經節 *central ganglia*，特に視牀と線維が結合している。即ち，視牀は，その腹核および側核の中に絨帶 Lemniscus を通じて，脊髄および腦神經の求心性經路より流入するすべての知覚性印象を受納する。それに応じて視牀に病巣があるときは，反対側半身の感覚障碍を伴うのが常で，且つその際には，反対側全半身の激甚な疼痛を伴つて，これを抑圧しえないことが稀でない。一般に視牀に流入する知覚性印象は，その所で屢々快，不快の一定の感情をうるものである。また視牀或はその隣接領域においては，明かに睡眠と覚醒との調節が行われ，殊にこの機能は，眼，特に瞳孔の狀態と密接な關係があり，疲勞すれば眼瞼が閉鎖し，また睡眠中は，眼は上方に廻転し且つ瞳孔は縮小する。

視牀下中樞 *Subthalamic Centre.* 視牀の下にて，特に第三腦室 Ventriculus tertius の周囲において，漏斗にいたるまでの部分にある灰白核質の中，即ち間腦の視牀下中枢，および中央灰白質 *central grey matter* の中には，生命に必要な機能の調節に意義のある若干の装置をみとめねばならない。即ち正常の体温および恐らく血圧を正しく保つことの外，水分代謝の調節，およびそれと共に体



挿圖 181. 大腦の水平切断面

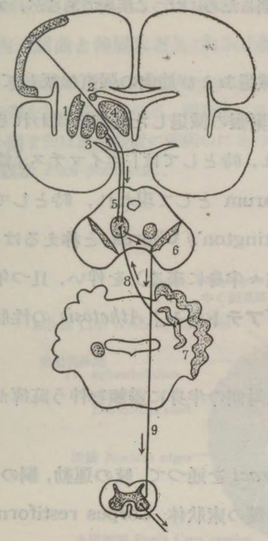
液の滲透圧の平衡，尿および汗分泌の調節，なお恐らく渴および食物の需要，並びに血液の糖および塩の含量の調節にたいしても，意義があるらしい。これらの**植物性中枢** *vegetative Centre* より神經路は延髓を通つて脊髓にゆき，それより交感神經および副交感神經にゆき，從つて，皮膚およびすべての器官に走行する。

「レンズ」核 Nucleus lentiformis.「レンズ」核およびそれと密接な關係のある**尾狀核** Nucleus caudatus は，內包によつて視牀と分離せられるが，視牀より多数の結合線維をうける。「レンズ」核は，最前腦胞の基底部，即ち前腦より發達するから，視牀に反して，運動機能を司どることを認めねばならぬ。「レンズ」核には，外の灰白部なる被殼と，內部にある淡蒼部とを区別する。

被殼 Putamen は，それと關連する尾狀核と，同様な組織的組成を示す。この両物質は，灰白線によつて相互に結合せられるから，被殼と尾狀核とを**線條体** Corpus striatum と総称する。このものは，胎生学的に遲くなつて髓の成熟を示すもので，ほぼ脳皮質と同時，即ち生後半カ年の中である。それ故に，線條体は，出産時およびその直後には，脳皮質と同様に，なお機能を發揮しないものと考えられる。

淡蒼部 Pars pallida は，「レンズ」核の內方の部分をなし，これは被殼と異なつて，人の出産時にすでに多数の有髓性神經纖維をもち，從つて機能を發揮するものと認められる。この淡蒼部よりは，神經路が，一定の視牀下中枢（即ち視牀下核 Nucleus hypothalamicus, 黑核 Nucleus niger,

赤核 Nucleus ruber, および脊髓に走行する。新生兒は，すでに手足を絶えず動かす各種の運動，並びに，叫び，吸い，且つ嚥下するような複雜な運動機能を行い，且つ疼痛，空腹，または飽滿感の際には，活潑な表情 *Mimics* を現わすによつて見れば，淡蒼部は視牀より流入する刺戟をうけつつ，これらの原始的運動機能を司どるものと認めねばならない。



1. 被殼 Putamen
2. 尾狀核 Nucleus caudatus
} 線條體 Striatum
3. 淡蒼部 Pars pallida
4. 視牀（視神經床） Thalamus opticus
5. 被蓋赤核 Nucleus ruber tegmenti
6. 黑核 Nucleus niger
7. 小腦齒狀核 Nucleus dentatus cerebelli
8. 結合腕 Crus cerebello-cerebrale
9. 赤核脊髓路 Tractus rubro-spinalis

挿図 182. 錐体外路系統の模型図

小兒の運動は，線條体の髓成熟と共に，第1才の間に調整せられる。頭部および胴を保持すること，起坐することは，より確実となり，まもなく握み，匍い，起立し且つ歩行するようになる。脳皮質およびそれと共に随意運動が完全に發達した際にも，線條体および淡蒼部は，意識にまで達しない重要な機能を司どる。例えば，歩行，起立，荷物を挙上する際などにおける胴および上腕の運動の調節のような，一般に随意的行動を実施する際に必要な，すべての無意識的な位置および随伴運動 *co-movement* を司どる。なお常に不随意的に行われる表情的顔貌および感動運動 *Affect movement* も，それによつて支配せられる。

この全体の運動装置，即ち「レンズ」核より出て，視牀下核，大脳脚 Crus cerebri の黑核，および赤核をへて脊髓にまで及び，これらの不随意運動を司どる系統を**錐体外路運動系統** *extrapyramidal motor system* と称え，中心前回の皮質性運動装置，およびそれより出る錐体路に相対向する（第404頁参照）。

「レンズ」核の疾病にあつては，**筋强剛性症狀群** *complex of amyostatic symptoms* が現われ，即ち皮質性随意運動と共におこるべき不随意的筋働作が不完全となる。その際には，皮質性随意運動はかなり正しく行われうるが，胴，肢，顔面筋，および眼の著しい運動寡少がある（**無動症** *Akinesia*）。こうして，肢は凍結したようになり，假面顔を示す。この所謂 **硬直** *Rigor* または强剛 *Rigidity* は，肢を他働的に運動させる際に蠟様の抵抗を示すによつて知られ，錐体路の障碍に際して見られる痙攣性麻痺の際におけるような彈力性に反跳する筋緊張と区別せられる（第405頁参照）。歩行は，徐々に小さい足取りを以て足を曳ずつて歩き，その際に上腕および胴は共同的に運動しない。姿勢は，前方に屈曲し，手は周期的震顫 *rhythmic tremor* を示すことが稀でない。反射は，亢進しないか或は僅か亢進するのみである。この無動症および筋强直は主として淡蒼部および，黑核の変性の際に見られる。かかる病狀は，震顫麻痺（パーキンソン氏病）の際における病狀に全く等しいから，これを「パー

キンソニスムス」*Parkinsonism* と称える。

ウィルソン氏病 *Wilson's disease* は，「レンズ」核が漸々に変性に陥るためにおこる疾病であるが，本病にあつては肝臓硬変症を伴うことが稀でない。

「レンズ」核の他の疾病，特に被殼の疾病にあつては，運動減退および筋肉の強直に反して，不随意的の不調和な舞踏病狀運動が，手，上腕および顏面において，緊張の減退した筋肉に現われる。これは**小舞踏病** Chorea minor (Sydenham) として小兒に見られ，時としては「ロイマチス」性疾病に続發し，または若い初回の妊婦に妊娠舞踏病 Chorea gravidarum として現われ，時としては，老年者に卒中に続發して見られる。ハンチントン氏舞踏病 Huntington's Chorea と称えるは，大部分は遺伝性原因による慢性疾患で，同時に不随意的の筋運動（往々半身に來る）を伴い，且つ年月を經過する中に，精神的変性に陥る。その際 不随意的運動は往々「**アテトーゼ**」*Athetosis* の性狀を示す。本病は被殼の慢性変性に基因する。

赤核が破壞せられるときは，一側の動眼神經麻痺と，その反対側の半身に震顫を伴う麻痺がおこる。これをベネディクト氏症候群という。

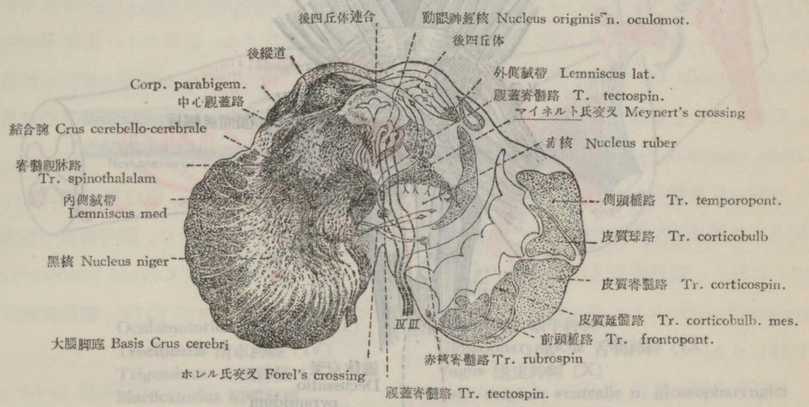
小腦 Cerebellum. 脊髓の小腦側索徑路 *lateral cerebellar tract* を通つて，肢の運動，胴の姿勢，および身体の地面にたいする位置を整調するすべての感覚は，延髓の索狀体 Corpus restiforme を通つて小腦に入る。この位置および運動覚は，意識，即ち腦の皮質よりは不完全に認識せられるのみであるが，小腦中にては，意識に達するにいたらないで調節が行われ，特に歩行および起立の際に調節せられる。

大腦 Cerebrum は小腦と，側方の橋小腦脚 Crus ponto-cerebellare によつて連結せられる。これは前頭腦，頭頂葉，および側頭葉よりおこり，内包を通つて橋の核に走行し，これより豫め交叉した後，側方橋小腦脚として，小腦の半球の中に入る。この他 小腦の髓の中央に存する齒狀核 Nucleus dentatus は，結合腕（小腦大腦脚 Crus cerebello-cerebrale）により，豫め正中線を交叉した後，赤核と連結し，且つ視牀 Thalamus および視牀下核とも連結する。この徑路は，明らかに調節性刺戟を小腦より上記の場所に伝達し，運動の共同作業（筋力適合 *Eumetry* および協力 *Synergy*）にたいする正しい程度を媒介する。特に胎生學的に古い小腦の中央部は，坐位，起立，および歩行に際して，正しい平衡を保つために必要な筋運動および筋緊張の調節を司どる。

この他 小腦は，側頭骨錐体部 Pars petrosa の三半規管 Canales semicirculares の中にある前庭装置 *Vestibular apparatus* と最も密接な關係がある。このものは，身体を地球の重力および空間の三「ヂメンヂオン」にたいして整調し，こうして正しい平衡を保つに役立つ。

小腦の疾病にあつては，筋肉の共働不能 *Asynergy* および筋緊張減退 *Hypotonia* がおこり，これは，特に脚および胴に著しい。それがために**小腦性運動失調** *cerebellar ataxia* がおこる。即ち，患者は起立および歩行に際して，側方および後方に倒れようとし，その歩行は，恰も酩酊者のようによろめく（第406頁參照）。次に Babinski は，小腦疾患の症狀として**拮抗運動反復不能症** *Adiadochokinesis* を記載した。これは急速に連続して拮抗的運動をなし得ないのをいう（例えば，手の回外と回内，屈曲と伸展など）。なお小腦の疾患に際しては，往々眩暈がおこる。

指示試驗 *Past-pointing test* 患者の前に一本の指を出し，これを最初は開眼のまま，次で閉眼させて，その示指を以て觸れさせる。健康者にあつては，閉眼した際にも誤まることなく，前に出した指に正しく觸れるが，小腦または前庭装置の疾病のにあつては，患者は，閉眼に際しては誤示し，殊に指は疾患側の方向に行き過ぎる（**誤示** *Past-pointing*）。



挿図．183 中腦の後丘の部分の切断図

中腦 Mesencephalon. 中腦は，その上面の四丘体 Corpora quadrigemina をもつのが特有である。中腦水道 Aquaeductus mesencephali は，第三腦室を延髓の第四腦室と連結し，その基底には動眼神經核 Nucleus originis n. oculomotorii が排置されている。中腦には大腦脚底 Basis crus cerebriおよび被蓋 Tegmentum を区別し，この兩者は黑核 Nucleus niger によつて分たれる。大きい大腦脚底は，中央部に運動性錐体路を有し，その正中部および側部には，大腦より内包を通つて橋にいたり，それより小腦に走行する徑路がある。被蓋においては，全知覚徑路は内側紐帶 Lemniscus med. として知られ，その他 赤核およびそれに走行する小腦の小腦大腦脚（結合腕）Crus cerebello-cerebrale がある。

中腦の病巣にあつては，一側性或は兩側性の動眼神經 Oculomotorius 麻痺，從つて複視 *diplopia*，上眼瞼の下垂，および瞳孔の反射障碍がおこる。また大腦脚 Crus cerebri の部分に大きい病巣があるときは，**交叉性動眼神經麻痺を伴う半身不隨**，即ち同側の動眼神經麻痺，および反対側の半身不隨並びに半身感覚脱失が現われる。

橋 Pons. 橋部は，直接に小腦によつて覆われ，この部にては中腦水道は拡大して第四腦室 Ventriculus quartus となる。その底部には外転神經 Abducens の核があり，これは眼球の外方へ

rius の核も亦，傷害せられるのが常である。これがために，恰も進行性球麻痺におけるように，構語性言語障碍（構語不能 *Anarthria*），無聲 *Aphonia*，嚥下・呼吸および心臓障碍がおこる。そしてもし兩側の核が傷害せられる時は，かかる麻痺現象は一そう顕著なのが常である。

2. 脊 髄 Medulla spinalis

脊髄は，脊椎管 Canalis vertebralis の全長徑に亙らず，最下端，即ち脊髄円錐 Conus medullaris は，第1腰椎の高さにあり，第 1. 腰節[1]は第10. 或は 11. 胸椎の棘狀突起 Processus spinalis の後方に，第 1. 胸節は第 6. 或は 7. 頸椎の棘狀突起の後方に位する。前根および後根 Radix ventralis et dorsalis は，脊髄を出て所属の椎間孔まで下行し，その中には知覚根の椎間神經節が占坐し，神經はここを通過して末梢部へ走る。下方腰節および仙骨髄 Pars sacralis の神經根は馬尾神經 Cauda equina を作り，その仙骨根は仙骨窩中にまで下行する（第 182 圖）。

脊髄の**灰白質** Substantia grisea は，脳および延髄におけると同様に，中心管 Canalis centralis の周りに排置せられる。しかし中心管は，脊髄では大部分閉塞し，その中は，脳脊髄液の循環には使用せられない。脳脊髄液 Liquor cerebrospinalis は，むしろ蜘蛛膜下腔 Cavum leptomeningicum (subarachnoideale) の中に排置せられ，これは仙骨 Os sacrum にまで下行し，腰椎穿刺にてその中に達しうる。

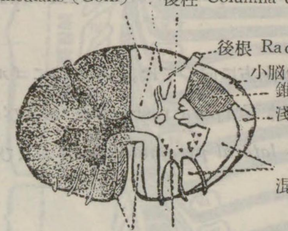
脊髄灰白質の**前柱**（前角）Columna ventralis の中には，大きい運動性神經細胞 *motor ganglia cells* が群をなして排置せられ，その軸索は前根 Radix ventralis として脊髄を出で筋肉に走行する。なお前柱と後柱との間の角には，小さい神經細胞の群が存し，その軸索は同様に前根を通じて，脊髄を出で，白色交通枝として節狀索の交感神經節に走行する。これは，血管の神經支配，從つて血圧の調節を司どり，なお腺器官，即ち，汗腺，肝臓，腎臓の他，胃腸管に走行する。

灰白質の**後柱**（後角）Columna dorsalis は，感覚 *Sensibility* を司どる。後柱よりは，多数の神經路が前柱に走行し，それは反射を媒介する。この他，後柱の神經細胞よりは線維束が出で，それは正中線を越えて交叉し，他側の前側索 Fasciculus ventro-lateralis の中を上行する（下文参照）。**後索** Fasciculus dorsalis は，卵形部および短かい聯合性繊維を除けば，すべて上行性，即ち知覚性で，特に深部感覚を司どり，且つ或る程度までは皮膚の感覚をも伝達する。

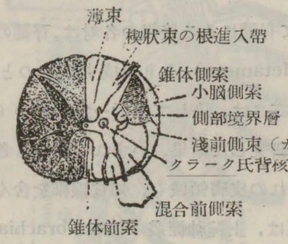
末梢性知覚神經は，**椎間神經節** *Intervertebral ganglia* の神經細胞より出る。この神經細胞の一本の軸索突起は，知覚神經として末梢部に走行し，他の一本は後根 Radix dorsalis を通じて脊髄中に入り，一部は直接 同側の後索中に入り，交叉することなしに，その中を延髄の後索核にまで上行する。新たに侵入する線維は，後柱の直ぐ傍ら（根進入帯の中）にて後索の中に排置せられるから，後索の正中線に近い部分には，脊髄の下部，即ち仙骨および腰髄より來た径路が横たわり，側部

1) 脊髄節については，後頁参照。

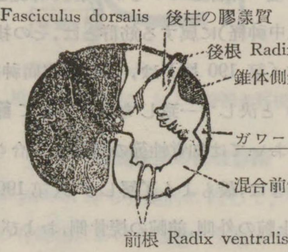
には，脊髄の高部よりの径路が存する。こうして頸髄においては，身体の下半部より來た径路は**薄束**（ゴル氏）Pars medialis (Golli) として正中部に存し，上肢よりの線維束は**楔狀束**（ブルダッハ氏）Pars lateralis (Burdachi) として側部にある。後根線維の他の一部は，後角の灰白質中に入つて，その所の細胞に終り，その線維は，それより上方 5-6節を經過する中に，正中線を交叉して反対側の前側索の中を上行し，延髄にいたる。この線維は，主として痛覚および温覚の伝達を司どり，並びに触覚をも伝達する。なお脊髄の辺縁部にて，後根が軟脳膜を穿通して後柱および後索中に進入する部分をナージュオット氏部 *Nageotte's place* と称え，脊髄癆の際には，後索の灰白変性はこの所より始まる。



挿圖 186. （頸 髄）



挿圖 187. （胸 髄）



挿圖 188. （腰 髄）

ゴル氏薄束およびブルダッハ氏楔狀束は，延髄において背部にある核，即ち**薄索核および楔狀索核** Nucleus partis medialis et lateralis fasciculi dorsalis の中に終る。この所より線維が出て，そ

れは弓形をして正中線を交叉し（**係蹄交叉** Decussatio lemniscorum），そして既に交叉した脊髄の前側索よりの知覚路と合する。知覚路は，今や合一して内側係蹄 Lemniscus medialis として，延髄，つぎに橋 Pons の被蓋を通り，さらに四丘体部を過ぎて，視牀Thalamus の側核にいたる。

脊髄の側索 Fasciculus lateralis の中，殊にその後半部においては**運動性錐体路**が經過する。この長い軸索突起は，中心前回 Gyrus praecentralis より，内包 Capsula interna および大脳脚底をへて脊髄の下端にまで下行し，随意運動を司どる。もしこの径路が，脳の中或は脊髄の或る場所にて切断せられるときは，下方に向い，下仙骨節にいたるまで変性する。錐体側索路の腹側（前方）には，なおこの外の遠心性徑路が存し，この徑路は，意識に達しない運動機能に与る（赤核よりの**モナコウ氏束**，即ち赤核脊髄道 Tractus rubrospinalis，および運動性被蓋徑路（*motor bundle of tegmentum*）。

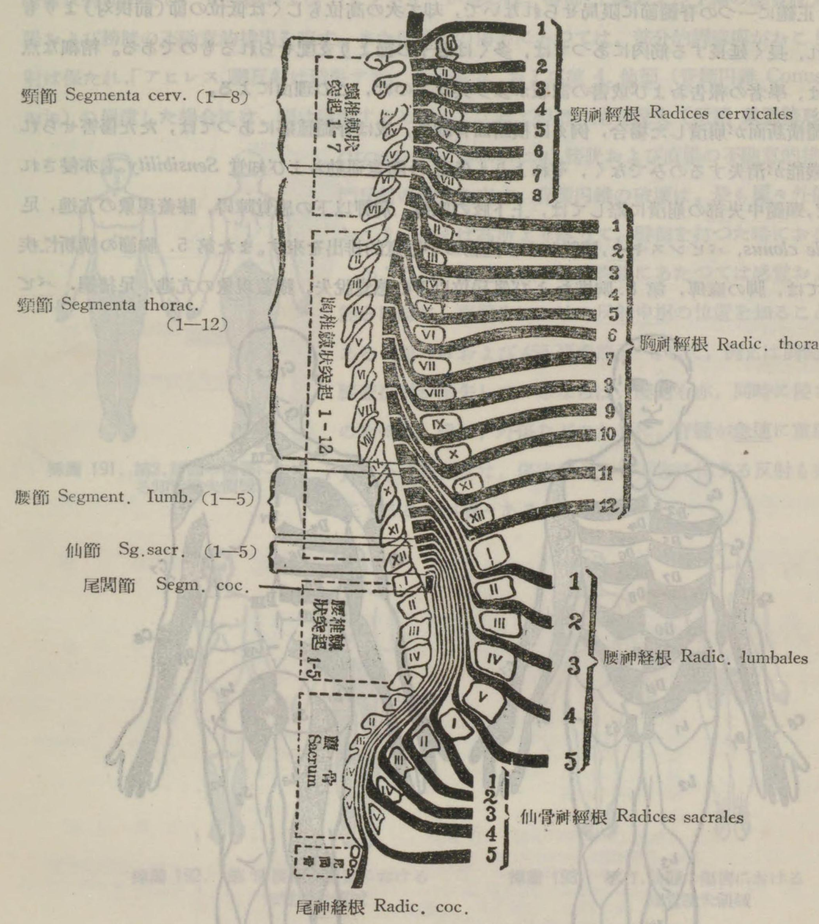
脊髄の横断に際しては，傷害部より上方に向つては，後索，特にゴル氏索および小脳側索束（これも同様に長い上行性徑路をなし，索状体 Corpora restiforme および小脳に上行する）が変性し，傷害部より下方に向つては，錐体側索路 *lateral pyramidal tract* および錐体前索路 *direct pyramida tracl* が変性する。

脊髄節

脊髄より前根，および同じ高さにて脊髄に入る後根の各対は，脊髄の一定の節に一致する。そして脊髄は，かかる個々の節 *Segment*（Metamere）より集成するものと考えることができる。脊髄節の数は，脊椎の数に一致するが，その高さは，決して両者一致しない（第 182 図参照）。

脊髄の横断面疾病の多くの場合に研究した結果，いずれの筋肉も各節（および同じ高さで脊髄より出る前根）より支配せられ，また何れの皮膚領域も，知覚線維を含んだ各後根対より支配されることが明らかとなつた。しかし末梢神經は，上腕神經叢 Plexus brachialis，腰神經叢 P. lumbalis，および仙骨神經叢 P. sacralis において屢々錯綜しているから，一脊髄節より支配される筋肉群は，一定の末梢神經（例えば橈骨神經或は正中神経）に属する筋群とは，その排置が著しく異るものである。また脊髄節の支配する皮膚知覚の領域（第 190 図）は，末梢性皮膚神經の支配する領域（第 196 図，第 197 図，第 200 図および第 201 図）と決して一致しない。そして**節性皮膚領域**は，軀幹にてはかなり水平に帯状に排列せられ，四肢においては知覚性節の排列は，恰も四足獣におけるように，上腕と脚とを脊柱に垂直におくと考えるときは，最もよく了解しうる（第 190 図参照）。この節性知覚帯は，上肢にあつては延長した紐状をなし，上腕の外側，前腕の橈骨側，および手の拇指側にては，高位の脊髄節（C_6，C_7，及びC_8）に一致し，これに反して，手および前腕の尺骨側，上腕および腋窩の内側においては，低位の脊髄節（D_1，D_2，及び D_3）に一致する。また下肢にあつては，一般に大腿および下腿の前面は腰節より，その後面は仙骨節より支配せられ，肛門周囲（四足獣にては身体の最後部にあたる）

は，脊髄の最下部（内陰部神經 N. pudendalis internus）の知覚線維をうける。



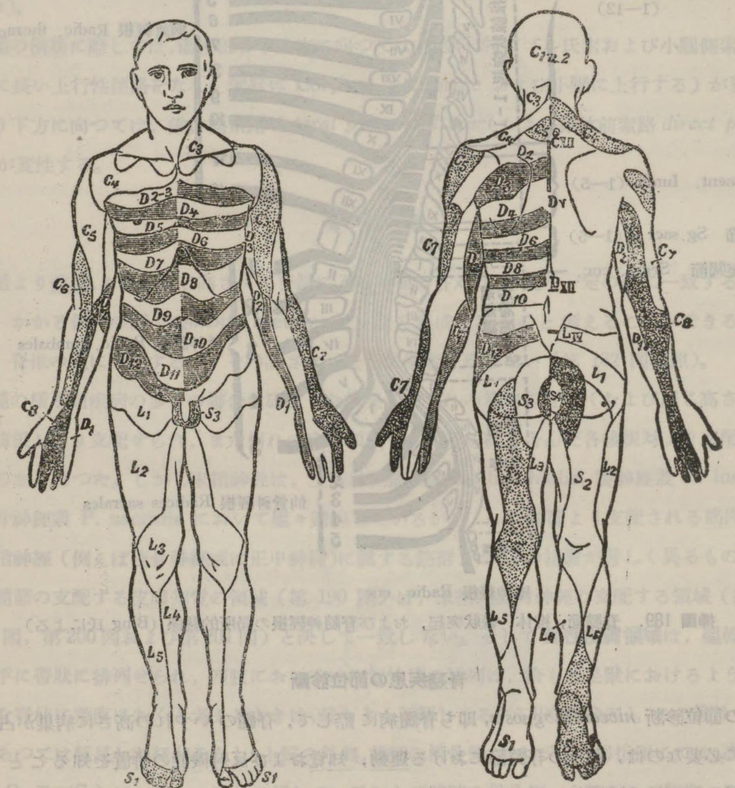
挿圖 189. 脊髄節，椎体，棘状突起，および脊髄神經根の局所的關係（Bing 氏による）

脊髄疾患の節位診断

脊髄の節位診断 *niveau diagnosis*，即ち脊髄病に際して，脊髄のいずれの高さに病巣が占居するかを知るに必要なのは，個々の脊髄節における運動，知覚および反射機能の排置を知ることである（第 189 図および第 190 図並び第 453 頁表を参照）。茲に注意すべきは，或一つの脊髄節より支配せられる皮膚領域は，隣接する両節よりも亦，多少支配せられるから，單に一つの後根対の脱落に際しては，所属皮膚領域は完全に感覚脱失を起すにいたらず，少なくとも一部は隣接する両節よりも支配せ

られうることである。運動機能 *Motility* についても亦，同一の関係があり，一筋，殊に長い筋肉の支配は，常に正確に一つの脊髄節に限局せられないで，却て次の高位もしくは低位の節（前根対）よりも支配せられ，長く延長する筋肉にあつては，多くは若干の節より支配せられるものである。精細な点に関しては，學者の報告および成書の記載が多少異なるのは，この理由による。

全脊髄横断面が崩潰した場合，例えば横断面脊髄炎，或は脊髄腫瘍にあつては，ただ傷害せられた部位の機能が消失するのみでなく，それよりも低部の随意運動および知覚 *Sensibility* も亦侵される。例えば，頸髄中央部の崩潰に際しては，上下肢の麻痺，肩胛以下の感覚障碍，膝蓋現象の亢進，足搐搦 *ankle clonus*，バビンスキー，膀胱および直腸の不随意的排出を來す。また第 5. 胸節の横断性疾患にあつては，脚の麻痺，第 8. 胸椎および乳房位以下の感覚脱失，膝蓋現象の亢進，足搐搦．バビ

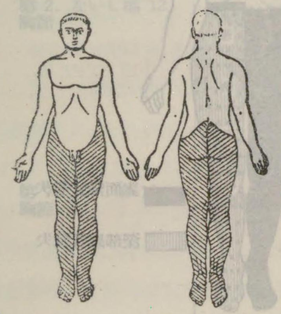


C は頸髄より　　L は腰髄より
D は胸髄より　　S は仙骨髄より

知覚線維を受けることを示す。また数字は節の番號で，例えば，D_2 は第 2. 胸節の分布領域を示す

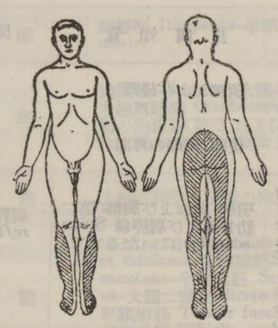
第圖 190. 脊髄節に從つた皮膚知覚の分布（Head 氏による）

ンスキー，膀胱および直腸の不随意的排出を來す。また腰髄中央部の疾患にあつては，脚は麻痺し，膝蓋反射は消失し，足搐搦およびバビンスキーが現われ，臀部・上腿および下腿の感覚脱失，竝に直腸および膀胱の不随意的排出を來す。また仙骨髄の傷害にあつては，部分的脚麻痺がおこり，膝蓋反射は保たれ，「アヒレス」腱反射は消失する。また第 3. および第 4. 仙節（脊髄円錐 Conus medullaris）の崩潰した場合には，脚は麻痺することなく，却て臀部の感覚脱失（所謂 **乘馬袴形感覚脱失** *circum-anal anesthesia*），膀胱および直腸の不随意的排出，竝に肛門反射の消失を來す。脊髄円錐の破壊は，最も屢々外傷によつておこり，例えば高所より落ちて，臀部を打つた時におこる。

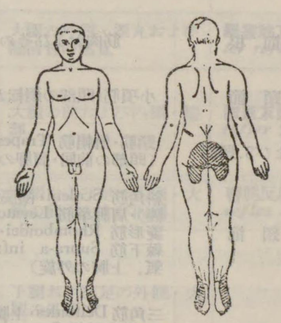


挿圖 191. 第2. 腰節の傷害における知覚脱失領域

かように，脊髄疾患の節位診断にあたつては感覚および運動機能と同時に，脊髄中における反射中枢の位置を知ることが必要である（第 454 および 455 頁参照）。そして，例えば胸髄炎の際に膝蓋反射が消失しているならば，腰髄も亦，同時に侵されているのを知る。但し，外傷などのために，脊髄が急速に重症横断性傷害をうけるときは，傷害部よりも下方に位する反射も亦，一時消失することが屢々ある。



挿圖 192. 第 5. 腰節の傷害における知覚脱失領域



挿圖 193. 第 1. 仙節の傷害における知覚脱失領域

脊髄の偏側損傷

脊髄の偏側損傷 *unilateral lesion*，例えば切断または腫瘍などのために，脊髄の半側のみが中絶せられる時は，所患部位よりも下部にて，同側の痙攣性運動麻痺 *spastic motor paralysis* がおこり，（そこでは腱反射は亢進する），且つ深部感覚（筋覚および関節覚）も亦，傷害側において侵される。これに反して，痛覚および温覚は反対側にて障碍せられ，皮膚の触覚が両側おかされるが，主として反対側において輕度に障碍せられるのが常である（第 410 頁参照）。また傷害の高さでは，進入する

後根線維が破壞せられるために，同側にて一の狹い感覺脫失帶が身体を囲繞する。但し，例えば腫瘍などの際に，後根が刺戟せられるときは，傷害部の高さにおいて屢々感覺過敏帶が現われる。(**ブロン・セカール氏偏側麻痺** *Brown-Sequard's unilateral Paralysis*)。これは感覺路，殊に痛覺および溫覺竝びに大部の触覺を伝達する線維は，脊髓にて交叉するが，運動性錐体路，竝びに深部感覺および触覺を司どる線維の一部は，延髓において交叉するが故である。この脊髓偏側損傷は，外傷，限局性脊髓炎性病巣，腫瘍，或は梅毒性新生物による圧迫などの際におこる。

挿圖 194 ブロン・セカール氏偏側麻痺

脊髓節根	筋肉およびその作用	皮膚知覺	反射
第 1. 頸節	小項筋(頭部の廻転および後屈)	項部および後頭	
第 2.および3.頸節	頸筋・僧帽筋 Trapezius (頭部の前屈・肩胛の挙上)	後頭・頸部の外面	
第 4. 頸節	斜角筋 Scaleni・横膈膜(横膈膜神經)・肩胛挙筋 Levator scapulae 菱形筋 Rhomboidei・棘上および棘下筋 Supra-a. infraspinam(吸氣，上腕の外旋)	項部・肩および胸部(第二肋骨および肩胛棘 Spina scapulae にいたるまで)	肩胛反射 *Scapular reflex*
第 5. 頸節	三角筋 Deltoides・上腕二頭筋Biceps・烏喙腕筋 Coracobrachialis・内腕筋 Brachialis internus・腕橈骨筋Brachioradialis・廻後筋 Supinator・棘上筋および棘下筋(上腕の挙上・前腕の屈曲および廻後	肩および腕の背側・上腕の外側	上腕二頭筋腱反射 *Biceps tendon reflex*
第 6. 頸節	大および小胸筋 Pectoralis major et minor・濶背筋 Latissimus dorsi・大円筋 Teres major・肩胛下筋 Subscapularis・前鋸筋 Serratus anterior・前腕の廻前諸筋 Pronatoren・上腕三頭筋 Triceps(上腕の内転 Adduction および内旋・前腕の伸展および廻前)	上腕の外側および前腕の橈骨側	上腕三頭筋腱反射 *Triceps tendon reflex*
第 7. 頸節	手関節および手指の諸伸筋・手関節の諸屈筋(手関節の屈曲および伸展)	前腕および拇指の外側(橈骨側)	前腕および手の腱反射

第 8. 頸節	手指の長伸筋および長屈筋・拇指球	前腕の中央・手の屈曲面および伸展面の中央	
第 1. 胸節	手および指の小筋(骨間筋・拇指および小指球筋 Thenar et Hypothenar)(第八頸節および第一胸節:拇指および指の運動	第一および第二胸節：上腕および前腕の内側(尺骨側)・小指	C_8 ないし D_9 **交感神經による瞳孔散大**
第 2. ないし第 12. 胸節	背筋・肋間筋	第2ないし第四胸節：第7頸椎および肩胛棘より第5胸椎にいたる背部の皮膚・第2肋骨より乳房の高さにいたる胸部の皮膚	心臓の交感神經 C_8—D_4 胃および小腸の交感神經 C_6—D_8
第 7. ないし第 12. 胸節	背筋 腹筋	第5および第6胸節：第5ないし第8胸椎の背部皮膚・乳房第7より肋骨にいたる胸部皮膚；第7ないし第9胸節：第8ないし第12胸椎背部皮膚・第7肋骨より臍高の高さにいたる腹部皮膚；第10ないし第12胸節：第12胸椎より第5腰椎にいたる腰部皮膚・臍高よりプーパル氏鼠蹊靱帶部にいたる腹部皮膚	膽囊 D_6—D_{10} 結腸 D_{11}—D_{12} **上腹壁反射** 8. a. 9. D. **下腹壁反射** 10-12. D.
第 1. 腰節	最下部の腹筋・腰方形筋Quadratus lumborum・縫工筋 Sartorius 腰筋 Psoas	臀部の外側，および鼠蹊部	膀胱交感神經 L_1
第 2. 腰節	腸腰筋 Ilio-psoas・挙睾筋 Cremaster	大腿の外側・睾丸および輸精管の感覚	**挙睾筋反射** *Cremaster reflex* 1.-3. L.
第 3. 腰節	腸腰筋 Iliopsoas・大腿の内転筋・**大腿四頭筋** Quadriceps および大腿の内旋筋(第2および第3腰節は大腿の屈折，内旋および内転)	大腿の前および内側・膝部	**膝蓋反射** *Patellar reflex* 2.—4. L.
第 4. 腰節	大腿四頭筋(下腿の伸展)	下腿および足の内側・大腿の前面および内側	臀筋反射 *Glutaeal reflex* 4.—5. L.
第 5. 腰節	中および小臀筋 Glutaeus medius et minimus・半膜様筋Semimembranaceus・半腱様筋 Semitendineus・大腿二頭筋 Biceps femoris・大筋膜張筋 Tensor fasciae latae・前脛骨筋 Tibialis anterior(上腿の外転・下腿の屈曲)	下腿および足の外側・大腿の外側？	
第 1. 仙骨節	大臀筋 Glutaeus maximus L_4-S_2 大腿の外旋筋 梨狀筋 Pyriformis 内閉鎖筋 Obturator int. 双子筋 Gemeli 大腿方形筋Quadratus femor. 足の伸展筋(背彎筋)： 前脛骨筋 Tibialis anterior 腓骨筋 Peronei 長趾伸筋 Extensor digitor. longus (大腿の伸展および外旋．足および趾の背屈)	大腿の後側？ 腓腸部の後側・足蹠・足の外緣・趾	足蹠反射 *Plantar reflex* **アヒレス腱反射** *Achilles tendon reflex* L_5—S_2

第 2. 仙骨節	大腓腸筋 (腓腸 Gastrocnemius・ヒラメ筋 Soleus)・長総趾および長趾伸筋および屈筋 Extensores et Flexores digitor. comm. l. et hallucis l.・後脛骨筋 Tibialis posterior・小足筋(足の蹠面屈曲. 趾の屈曲・勃起)	臀部および大腿の後面(乗馬袴形感覚脱失参照)下腿の外側および足の外縁・膀胱および直腸の感覚	アヒレス腱反射 *Achilles tendon reflex* 勃起
第 3. 仙骨節	會陰筋・尿道竝に直腸および生殖器の横紋筋・括約筋(排尿および排便の随意的誘導)	臀部の中央部・會陰・陰嚢・陰茎	射精. 膀胱および直腸 S_2—S_5
第4.および第5.仙骨節竝に尾関節	(排尿および排便の随意的誘導)	肛門の周囲・會陰・肛門	肛門反射 *Anal reflex* S_5

3, 脳 神 經

單獨の脳神經麻痺は，顔面神經麻痺，および眼筋神經麻痺以外は稀である。

1. **嗅 絲** Fila. olfactoria. 嗅覚を檢査するには，臭氣を發して，しかも刺戟しない物質(「エーテル」性油類・「アギ」,「ジヤ」香など）を鼻に接近して，これを嗅入させるがよい。但し，各鼻孔を別々に檢する。

II. **視神經** Fasciculus opticus. 視覚路の解剖的經過については第 436 頁參照。視神經に関して檢査すべきは，視力，視野，色神の他，檢眼鏡による檢査を行う（視神經炎，鬱血乳頭，または視神經の萎縮)。

視神經の萎縮にあつては，乳頭 *Papilla* は，恰も陶器様の白色の外観を呈し，殊に脊髄痨の際の視神經萎縮にあつては，乳頭は明確な境界を示し，血管の狀態は正常である。これに反して，視神經炎後，および脳圧により鬱血乳頭後の萎縮にあつては，乳頭の境界は明確でなく，動脈は狭小し，靜脈は拡大し且つ迂曲している。視神經萎縮の始まりには，色，殊に赤および緑を弁別する力が障碍せられ，且つ視野は不規則に狭小する。ついで重症の視神經萎縮にあつては，視力は減退し，ついには全く盲目となる。

視神經炎 Neuritis optica および鬱血乳頭にあつては，乳頭は腫脹し，境界の不明瞭で，血管は乳頭の辺縁の上を弓狀をして走り，靜脈は「コルク」抜きのように曲折且つ拡張し，動脈は狭小する。視神經炎は，腎臓炎，白血病，多発神經炎，鉛中毒の際に來る。

鬱血乳頭 *choked papilla* にあつては，腫脹した視神經乳頭は，眼球中に「ボタン」狀に突出し，且つ動脈の狭小，竝びに靜脈の怒張および拡張を伴う。これは脳および頭蓋腔の腫瘍の際，竝に一般に脳圧亢進が永続した場合に見られる。

半盲症 *Hemianopsia* については，既に述べた（第 436 頁參照)。

III. **動眼神經** N. oculomotorius. 上瞼挙筋 M. levator palpebrae superioris, 上直筋 M. rectus superior, 内直筋 M. rectus nasalis, 下直筋 M. rectus inferior, 下斜筋 M. obliquus inferior および瞳孔括約筋 M. sphincter pupillae を支配し，且つ毛様神經節 Ganglion ciliare を通つて毛様筋 M. ciliaris に分布する。上直筋は眼球を上方且つ少しく内方に廻転し，内直筋は内方に，下直筋は下方且つ少しく内方に，下斜筋は上外方に廻転する。毛様筋は，水晶体に作用して調節機能 *Accommodation* を営む。

動眼神經麻痺にあつては，眼瞼下垂 *Ptosis*，外斜視，眼瞼挙上時における交叉性の接近した複像，瞳孔散大，および反射消失，調節機能障碍を來す。

瞳孔 *Pupilla* の變化については，第 419 頁參照。

IV. **滑車神經** N. trochlearis. 上斜筋 M. obliquus superior に分布する。この筋は眼球を下外方に廻転する。それ故に，この神經の麻痺に際しては，下方を見るときに，同名側斜位の複像が現われる。

V. **三叉神經** N. trigeminus. 運動線維は，咀嚼筋（即ち咬筋 M. masseter, 側頭筋 M. temporalis, 翼狀筋 M. pterygoidei, 顎舌骨筋 M. mylohyoideus および顎二腹筋 M. biventer の前腹）を支配する。それ故に，三叉神經の運動部が麻痺すれば，咀嚼筋の機能は不能となる。その知覚線維は，顔面および頭部（耳まで）の皮膚に分布し，殊にその第 1.枝は，前額，頭頂の皮膚を頭部の中央にいたるまで，竝びに上眼瞼および鼻梁の皮膚を，第2. 枝は，上唇および頬部の上半を，第 3 枝は，頬部の下半，側頭部の皮膚および頤を支配する。その他 三叉神經は，その知覚線維を以て，角膜 Cornea および結膜 Conjunctiva を支配する[1]。それ故に，その傷害(例えば橋角腫瘍の際には，眼の角膜は感覚脱失し，角膜反射は欠如する（第 419 頁參照)。この他 三叉神經は，口腔，咽頭および鼻腔粘膜，竝に硬脳膜をも知覚線維を以て支配する。それ故に，その傷害にあつては，患者は食物を口腔の一側にて感ぜず，また軟かい羽毛を鼻腔中に挿入しても「クシャミ」をおこさない。また三叉神経より発した舌神經 N. lingualis は，舌の前方三分の二にたいする味覚神經である。但し，味覚線維は，鼓索神經 Chorda tympani より來り，鼓索神經は，膝神經節 Ganglion geniculi と莖乳孔 Foramen stylomastoideum との間にて顔面神經幹より分岐し，弓形をして鼓室 Tympanum を貫通し，そしてグラーゼル氏裂 Fissura Glaseri を出た後，舌神經に達するのである。

味覚檢査法は，舌咽神經の部に述べる（第 456 頁參照)。

VI. **外轉神經** N. abducens. 外直筋 M.rectus lateralis に分布する。それ故に外転神經麻痺にあつては，眼球は外方に運動しえず，從つて麻痺した眼球は内方に向う。また麻痺側を見るときは，非交叉性の複像が現われるが，健康側を見るときには複像を生じない。

VII. **顔面神經** N. facialis. すべての表情 *Mimics* に与る顔面筋を支配し，その外に，なお莖突舌骨筋 M. stylohyoideus および顎二腹筋 M. biventer の後腹にも分布する。

---

1) 三叉神經痛 Trigeminusneuralgie は，について 412 頁參照。
三叉神經の第 2. 枝の神經痛と鑑別すべきは，ハイモル氏洞の疾患であり，また第 2. および第 3. 枝の神經痛にあつては，齒の疾患を注意しなければならぬ。

顔面神經麻痺は，屢々見られ，その際には，麻痺側の顔面は運動せず，鼻唇溝は不明となり，前額は平滑で，皺襞をよせえず，閉眼し難く（兎眼 *Lagophthalmos*），閉眼しようと試みるときは，眼球は上方に向い（ベル氏現象 *Bells' Phenomenon*），口唇も亦動かない。また顔面神經の鼓索にたいする関係より，もし或る傷害が膝狀神經節と鼓索の分岐部との間におこつた場合には，顔面麻痺の傍ら，舌の前方 $^2/_3$ の部分の味覚障碍と，唾液分泌の減少とを來す。

顔面神經の末梢性麻痺にあつては，顔面の上半部も共に麻痺するが，中枢性麻痺（例えば内包における出血時）にあつては，多くは，ただ顔面の下半部のみが麻痺する。これは，顔面の上半部は，両側脳半球より支配せられるからである[1]。

VIII. **内耳神經** N. stato-acusticus：聽力の檢査と，耳鏡による檢査法とを行う。迷路 Labyrinth の中にある三半規管は，空間の三「デメンジョン」，殊に垂直線に体を調整する器官，即ち身体を直立位に保たせる感覚器であるから，ここに傷害があれば，烈しい眩暈および耳鳴の発作，即ち**メニエール氏症狀群** *Complex of Ménières symptoms* がおこり，その際 屢々悪心，嘔吐および脈搏緩徐を伴う。内耳神經の三半規管より發する部分を**前庭神經** N. vestibuli（N. staticus）といい，蝸牛殼より発する本來の聽神經，即ち**蝸牛神經** N. cochleae（=N. acusticus）と区別する。

聽覚過敏 Hyperacusis は，時として顔面神經麻痺，「ヒステリー」，神經衰弱の際に見られる。難聽（重聽）Hypacusis に際しては，原因が中枢（迷路或は聽神經道）にあるか，または末梢（外聽道中，中耳疾患など）にあるかを診定しなければならぬ。後の場合には，神經病学上の価値はない。そして鑑別は，音響の空氣伝導と骨伝導との関係による：

健態にあつては，一音叉を外耳道孔に保持するときは（空気伝導），これを耳後の乳様突起に貼するとき（骨伝導）よりも振顫響を聽く。即ち，骨伝導がすでに消えた時にも，これを外耳道孔におけば，引きつづきなお聽えるものである。これを**リンネ氏試驗** *Rinnes' test* が陽性であるという。もしこの成績が陰性で，即ち骨伝導の方が比較的永く持続するときは，疾患は末梢にあるのであつて，これに反し，難聽があつて且リンネ氏試驗が陽性なのは，中枢疾患の証である。

その他 音叉を頭蓋骨の正中にあてるときは，常態なればその音は左右両耳に等しく聽えるが，一耳に末梢障碍があれば，該音は患耳に発するように思われる（**ウェーベル氏試驗** *Webers' test*）。これに反して，もし健耳にあるように聞えるならば，他耳の疾患は中枢性である。

IX. **舌咽神經** N. glosso-pharyngicus：その味覚線維が，舌の後方 1/3 に分布し（舌の前方にたいする味覚線維について第 456 および 457 頁参照），感覚線維は喉頭を支配する。

味覚を檢査するには，舌を出さして後方 $^1/_3$ の部分に，硝子棒を用いて「キニーネ」，砂糖，食塩，

1) 顔面神經麻痺にあつては，末梢性麻痺と中枢性麻痺とを鑑別することは，臨床上極めて重要である。末梢性麻痺は屢々「ロイマチス」性原因によつて來り，中枢性麻痺は脳溢血後の半身不随に伴つてくることが多い。その際 出血の起る場所により，肢の麻痺側と同側或は反対側が侵される（第 432 頁及 444 頁参照）。

醋などの溶液の滴を落す。この際 舌を後退させてはならない。そして檢査に際しては，甘，酸，鹹，苦の四字を小板に記し，これを患者の眼前において，その味覚はいずれの味であるかを指示させるがよい。そして，各檢査の終る毎に，口腔を水にて洗滌させる。

舌咽神經が，一定の口蓋筋にたいする運動線維を含有するか否かは，未だ確実でない。

X. **迷走神經** N. vagus. 知覚線維を，咽頭，喉頭，食道および胃に分布し，その他 胸腹部の内臓にも線維を送る。

迷走神經刺戟にあつては，脈搏が緩徐となり，この神經が麻痺するときは，脈搏頻数と呼吸緩徐とがおこる。なお迷走神經の中には，口蓋筋および咽頭筋，咽頭並びに食道の感覚および運動を支配する線維が含まれるから，この線維が麻痺すれば，口蓋および咽頭の麻痺，鼻聲，嚥下不能，発聲障碍および聲帶の屍位を招致し（第 191 頁参照），この他 喉頭の感覚および反射は止み，そのために誤嚥をおこす。迷走神經の肺および腹部臓器にたいする分布については，植物性神經系の部を参照（第 467 頁）。

XI. **副神經** N. accessorius. 胸鎖乳様筋 M. sternocleidomastoideus および僧帽筋 M. trapezius の大部を支配する。胸鎖乳様筋は，乳様突起を胸骨に近寄らせ，且つこれを挙上し，その際頤を他側に向つて廻転する。僧帽筋は，肩胛骨 Scapula，殊に肩峯 *Acromion* を挙上するから，この筋が麻痺すれば，肩峯は上腕と共に低下し，肩を挙上する運動が困難となる。

XII. **舌下神經** N. hypoglossus. 舌の運動神經で，頤舌骨筋 M. genioglossus，舌骨舌筋 M hyoglossus，莖突舌骨筋 M. styloglossus，および舌の内筋（即ち頤舌骨筋 M. geniohyoideus，肩胛舌骨筋 M. omohyoideus，胸骨舌骨筋 M. sternohyoideus，甲狀舌骨筋 M. thyreohyoideus，胸骨甲狀筋 M. sternothyreoideus）を支配する。

舌下神經が麻痺すれば，健側の頤舌骨筋および莖突舌骨筋が收縮するために，舌は麻痺側に偏する。末梢性麻痺に際しては，舌の当該半側は萎縮する。

4. 脊髄神経

末梢性脊髄神經の麻痺に際しては，支配する筋肉の機能が脱落するから，これを知りうる。

1. **頸神經叢** Plexus cervicalis（第 1.-4. 頸神經）は，感覚線維を後頭（耳の後方），頸部，および肩胛部より鎖骨にいたるまで，運動線維を深部の頸筋および斜角筋 Mm. scaleni に送る。また第 4. 頸神經よりは，横膈膜の運動を司る**横膈神經** N. phrenicus が出る。

横膈膜 *diaphragm* の麻痺にあつては，呼吸運動は切迫した上胸部呼吸をなし，心窩部は吸氣時に膨大しない。

大後頭神經 N. occipitalis major は，後頭より頭頂部にいたる知覚を司り，その圧痛点は，乳様突起 Proc. mastoideus の後方に存する。小後頭神經 N. occipitalis minor は，耳介ノ後側に分

布してその知覚を司り，大耳神經 N. auricularis magnus は，耳介，顎緣，および側頸部皮膚の知覚を司る。

1. **上腕神經叢** Plexus brachialis（第 5.-8. 頸神經，第 1. および 2. 胸神經）．頸部において膊神經叢の一定の所，即ち第 5. 頸神經根が傷害されるときは，三角筋 M. deltoideus，上腕二頭筋 M. biceps，内上腕筋 M. brachialis internus，上腕橈骨筋 M. brachioradialis および棘下筋 M. infraspinam の運動性麻痺がおこる（**エルブ氏麻痺** *Erbs' Paralysis*）。

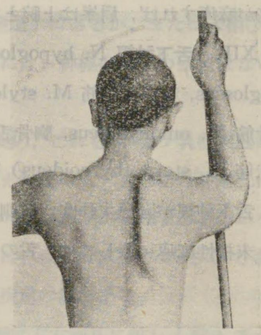
前胸廓神經 Nn. thoracici ventrales は，大胸筋および小胸筋 Mm. pectralis major et minor に分布する。大胸筋は，上腕を内転し且つ前方に低下する（例えば打撃をするとき）。

長胸廓神經 N. thoracicus longus は，前鋸筋 M. serratus lateralis に分布し，この筋は，肩胛骨を固定し，それを廻転させ，且つ肩峯を挙上する。**鋸筋** Serratus の**麻痺**にあつては，上肢はもはや水平を超えて垂直位まで挙上しえない。そして上肢を前方に伸展させるときに，肩胛骨の内緣は肋骨より隔離し，胸廓にたいして翼狀をなす（第 195 図参照）。

肩胛背神經 N. dorsalis scapulae は，菱形筋 Mm. rhomboidi（肩胛骨を内方に挙上し，且つ鋸筋の働作を助ける），肩胛挙筋 Mm. levator scapulae および上後鋸筋 M. serratus posterior superior に分布する。

肩胛上神經 N. suprascapularis の分布する棘上筋 M. supraspinam は，上腕骨頭を肩胛関節にて固定し，上腕を外方に廻転し，且つ三角筋 M. deltoideus の傍ら，膊を挙上することに多少与る。また棘下筋は，上腕を外方に廻転する（例えば書寫，または裁縫するときに）。

肩胛下神經 N. subscapulae の分布する肩胛下筋 M. subscapularis は，上膊を内方に廻転し，大円筋 M. teres major および濶背筋 M. latissimus dorsi は，上腕を胴に引き，且つ（例えば手を仙骨部におくとき）これを後方に引く。そして肩胛骨を下降させ且つ内転する（例えば直立不動の姿勢の時に）。



挿圖 195. 鋸筋麻痺

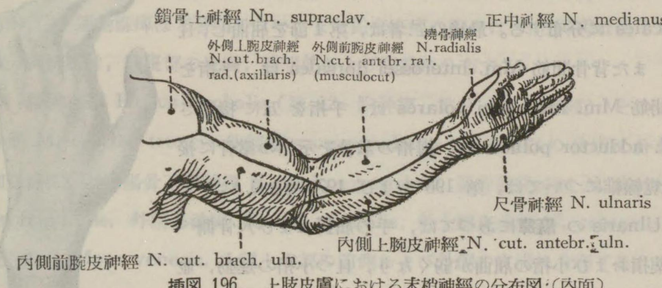
腋窩神經 N. axillaris の分布する三角筋は，上腕を水平位まで挙上する。（上腕を水平以上に高くげるのは，前鋸筋によつて肩胛骨を廻転するによつて行われる）。三角筋 Deltoideus の麻痺にあつては，上腕は弛緩し，胴に接して下垂する。小円筋 M. teres minor は，棘下筋の運動を補佐する。窩神經の知覚線維の分布については，第 196 図および第 197 図参照。

内側上腕皮神經 N. cutaneus brachii ulnaris は，上膊内面の皮膚に分布する。第 196 図および第 197 圖参照。

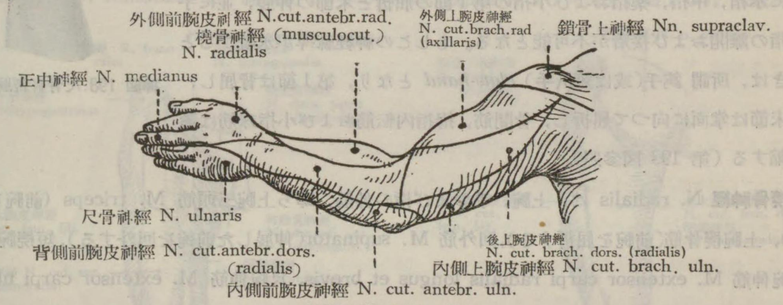
内側前腕皮神經 N. cutaneus antebrachii ulnaris：前腕の内（尺骨）側の皮膚に分布する。第 196 図および第 197 圖参照。

筋皮神經 N. musculocutaneus の分布する上腕二頭筋および内腕筋は，前腕を屈曲し，且つ前者は同時に回内している前腕を回外する。烏喙腕筋 M. coracobrachialis は，挙上した上腕を下方に牽引する。知覚線維は外側前腕皮神經 N. cutaneus antebrachii radialis である。第 196 および 197図参照。

正中神經 N. medianus は，橈腕屈筋 M. flexor carpi radialis，回内円筋 M. pronator teres および回内方形筋 M. pronator quadratus（これ等の筋内の作用は，その名の示す通りである）。



挿図 196. 上肢皮膚における末梢神經の分布図（内面）



挿圖 197. 同上 外面

淺総指屈筋 M. flexor digitorum communis superficialis（手指の第二節 2. Phalanx を屈曲する），深総指屈筋 M. f. d. profundus の橈骨側（手指の第三節を屈折する）および長掌筋 M. palmaris longus に分布する。長拇指屈筋および短拇指屈筋 M. flexor policis longus et brevis は，手指の第一および第二節を屈折する。短外転筋 M. abductor brevis および拇指対立筋 M. opponens pollicis は，拇指を手掌に向つて対立させ，且つ廻転する。知覚線維の分布については，第 196 図および第 197 図参照。

正中神經 Medianus の麻痺にあつては，手の回内および屈曲運動は，殆んど全く停止し，拇指の屈曲および小指対立運動 *Opposition* は不能となる。拇指は伸展狀態において，同時に伸

展した小指の末節に接触しえず，この運動を試みるときは，両指は第2および第3指関節にて屈曲する。また指の第2および第3節における屈曲は不能となるが，これに反して，第1節は骨間筋M. interossei によつて屈曲されうる。患者は物体を拇指，示指，中指にて保持しえず，その結果，例えば書写および裁縫は困難となるが，環指および小指にてこれを掴みうる。これは，後二者の深指屈筋 Flexor profundus は，一部分 尺骨神經より支配せられるからである。また拇指球は萎縮する（**猿手** *Apehand*）。

尺骨神經 N. ulnaris は，尺腕屈筋 M. flexor carpi ulnaris 並に深総指屈筋 M. flexor digitor. comm. profundus（薬指および小指の）小指球筋，骨間筋および虫様筋 Mm. lumbricales に分布する。最後の二者は，第1節を屈曲し，且つ末節を伸展する。また背骨間筋 Mm. interossei dorsales は，手指を互に離開し，掌骨間筋 Mm. interossei volares は，手指を互に接着させる。拇内転筋 M. adductor pollicis は，拇指の掌骨を示指の掌骨に接着させる。その知覚線維については，第 196 および 197 図を見よ。

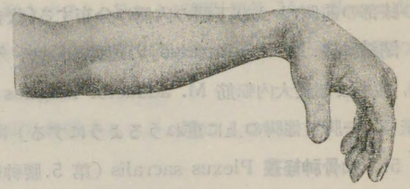
挿図 193. 尺骨神經麻痺

尺骨神經 Ulnaris の **麻痺**にあつては，手の屈折および尺骨側への運動，並に薬指および小指の屈曲が弱くなり，且つ小指の運動，並に示指，中指，薬指および小指の第1節の屈折と末節の伸展，並に手指の離開および接着が不可能となる。もしこの神經麻痺が永続するときは，所謂 鈎手（或は**鷲爪手**）*claw-hand* となり，第1節は背屈し，末節は掌面に向つて屈折し，骨間筋，拇指内転筋および小指球筋は萎縮する（第 193 図参照）。

橈骨神經 N. radialis は，上腕，手および指の伸筋，即ち上腕三頭筋 M. triceps（前腕を伸展する），上腕橈骨筋（前腕を屈折する），回外筋 M. supinator（伸展した前腕を回外する），短橈腕伸筋，長橈腕伸筋 M. extensor carpi radialis longus et brevis，尺腕伸筋 M. extensor carpi ulnaris（手關節の伸筋），総指伸筋 M. extensor digitorum communis，示指および第5指伸筋 M. extensor indicis et digiti quinti（第1節を伸展する），長拇指伸筋 M. extensor pollicis longus（拇指の腕前骨（掌骨）を外方に動し，且つ第2節を伸展する），短拇指伸筋 M. extensor pollicis brevis（第1節を伸展する），長拇指外転筋 M. abductor pollicis longus（拇指を外転する）に分布する。皮膚の知覚神經については，第 196 図および第 197 図参照。上腕の後外側（後上腕皮神經 N. cutaneus brachii dorsalis＝N. cut. br. post. sup.），前腕の背面（背側前腕皮神經 N. cutaneus antebrachii dorsalis＝N. cut. post. inferior），手背の拇指側。

橈骨神經 Radialis の **麻痺** にあつては，手は手関節にて弛緩性に下垂し，手指は僅に屈曲

する。そして手および手指の伸展，拇指の外転および伸展は不能となり，伸展した上腕を回外しえない（但し上腕の屈曲位にあつては，前腕は上腕二頭筋によつて回外されうる）。もし上腕三頭筋も共に麻痺をおこした時は，前腕を伸展しえない（第 199 図参照）。定型的の橈骨神經麻痺は，**鉛毒麻痺** *lead palsy* の際に見られる。但しこの際には，上腕三頭筋および上腕橈骨筋は多くは侵されない。上腕神經が傷害されたときの知覚障碍の範囲は図に示すようであるが，往々運動麻痺ほど著明でない。また鉛毒麻痺の際には，知覚障碍は全くないのが常である。

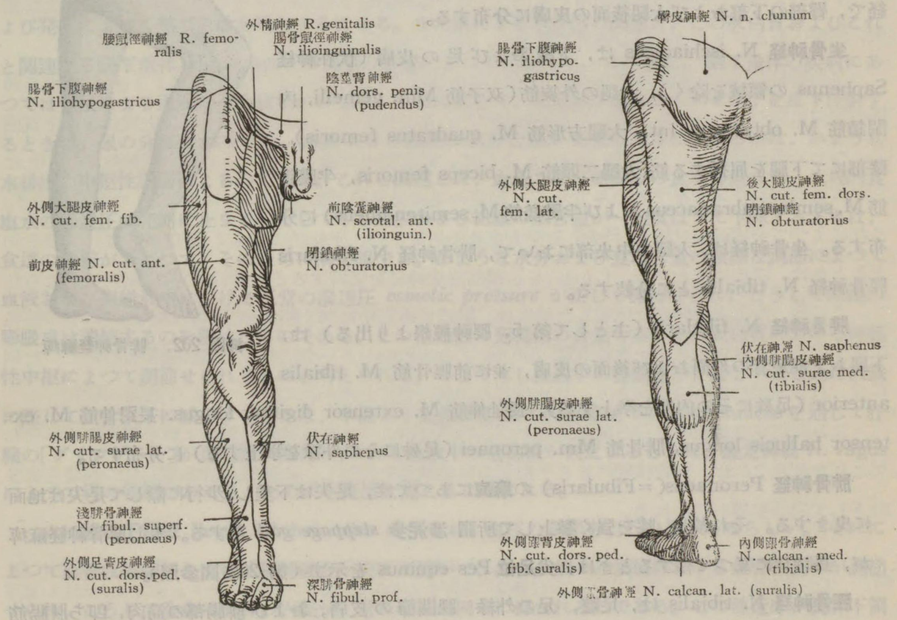


挿図 199. 橈骨神經麻痺

3. **胸神經**は，胸腹部の皮膚，肋間筋および腹筋に分布する。

4. **腰神經叢** Plexus lumbalis（第 12. 胸神經，第 1.-4. 腰神經），その後枝なる運動線維は軀幹伸筋 M. erector trunci＝仙棘筋 sacrospinalis および上臀部の皮膚に分布し，またその前枝なる知覚線維，即ち腸骨下腹神經 N. iliohypogastricus，腸骨鼠蹊神經 N. ilioinguinalis，腰鼠神經 Ramus femoralis，外精系神經 Ramus genitalis，外大腿皮神經 N. cutaneus femoris fibularis は，股，陰阜 Mons veneris，大腿上半部の前側および外側の皮膚に分布する。

大腿神經 N. femoralis は，腸腰筋 M. iliopsoas（股関節および大腿を屈曲する），大腿四頭筋



挿図 200. 下肢の皮膚における末梢神經の分布図（前面）　挿図 201. 同上（後面）

M. quadriceps femoris（下腿を伸展する），縫工筋 M. sartorius に分布し，その知覚枝は，大腿および膝部の前側，および下腿の内側に分布する（伏在神経 N. saphenus）。

閉鎖神経 N. obturatorius の運動線維は，外閉鎖筋 M. obturator ext.，恥骨筋 M. pectineus，短および長大内転筋 M. adductor magnus longus et brevis，大腿薄筋 M. gracilis（大腿を内転し，一脚を他脚の上に重ねうるようにする）に，知覚線維は，大腿の内側に分布する。

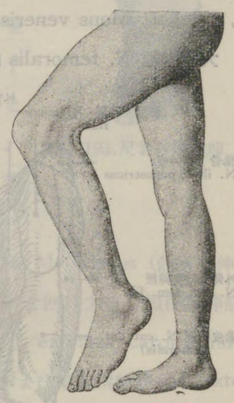
5. **仙骨神経叢** Plexus sacralis（第 5.腰神経，第 1.-5.仙骨神経）は，膀胱，直腸，生殖器，会陰および臀部を，その運動線維および知覚線維を以て支配する。

上臀神経 N. glutaeus cranialis：中および小臀筋 Mm. glutaeus medius et minimus は，脚を外転し，且つ脚の固定時には胴を側方に傾かせ，また歩行時は骨盤を支脚の上に確立し，それによつて胴を眞直に保持し，懸垂する脚の方へ骨盤の低下するのを防ぐ。その麻痺にあつては，歩行に際し骨盤は健康側へ，胴は麻痺側へ傾き，また兩側性麻痺に際しては，蹣跚狀歩行 *waddling gait* をする。梨狀筋 M. pyriformis は脚を外転し，大腿筋膜張筋 M. tensor fasciae latae は大腿を屈曲し，且つ内方に廻転する。

下臀神経 N. glutaeus caudalis：大臀筋 M. glutaeus maximus は大腿を強く後方に伸展する。例えば階段を上るとき，直立時，または跳躍するとき。

後大腿皮神経 N. cutaneus femoris dorsalis は，純粹の知覚神経で，臀部の下部および大腿後面の皮膚に分布する。

坐骨神経 N. ischiadicus は，下腿および足の皮膚（伏在神経 Saphenus の領域を除く），大腿の外旋筋（双子筋 Mm. gemelli，内閉鎖筋 M. obturator. int.，大腿方形筋 M. quadratus femoris），膝部にて下腿を屈折する筋（大腿二頭筋 M. biceps femoris，半膜様筋 M. semimembranaceus および半腱様筋 M. semitendineus）に分布する。坐骨神経は，大腿の中央部において，腓骨神経 N. fibularis 脛骨神経 N. tibialis とに分岐する。



挿図 202. 腓骨神経麻痺

腓骨神経 N. fibularis（主として第 5. 腰神經根より出る）は，下腿および足背の外面および後面の皮膚，並に前脛骨筋 M. tibialis anterior（足殊にその内側を挙上する），長趾伸筋 M. extensor digitor. longus. 長踵伸筋 M. extensor hallucis longus，腓骨筋 Mm. peronaei（足殊にその外縁を挙上する）に分布する。

腓骨神経 Peronaeus（=Fibularis）の麻痺にあつては，足尖は下垂し，歩行に際して足尖は地面に曳きずる。それ故に，膝を強く挙上して所謂 **涉泥歩** *steppage gait* をする。もし腓骨神経麻痺が，長時日に亙つて存するときは，**尖足位** Pes equinus を示す（第 202 図参照）。

脛骨神経 N. tibialis は，足蹠，足の外縁 踝関節の皮膚，および腓腸部の筋肉，即ち腓腸筋

M. gastrocnemius およびヒラメ筋 M. soleus（「アヒレス」腱によつて足を伸展する），後脛骨筋 M. tibialis posterior（足を内転し且つ足の内縁を挙上する），長および短趾屈筋 Mm. flexor digitorum longus et brevis，長および短蹠屈筋 M. flexor hallucis longus et brevis 並に足蹠の諸筋に分布する。

脛骨神経 Tibialis の麻痺にあつては，足を蹠面に伸張すること，趾によつて起立すること及び跳躍することは不能となる。

内陰神経 N. pudedalis internus は，肛門，会陰，陰唇，陰莖および陰嚢の皮膚（但し睾丸および輸精管の知覚は，第 5. 腰節より支配せられる），尿道および膣の粘膜，その他骨盤底の諸筋，横紋性尿道縮圧筋 Compressor urethrae および外肛門括約筋 Sphincter ani externus に分布する。

5. 植物性（自律）神經系

植物性中樞

第三脳室 Ventriculus tertius の**中央灰白質**の中には，重要な生命現象の調節を司どる若干の神経細胞群が存する（第 414 頁参照）。まず体温が，その正常の高さに正しく保持せられるのは，中枢よりの興奮によつて，寒冷にあつては熱の発生が増加し，体温上昇に際しては，末梢性血管の拡大および発汗によつて熱の放散が増加するによる。また尿による水排出の調節は，この灰白質およびこれと関連する脳下垂体 Hypophyse の後葉の影響によつて行われる。それ故に，脳下垂体の疾病にあつては，尿による過度の水分排出がおこり，これに反して，正常脳下垂体の「エキス」を皮下注射するときは，尿の分泌は減少する。血液および組織の水分含量が正常の高さに止まるのは，かような水排出の中枢性調節によるのである。これと関連して，血液および組織液の食塩含量も亦，生理的食塩水の滲透圧の範囲に止まる。そしてもし血液および組織の水含量が一定度以下に下降するときは，食道の收縮がおこつて，そのために渇を感ずる。かような水分および食塩含量の微細な調節によつて血液および組織液中における正常の滲透圧 *osmotic pressure* が正しく保持せられ，こうして細胞の膨脹或は萎縮するのを避けうるのである。この他血液の葡萄糖の含量も亦，中央灰白質における神經性中枢によつて調節せられるものと考えられる。そしてもし血液中の含糖量が，著しい消費或は飢餓に際して正常以下に減少するときは，中枢より交感神経，殊に内臓神経 N. splanchnicus を通じて肝臓の「グリコゲーン」が葡萄糖に変化し，なおも血液中の葡萄糖が欠乏するときは，迷走神経 N. vagus によつて胃の收縮がおこり，ために空腹感を覚えるようになる。

次に視牀**下領域** Regio subthalamica の中には，血圧の調節を行う中枢があるらしい。それによつて血管收縮神経と血管拡張神経とが交互に働いて，身体の個々の領域における血管の広さが調節せられ，こうして全身の血管の内腔が，常に殆んど同一に保たれるのである。この他近來，視牀下領

域および視牀 Thalamus より，覚醒と睡眠との調節が行われるものと認められる。

これらの生命に必要な中枢より，経路は**延髄** Medulla oblongata に走行する。そしてその所の植物性核の中には，同様に呼吸，心臓機能，水-，食塩- および糖含量の調節を司どる中枢が存するものと想像せられる。例えば，**菱形窩** Fossa rhomboides を損傷するときは，内臓神経をへて肝臓「グリコゲーン」の動搖がおこつて，そのために尿中に糖が現われ，また水および食塩の排出も延髄より影響せられる。

植物性(自律)神経系 *visceral(autonomous)nervous system* は，交感神經系 *sympathetic n. s.* および副交感神経系 *parasympathetic n. s.* よりなる。

交感神経系

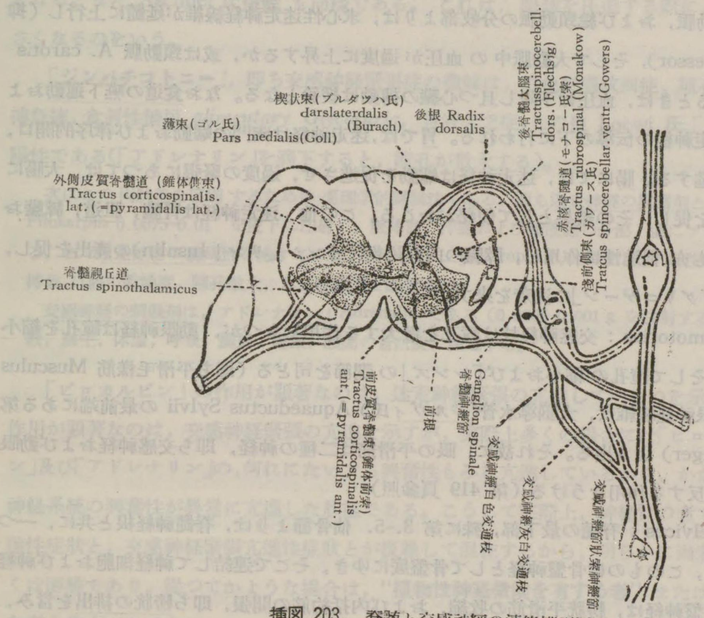
大脳および延髄の植物性中枢より出る径路の一大部分は，脊髄の中を通つて，その最下端にまで達する。この経路の中，第一胸節以下においては，脊髄灰白質の前柱と後柱との間の角中，並に側柱の中にある一定の神経細胞群と連結する。これらの神経細胞群よりは，有髄性の白色交通枝 Rami communicantes albi が前根 Radix ventralis と共に脊髄を出で，交感神経の節狀索の神経節にいたる。**交感神経節**の神経細胞よりは，無髄性(灰色)の神経線維が出て，このものは灰色交通枝 R. c. grisei として脊髄よりでる神経に接し，混合神経の中を通つて体内のすべての器官に達する。その外このものの大部分は動脈の血管鞘中を走行し，血管運動神経 *Vasomotor* として，血管の狹小および拡大，汗腺[1] およびその他の腺の機能を媒介し，竝びに皮膚の立毛筋をも支配する。

星狀神経節 Ganglion stellare，およびそれと関連する節狀索の最下頸神経節よりは，頸部交感神経が頭部に向つて上行する。そしてその経過中に，この神経は，なお第二および最上頸神経節を貫通し，ついで内頸動脈 A. carotis interna と共に，頭蓋腔内に進入する。そこで，脳機能の変化に応じて血管運動作用を呈するのみでなく，眼窩の毛様神経節 Ganglion ciliare にまで線維を送り，これによつて交感神経は瞳孔 *Pupil* を散大する作用をもつ。それ故に，もし頸部に疼痛性刺戟を加えるときは，瞳孔は拡大する。しかし，もし頸部交感神経を切断するときは，この疼痛反射はおこらない。この他　頸部交感神経を破壊した後には，眼球は眼窩中に深く陷没し，眼裂は狹くなり，且つ瞳孔は縮小する。これを**ホルナー氏症狀群** *Horner's syndrome* という。なお交感神経傷害のおこつた側には，血管運動神経の障碍があり，且つ顔面の半側に發汗が現われる。

なお頸部交感神経の三つの神経節および星狀神経節より，交感神経は肺および心臓にゆく。そしてこれを刺戟すれば，氣管枝壁にある平滑筋の收縮狀態を抑制し，心臓働作は加速し且つ强盛となり時として期外收縮が現われる。

1) 発汗の神経による支配狀態は，動物(犬，猫，馬，人類)によつて，かなり相違している。例えば，馬では，猫・人などと異なり，「ピロカルピン」にては軽度に発汗するのみで，却つて「アドレナリン」により甚だしい発汗を來す。

腹部臓器にゆく交感神経線維は，**内臓神経** Nervi splanchnici として脊髄より出で，そして第 6.-9. 胸節の高さにおいて節狀索より出る。その大部分は太陽神経節 Ganglion solare 或は**腹腔神経節** G. coeliacum と称えられる(胃の下にて大動脈の前に存する)大きな神経節にゆく。この腹腔神経節の中には迷走神経線維も亦進入する。それ故に，それより出る神経線維については，もはや解剖的



挿図 203. 脊髄と交感神經の連絡模型図

に迷走神経に属するか，或は交感神経より出るかを区別しえない。

腹部器官においても亦，交感神経の作用は迷走神経の作用に相反し，即ち腹部器官および腸の血管にたいしては血管收縮性に作用し，且つ胃，幽門，腸および胆汁排出には收縮抑制的に作用する。この他　交感神経は腎臓機能および「グリコゲーン」の形成を抑制する。しかし交感神経は「グリコゲーン」の糖に変化することを加速し，且つ副腎中における「アドレナリン」の産出を盛んにする。

大動脈の前壁において，殊に下腸間膜動脈 A. mesenterica caudalis の分岐する高さでは，"大動脈前神経節" があり，このものは腰髄の節狀索よりくる線維を受納する。この最下神経節よりは，膀胱および生殖器に抑制線維を送る。

副交感神経系[1]

副交感神経系なる名称の下に總括せられるのは，迷走神経，鼓索神経 Chorda tympani，動眼

1) 次頁欄外参照

神経，および骨盤神経の中を走行する線維で，多くは交感神経と拮抗的に作用する。なお近來脊髄よりも，副交感神経線維が後根を通つて出ることが知られた.(呉)。

迷走神経 Vagus：延髄の菱形窩の底部にある植物性中枢より，一部の線維は迷走神経を通つて胸腔および腹腔内の器官にゆく。これを刺戟すれば，胸腔においては気管枝は收縮し且つ心臓搏動は緩徐となる。また大動脈，および総頸動脈の分岐部よりは，求心性迷走神経線維が延髄に上行し（抑制神経 Nervus depressor），そして大動脈中の血圧が過度に上昇するか，或は頸動脈 A. carotis に器械的圧迫を与えるときは，血圧は下降し且つ心臓の搏動は緩徐となる。なお食道の嚥下運動および噴門の拡張は，迷走神経の伝導の下に行われる。胃では，迷走神経は幽門の蠕動および律序的開口，並に胃液の分泌を促進する。腸にては，迷走神経は蠕動を促進させ，過度の緊張にあつては，大腸に持続的の痙攣性收縮を促し，その結果として便秘がおこる。この他　迷走神経は腎臓，胆道，膵臓および肝臓にたいしても亦，促進性に作用し，膵臓の内分泌物(「インシュリン」Insulin)の産出を促し，且つ肝臓内における「グリコゲーン」の沈着を來す。

動眼神経 Oculomotorius：交感神経枝は瞳孔を散大する作用をもつが，動眼神経は瞳孔を縮小させる作用がある。そして瞳孔の縮小および「レンズ」の調節を司どる（即ち平滑毛様筋 Musculus ciliaris にゆく）動眼神経線維は，大脳導水管(ジルヴィ氏) Aquaeductus Sylvii の最前端にある第三脳神経の核（Edinger）より出る。それ故に，眼の平滑筋は二種の神経，即ち交感神経および動眼神経によつて互に相反する作用をうける（第 419 頁参照）.

骨盤神経 N. pelvicus：脊髄の最下部，殊に第 3.-5. 仙骨節よりは，脊髄神経根と共に，一つの神経束の網が出て，このものは骨盤神経として骨盤底にゆき，そこで連結して神経細胞および神経の網をなす。この骨盤神経は，膀胱平滑筋の收縮，および内括約筋の開張，即ち膀胱の排出を営み，且つ陰茎の勃起をも司る。

植物性神経異常徴候のある者，または植物性神経の不安定な者

交感神経と副交感神経系とは，多くは拮抗的に相反する作用を呈し，交感神経と副交感神経との緊張が変化することによつて，瞳孔，心臓機能，血管の広さ，膀胱または腺機能などの精微な調節が行われるものである。

もし副交感神経の影響が勝つときは，**迷走神経緊張症** *Vagotonia* といい，交感神経が勝つときは**交感神経緊張症** *Sympathicotonia* という。

1) Loewi 及 Dale の研究によると，副交感神経末端においては「アセチル・ヒョリン」のすべての性狀を備えた一つの化学的物質が游離せられて，その媒介により効果器官において特有な反応が起るものであり，交感神経の興奮も，一つの化学的物質，即ち「アドレナリン」か，または「アドレナリン」に近似する「ジンパチエン」によつて，効果器官に伝播せられるものである。玆において，交感性および副交感性なる概念は，末梢性神経末端に関する限りにおいては，「アドレナリン」効果性 *adrenergic* 及び「ヒョリン」効果性 cholinergic なる新らしい概念と，よく符合するわけである。

「**ワゴトニー**」，即ち迷走神経緊張症の徴候としては，次のような症狀がある。即ち，心搏緩徐，呼吸性不整脈，胃腸管の機能亢進，便秘，および気管枝痙攣（気管枝喘息 Asthma bronchiale），尿中には屢々多量の燐酸塩および蓚酸塩が出で，血液像は「エオジン」好性細胞増多症 *Eosinophilia* を示す。この他　Tschermak **氏圧迫試験**，即ち頸動脈を圧迫すれば心搏緩徐となることも亦，その証となる。また Aschner **氏徴候** も同様である。これは，眼球を圧迫する際に，脈搏が緩徐に且つ小さくなるのをいう。

「**ジンパチコトニー**」，即ち交感神経緊張症の徴候は，白色皮膚紋画症，瞳孔散大，眼球突出，心搏急速，食餌性糖尿 *alimentary Glycosuria*，胃液欠乏症，この他 Loewi **氏「アドレナリン」試験**が陽性である(「アドレナリン」を滴下すると，瞳孔が散大する)。

次にこの両狀態を区別するための薬理学的試験法もある。即ち迷走神經の興奮剤としては，「ピロカルピン」Pilokarpin 0.0075–0.01 を皮下に注射し，脈搏数，汗腺および唾液腺の分泌，並にアシュネル氏試験に注意する。また迷走神経の麻痺性を検するには，「アトロピン」Atropin 0.0005–0.001 を注射し，そしてその際　脈搏数，口腔の乾燥度，瞳孔散大，および体温を顧慮する。

交感神経の刺戟剤は，「アドレナリン」Adrenalin である（0.0005–0.001 g を注射する）。そして注射後，脈搏数，血圧，体温，呼吸，震顫，糖尿，顔面の蒼白度に注意する。

「ピロカルピン」の作用が顕著なのは，迷走神経緊張の亢進しているのを示し，「アドレナリン」の作用が顕著なのは，交感神経緊張の亢進を示すが，実際上多くの場合には「ピロカルピン」，「アトロピン」及び「アドレナリン」の，何れにたいする興奮性もみな亢進しているから，かかる狀態は，全植物性神経系統の興奮性が異常に亢進した狀態である。こうして実際上，神経質の者では，迷走神経緊張亢進性症狀と，交感神経緊張亢進性症狀とが複雑して混在するから，明らかに両者を区別することは多くは困難であり，從つてかような場合は，**"植物性神経徴候を有する者"** または **"植物性神経不安定な者**と称うべきである。

交感神経および副交感神経の中には，血管および内臓にいたる遠心性徑路が走行するのみでなく，体内器官の感覚を司る求心性刺戟も走行する。体内器官よりの感覚刺戟は，僅少な場合にのみ意識に達するもので，即ち，主として胃，腸，胆嚢，膀胱，および血管の平滑筋が，疝痛 *Colic* に際して痙攣性に收縮する場合にのみ意識せられる。しかし，この求心性徑路は若干の**内臓反射** *visceral reflex* をも媒介する。そして一部は，すでに腸および膀胱の神経，および神経細胞網の中，即ちこれらの器官の壁内神経系 *intramural n. s.* の中において媒介せられるが，屢々脊髄内にも媒介せられる。

交感神経，および特に血管運動神経は，**榮養機能**をも有する。動脈が極度に收縮すれば，該領域の血液供給は著しく傷害せられ，甚だしい疼痛の下に組織の假死 *Asphyxia* および遂には死滅を來す。**レーノー氏病** *Raynaud's disease* とは，指または趾の左右対照的貧血 *symmetric Anemia* をいい，指は屍体のように蒼白となり，遂には甚だしい疼痛の下に死し，即ち指の尖端は壞疽 *gangrene* に陥るようになる。この他　椎間神経節並に半月狀神経節 Ganglion semilunare の炎症にあつては，屢

々当該知覚性皮膚神経の終末分布領域に，**帯状匐行疹** Herpes zoster を生ずる。これは恐らく神経節を通つて走行する交感神経線維が，同時に傷害せられるために發生するらしい。

主な脳，脊髄及神經疾患の症候

脊髄癆 Tabes dorsalis[1] 以前に変性梅毒性疾病 *metasyphilitic disease* といわれた慢性の經過を示す疾病で，脊髄の後索 Fasciculus dorsalis および 後根 Radix posterior が，種々な高さ，および拡がりにおいて変性し，傍ら，多くは個々の脳神経，およびその核の変性をみとめる。症狀：種々な節において痛覚脱失 *Analgesy* または感覚脱失 *Anaesthesia* があり，これは最も屢々足および下腿，胴の帯狀帯，竝びに上腕および手の内側（1.及び 2.胸節）に現われる。また胴には冷覚過敏または帯狀感 *girdle sensation*(絞めるような感）が現われ，この他 電撃痛 *lancinating pain* を特に脚に訴え，なお痛覚の伝達は遲滯する。また深部感覚の障碍が，特に脚に現われ，時としては手にも現われて，運動失調 *Ataxia* を來す。即ち運動失調性の踏みつけるような歩行をなし，閉眼すれば身体は動搖する（ロンベルグ氏現象 *Romberg sign*)。膝蓋反射 *patellar reflex* および「アヒレス」腱反射は消失し，且つ反射的瞳孔強直 *reflexstiff Pupill* を示し（しかし，調節の際における瞳孔縮小は保存せられる），左右の瞳孔の大さは不同で（瞳孔不同症 *Anisocoria*)，この他 眼筋麻痺，視神経萎縮，膀胱障碍が現われ，屢々疼痛性嘔吐の發作（胃発症 *gastric crisis*）をおす。また脊髄癆性関節病 Arthropathia tabic., 即ち膝，足または肘関節に重症の畸形性病変を起すことが稀でなく，その際に疼痛を覚えないのが特有である。腰椎穿刺により脳脊髄液 Liquor をえて檢すると，多くは蛋白含量は軽度で，細胞の増加を示す。ワッセルマン氏反応は脊髄液竝びに血液中に多くは陽性であるが，陰性な場合も少なくない。

脊髄炎 Myelitis. 種々な伝染性中毒性原因によつておこり，多くは原因不明である。その際 不完全または完全な横断脊髄炎 Myelitis transversa の病狀を呈することが稀でなく，時としては，偏側麻痺 の病狀を呈する（第 452 頁參照)。横断脊髄炎の症狀は，病変の高さによつて種々である[2]。（節位診断の部，第 453 頁參照)。

頸髄炎 Myelitis cervicalis：両脚の痙攣性麻痺 *spastic Paraplegia*, および侵された頸節の支配領域に，弛緩性の変性-萎縮性麻痺がおこり，安全な横断面の炎症にあつては，病巣以下の完全感覚脱

1) 多くは初期に 3 つの主要症狀，即ち反射的瞳孔強直，脚における反射消失，並びに種々な感覚障碍を示す。
2) 急速に両側麻痺が現われて，知覚障碍および運動麻痺が，上方に向つて明確な境界を示すならば，横断脊髄炎と認めてよい。その際 診断上，並びに節位決定にとつて重要なのは，知覚障碍の上界を確定することである。
播種性脊髄炎Myelitis disseminata にあつては，脱落症狀がひろがるが，横断性病型 の 場合ほど著明でない。

失をおこすが，多くは部分的感覚脱失を見る。なお膀胱および直腸障碍がおこる。

胸髄炎 Myelitis dorsalis：大体上記と同一の症狀を呈するが，上肢は全く侵されない。

腰髄炎 Myelitis lumbalis：両脚の弛緩性麻痺 *slack Paraplegia* をおこし，皮膚および腱反射は減弱或は消失する。膀胱および直腸障碍がある。

以上，いずれの病型にあつても，褥瘡 *Decubitus* を生じやすい。

結核性脊椎炎 Spondylitis tuberculosa（結核性脊髄「カリエス」*tuberculous vertebral Caries*). これは脊髄の圧迫麻痺（圧迫性脊髄炎 *Compression myelitis*）の最も多い原因である。この際には脊柱は短かい領域において，屢々角狀後彎 Gibbus を示すが，しかし一つ或は数多の棘狀突起の軽度の隆起を示すことも往々ある。かかる際には，自働および他働運動の外，所謂衝圧時疼痛を検するがよい。特有なのは，すべての胴の運動に際し，患者は脊部を硬くして，脊柱を庇護することである。この他，勿論 脚の腱反射をも検査しなければならぬ。また寒性膿瘍より，流注膿瘍を形成することが屢々あるから，診断に当つては，これをも注意しなければならぬ。

筋萎縮性側索硬化症 *Amyotrophic Lateralsclerosis*：本病は欧洲には稀有であるが，本邦では比較的屢々見られる。本病は，全錐体路 *Pyramidal tract*（側索および前柱に変性を起す慢性進行性疾病で，その病狀は，次に述べる脊髄性進行性筋萎縮症，進行性球麻痺，および痙攣性脊髄麻痺の融合して，新たな疾病單位をなすものと考えうる。即ちその症狀としては，上肢には筋萎縮および腱反射の亢進があり，下肢には痙攣性不全麻痺 *spastic Paresis*がおこる。萎縮の存する所には筋線維攣縮 *fibrillary twitch* をみとめる。また屢々球麻痺をおこす。本病は，純運動系統の疾病であるから，知覚および膀胱機能並に瞳孔反射はおかされない。

脊髄性進行性筋萎縮症 *Spinal progressive muscular atrophy*. 脊髄の前角細胞が変性に陥り，前根の変性を伴う慢性疾病である。最初に萎縮，ついで麻痺が，多くは手筋に始まり(Type Duchenne-Aran)，拇指球および小指球筋は萎縮し（鷲手 *claw-hand*)，ついで萎縮は，上腕および肩胛部におよぶ。萎縮した筋肉には筋線維攣縮をみとめる。また病変は，屢々徐々に上行して球麻痺おこす。本病は，筋萎縮性側索硬化症の筋萎縮成分と考えることができる。知覚・膀胱機能および瞳孔反射はおかされない。

進行性球麻痺 *Progressive bulbar paralysis*. 延髄 Medulla oblongata の運動性核が，徐々に進行性変性に陥る。口唇，舌，口蓋および喉頭は，萎縮および麻痺に陥るために，言語は不明瞭となり（構語障碍 *Dysarthria*)，後には了解し難く，單調となり，嚥下は困難となり，咽頭および口腔の閉鎖は不充分となる。また声帯閉鎖は不完全なために，力強く咳嗽をなし得ない。知覚および膀胱直腸の障碍は，おこらない。本病は，脊髄性筋萎縮症，或は筋萎縮性側索硬化症に続発し，または，それに先立つて發生することがある。

痙攣性脊髄麻痺 *Spastic spinal paralysis*：錐体路の傷害のために，脚に痙攣性不全麻痺 *spas-*

tic Paresis の徴候を示し（腱反射の亢進，搐搦 *Clonus*，バビンスキー氏徴候），定型的な痙攣性麻痺性歩行をする。膀胱および知覚障碍はない。本病は，筋萎縮性側索硬化症の痙攣性成分と考えることができる。

急性脊髄前角炎 Poliomyelitis anterior acuta（脊髄性小児麻痺 *spinal infantile Paralysis*，ハイネ・メデン氏病 *Heine-Medin's disease*）．伝染病の部，第363頁参照）。

進行性筋萎縮症 Dystrophia musculorum progressiva. 脊髄性筋萎縮症に反し，筋肉自己の疾病による萎縮で，この際には，脊髄はおかされない。遺伝性疾病で，多くは小児或は幼年期に始まり，経過は頗る慢性である（小児或は少年型 *infantile or juvenile Typ*）。病変は，好んで肩，骨盤および下肢の筋肉をかす。時として侵された筋肉，特に腓腸筋は，假性肥大を示す。電気変性反応は欠如し，筋線維攣縮も見られない。

脳および脊髄の多発性硬化症 Sclerosis multiplex, 本病は，欧洲には屢々見られるが，本邦には極めて稀である。脳および脊髄中に多数の硬化性病巣が不規則に散在する。好んで幼年および中年者をおかし，定型的の場合には企動震顫 *Intention tremor*，眼球震盪症 *Nystagmus*，断綴性言語 *scanning speech* があり，且つ下肢には痙攣性麻痺の徴候（搐搦，バビンスキー，オッペンハイムなど）が多くは顕著で，しかも腹壁反射は欠如する。知覚および膀胱障碍は起らないこともあるが，屢々存在する。眼底には，視神経の乳頭の側頭半側が蒼白となる。経過は慢性で，症候は変化を示す。

脊髄空洞症 *Syringomyelia*. 脊髄および延髄の灰白質における空洞形成で好んで，頸髄をおかす。通常手および上腕，並に肩胛部に筋萎縮がおこり，皮膚には栄養障碍があり，触覚は障碍せられないか，または僅かに侵されるのみであるが，温覚および痛覚は消失する。そのために，屢々指に化膿，火傷および損傷がおこる。またホルナー氏症狀群を示すことが稀でない（第416頁参照）。この他病巣が延髄または橋に達するときは，個々の脳神経（三叉神経，迷走神経．舌下神経）の運動および知覚障碍がおこる。

脳出(溢)血（卒中）*Apoplexy*，および**脳軟化** *Encephalomalacia*. 出血および軟化（栓塞 *Embolism* または凝塞 *Thrombosis*）[1] は，殊に内包 Capsula interna の部に起りやすい。急激に意識喪失に陥つて半身不随（偏癱）*Hemiplegia* をおこし，時としては顔面神経も同時におかされる（第433頁参照）。麻痺側には，結膜反射，角膜反射および腹壁反射は屢々消失し，これに反して，膝蓋反射 *Patellar reflex* は多くは亢進し，屢々バビンスキー，オッペンハイム及び足搐搦を示す（但し，発作の直後には腱反射はなくなる）。右側の麻痺にあつては，屢々言語もおかされ，運動性および感覚性失語症を伴う（第438頁参照）。昏睡に陥つた際には，眼は屢々病巣側への強迫位を示す（共同偏視 Déviatio conjuguée）。往々欠損を貽して治癒し，且つ拘縮 *Contracture* をおこし易い。

脳脊髄膜炎 Meningitis cerebrospinalis（第360頁参照）。

1) 脳栓塞 *Cerebral embolism* なる診断を下すためには，一般に原疾患（心臓弁膜病！）を証明することが必要である。また血管の疾病は，梅毒性であるか否かの原因を闡明することが実際上頗る主要である。
鑑別上卒中様の発作は，すべての脳疾患，殊に進行性麻痺（麻痺性痴呆）の際にもくることを注意しなければならぬ。

結核性脳膜炎 Meningitis tuberculosa. 特に屢々小児および幼年者に見られ，往々他の臓器に結核を証明しうる。不規則な弛張熱を発し，脈搏は，往々緩徐にして不規則，顔面は蒼白で，昏迷，嗜眠に陥り，意識は著しく溷濁して，屢々譫妄 Delirium を発する。頭痛，嘔吐，頸部強直 *stiff-neck*，ケルニッヒ氏徴候 *Kernig's sign*，腹部陥没の外，屢々脳神経症狀が現われる。脊髄液の圧は高く，これを放置すると，線維素網を折出し，その内に結核菌を証明しうべく，且つ液の蛋白含量は増加し，沈渣中に淋巴球をみとめる。多くは死に終る。

流行性脳炎 Encephalitis epidemica（**嗜眠性脳炎** E, lethargica）．傳染病の部（第360頁）参照。

脳震盪 Commotio cerebri. 急激に暴力が頭蓋の上に作用することによつて，数分ないし数日間無意識となり，脈搏緩徐を伴い，嘔吐を催す。覚醒後は，逆行性健忘症 *retrograde amnesia* があつて，往々事故のおこる二三分前のことを記憶しない。もし個々の体部に麻痺があるならば，血管破裂或は脳挫傷のために，限局性脳傷害をおこした為である（**脳圧迫** Compressio cerebri または**脳挫傷** Contusio cerebri）。

蜘蛛膜下出血 *Subarachnoid hemorrhage*. 屢々外傷性破裂によつておこるが，外傷以外の原因，即ち動脈血圧亢進症または梅毒，或は不明の原因によつても起る。通常急激に頭部或は頸部の激痛にて始まり，大きな号叫と共に，意識を失つて倒れ，または假性脳膜炎，全身痙攣，嘔吐のような刺戟症狀が病狀を支配する。腰椎圧は常に亢進し，且つ脊髄液 Liquor は，多少とも血液性なるによつて，診断を下しうる。

脳腫瘍 Tumor cerebri（頭蓋腔の腫瘍）．一般症狀と局所症狀とを区別する。一般症狀としては，重症の頭痛[1]，嘔吐，時としては全身痙攣，鬱血乳頭 *choked papilla*，頭蓋の叩打痛，鈍なる顔貌，精神的障碍があり，遂には昏迷に陥る。局所症狀は，運動性，知覚性および特に感覚性障碍よりなる。例えば，前頭脳腫瘍にあつては，嗅覚脱失 *Anosmia*，後頭葉傷害にあつては半盲症 *Hemianopsia*，小脳腫瘍の際には眩暈の外，時として眼球震盪症および小脳性運動失調 *cerebellar ataxia* が現われる。なおその際指示試験を行うがよい。橋角腫瘍 *cerebelo-pontile angle*（主なのは聴神経の腫瘍）にあつては，一側性の聾があつて，結膜反射の消失を伴い，且つ小脳症狀を示す。また脳下垂体 *Hypophysis* の腫瘍にあつては，両側頭半盲症 *bitemporal hemianopsia*，並びに時として骨発育の障碍（尖端肥大症など），または脂肪分布の障碍（肥胖性生殖器発育不全症）を示し，且つ往々糖尿があつて煩渇を伴うか，または多尿があり，生殖機能がおかされる。

頭蓋のレントゲン撮影によつて，時として腫瘍に相当する部分に，骨の隆起または菲薄を認めうる。即ち，硬脳膜 Dura の腫瘍にあつては，骨壁の肥厚，脳下垂体腫瘍にあつては，「トルコ」鞍 Sella

1) 患者が長い間頭痛を訴える場合には，脳腫瘍を疑わねばならぬ。殊にその際頭蓋内圧力の増加による症狀が加わるならば，益々脳腫瘍が疑わしい。腫瘍の際における頭痛は，激甚且つ頑固で，或る間歇をおいて反復し，且つ脳性嘔吐（胃の充満狀態に無関係である）を伴う。この他脈搏緩除，および鬱血乳頭の証明は診断上重要である。鑑別的には，脳梅毒に疑をおいて，血液および脊髄液の検査を怠つてはならぬ。

turcica の拡大および鞍背の侵蝕をみとめうる。また脳室 *Ventricle* およびその周囲の性狀は，脳造影法 *Encephalography*（腰椎穿刺などにより，空気を吹入した後に，脳室のレントゲン検査を行うこと）によつて知られる。

脊髄の腫瘍 Tumor medullae spinalis[1]. 多くは脊髄外性で，初めには節に相当して，疼痛，知覚障碍，並に萎縮性麻痺がおこり，ついで，続發的に伝導路が傷害せられるようになれば，下肢の痙攣性麻痺，および膀胱障碍をおこす。最上節の脱落症狀によつて節位診断をなし得る。但し皮膚の感覚鈍麻または感覚脱失は，多くは傷害の場所よりも 2 節だけ低位を示すから，むしろ感覚過敏 *Hyperaesthesia*（後根の刺戟症狀）に重きをおくがよい。更にこれを第 189 圖と比較することにより，脊髄の傷害部は，脊柱のいずれの棘狀突起 Proc. spinalis に相当するかを定め，手術的に切開しうる。

なお脊髄腫瘍の位置を確定するには，下方より腰椎穿刺によつて 1-2 ccm の，比重の軽い上行性の 6 %「ヨード」化油（「ヨヂピン」Jodipin，または「リピオドール」Lipiodol）を蜘蛛膜嚢の中に注入し，または上方より後頭下穿刺によつて，比重の重い下行性（40 %）の「ヨード」化油を注入し，レントゲン検査を行つて，脊椎管のいずれの高さに「ヨード」の陰影が達するかを定めうる（脊髄造影法 *Myelography* 第 62 頁参照）。

なお脳脊髄液の，脊髄の蜘蛛膜腔の中における自由な交通が中絶せられる疾患，即ち脊髄または脊柱の圧迫性腫瘍並びに脳膜炎性癒着にあつては，**クエッケンステット氏症狀** *Queckenstedt's Symptom* を証明しうる（第 422 頁参照）。即ち，頸静脈を圧迫すると脳室の中の圧力が上昇すべき筈であるが，これを腰椎穿刺によつて証明しえない。

この他 脊髄腫瘍の際，または神経系の中における出血の後には，脊髄液が黄褐色を呈することが稀でない（**黄色調** *Xanthochromia*）。

脳膿瘍 *Cerebral abscess.* 診断は，1）原因（外傷，中耳炎，栓塞 *Embolism*）[2]，2）種々な強さの一般症狀（頭痛，眩暈，嘔吐），3）不規則な弛張熱，4）血液中における白血球増多症 *Leucocytosis* および左方推移の證明，5）局所症狀によるが，これは局所によつて種々であり，時としては全く欠如する。なお近來は，脳穿刺（Neiβer）によつて診断を確定する。鬱血乳頭は，脳腫瘍の際ほどに著明でない。

脳脊髄梅毒 Lues cerebrospinalis. 主として 2 つの病型として現われる。（第一）は，急性或は慢性経過を示す脳および脊髄膜炎 Meningitis として來り，時としては肥厚して「ゴム」腫性腫瘍を形成する。症狀としては，激しい頭痛を訴え，特に夜間に著しい。また眼筋麻痺，視力障碍，眩暈，顔

1) 脊椎の腫瘍は，殆んど常に転移性癌腫で好んで，乳癌，前立腺癌などより出で，殆んど常に全身骨骼癌の部分症狀をなし，激甚な自発痛または圧痛を発する（第 50 頁参照）。
2) 脳膿瘍の診断上，最も重要なのは，既往症である。また鑑別すべきは，脳膜炎，梅毒などである。それ故，すべての脳脊髄疾患に際しては，一応梅毒を考慮する必要がある。

面神経その他の麻痺をおこし，並びに脊髄による症狀，即ち運動失調 *Ataxia*，知覚および運動障碍，緊張減退，腱反射の消失，または屢々亢進を見る。その症狀は，経過中に著しく変化するのが特有である。疑わしい場合には，駆梅療法の奏效するによつて，診断を確定しうる。

脊髄液 Liquor は，多くは陽性ワッセルマン反応を呈するが，血液のワ氏反応は屢々陰性である。なお脊髄液は，淋巴球増多を示し，且つノンネ氏またはパンデイ氏反応が陽性である。

（第二）は，梅毒性動脈内膜炎 Endarteriitis syphilitica の形となつて現われ，この際には，動脈内膜は増殖して，屢々完全な血管閉塞をおこす。その症狀としては，脳軟化のために不全單癱 *Monoparesis*，または半身不随 *Hemiplgia* がおこる。なお梅毒性脳および脊髄疾患の際には，頗る屢々瞳孔強直をみとめる。脊髄癆 Tabes および進行性麻痺 Paralysis は，脳脊髄梅毒の特別の型に属する。

進行性麻痺 Paralysis progressiva（麻痺性癡呆 Dementia paralytica）. 以前に，脊髄癆と共に変性梅毒性疾患と考えられたもので，精神症狀と，種々な神経脱落症狀とが併發するによつて診断を下しうる。即ち瞳孔は強直を示し且つ左右不同であり，膝蓋反射は変化し，多くは減弱するが，亢進することも稀でない。構語性言語障碍があり，綴は不明瞭となり，綴を誤まり，舌が廻らず，吃り且つ澁滯する。また書字は不規律となつて震え，且つ文字を誤まる。この他 発作的に麻痺（卒中との鑑別を要する!），痙攣または昏睡に陥る。精神領域においては，智能および道德的欠陥があり，判断力は減退し，記憶力は消失し，計算の障碍，誇大妄想および錯覚があり，感情は鈍麻して，屢々沈鬱に陥る。

ワッセルマン氏反応は，血液および脊髄液に，殆んど例外なく陽性である。

眞性癲癇 *Geine Epilepsia.* 発作は，屢々一定の知覚症狀（前兆 Aura）を呈した後，喚叫および全身の強直を以て始まり，多くは呼吸筋も侵されるために，呼吸は停止して，「チアノーゼ」を呈する。患者は顚倒し，ついで広汎性の間代性痙攣 *clonic cramp* を発する。この際に，患者は往々舌を咬み且その他の外傷をおこしやすい。痙攣が止んだ後も，患者は一定時なお深い意識喪失の狀態に止まり，しかる後に精神朦朧として覚醒する。瞳孔反応は，発作時および往々その後 短時間は消失する。患者は，発作について全然記憶しない（完全な健忘症）。かかる大発作の外，眞性癲癇にあつては，小発作を見ることがある。この際には，患者は二三秒間或は二三分間意識を喪失し，しかも痙攣をおこさない（軽症癲癇 Petit mal, 放心 Absence）。

この他 脳皮質の運動性部位をおかす疾病[1]にあつては，罹患または刺戟をうけた脳皮質部に相当する筋群に，間代性痙攣が始まる。例えば，病巣が右側の中心前回 Gyrus praecentralis の下部に存するときは，まず左側顔面筋に痙攣がおこり，更に運動性皮質中枢の排列に從つて，その所より左上腕および左脚におよぶ。そして，もしこの際 痙攣が他の半身に移行するときは，初めて人事不省に

1) この所謂 症候性癲癇 *symptomatic Epilepsia* と眞性癲癇との鑑別は，必ずしも容易でない。

陷る。この皮質よりおこつて,規則的に経過する全身痙攣を**ジャクソン氏皮質癲癇** *Jacksonian Epilepsia* という。

震顫麻痺 Paralysis agitans (パーキンソン氏病 *Parkinson's disease*)[1]。本病は,大人および老人に來る。震顫は緩慢で(一秒につき 5-6 回の振動を示す),屢々律序的運動,例えば丸薬を調製し,または貨幣を計算するような運動をなし,随意運動をすると微弱となる。多くの場合には,著明な筋強剛 *muscular rigidity* があり,その結果として假面様顔貌を呈し,体は前屈する姿勢をとり,身体を前方または後方に向つて衝くときは,立ち止まることが出來ない(前方突進 Pro-または後方突進 Retropulsion)。経過は慢性で,数十年におよぶ。

ウィルソン氏病 *Wilson's disease* および假性硬化症 *Pseudosclerosis*. この両疾患にあつては,共に線狀体 Striatum における変性と肝硬変症とを示す。ウィルソン氏病は屢々家族的に発生し,全身の筋強直と同時に,運動減退がある。また假性硬化症にありては,震顫が著明で,この場合にも,構語障碍,および嚥下困難がある。なお屢々強迫失笑,および強迫啼泣を示し,精神薄弱となる。また角膜 Cornea の辺緣部に色素環を生ずる。この他 いずれの場合にも,肝硬変症の症狀が現われる。

小舞踏病 Chorea minor. 好んで 5-15才の小兒,殊に少女に見られ,関節「ロイマチス」および心内膜炎と原因的関係がある。多くの場合には,前に精神的および肉体的不安があつて恐怖を感じ,食慾不振,時として衰弱および四肢痛を覚える。ついで患者は,全く理由なしに顔を歪め,絶えず手,上腕または脚の,短かい急速な,衝くような運動をする。数カ月の中に治癒するが,再発しやすい。

ハンチントン氏舞踏病 *Huntington's Chorea*. 本病は,遺伝病として,通常 30-45 才の間に潜行性に始まり,重症な舞踏病狀攣縮と共に,精神的薄弱を示す。

重症假性麻痺性筋無力症 Myasthenia gravis pseudoparalytica. 本病にあつては,筋肉が異常に速かに疲労しやすいのが特有である。即ち,本病は顔面筋の衰弱,眼瞼下垂 Ptosis,嚥下困難,および言語障碍に始まり,これらの筋肉を少しく使用すると,疲労して全く使用しえなくなる。四肢の筋肉にも,往々速かに疲労が現われ,時としては全く麻痺する。また長時間持続的に強い感伝電気を以て刺戟すると,電気的興奮性の減退をみとめ,急速に疲労する(筋無力性反応 *myasthenic Reaction*)。本病者は,数週或は数年後には常に死し,その際 神経系には,毫も解剖的変化をみとめない。

トムセン氏病 *Thomsen's disease*(先天性筋強直症 Myotonia congenita). 筋肉を強く働かせた後に,收縮した筋肉が再び直ちに弛緩せず,收縮狀態から,極めて徐々に再び弛むのが,本病の特徴である。例えば,手にて物を固く握るときは,徐々に且つ努力しなければ再び開きえない。或は眼を固く閉ぢるときは,直ちに再び開きえない。それ故に,すべての運動は,初めは徐々に辛うじて行われる。しかしそれを反復して行うときは,運動は容易となり,ついに正常となる。

本病にあつては,筋肉の器械的興奮性が亢進すると同時に(打敲する際),強い感伝電気にて筋肉を刺戟するときは收縮は異常に長くつづく。またこれを強い平流電気で刺戟する時にも,筋肉は閉鎖

1) 流行性腦炎後に見られる「パーキンソニスムス」との鑑別は,既往症による。

攣縮に際し,直ちに再び弛緩しないで,收縮は二三秒間持続し,しかる後に,徐々に,再び弛緩狀態に復帰する。平流電気を筋肉上に固定的に作用させると,律序的な波狀收縮が現われ,收縮は陰極より陽極に向う(**エルブ氏筋緊張性反応** *myotonic Reaction*, MyR, Erb)。

フリードライヒ氏運動失調 *Friedreich's Ataxia*. 通常遺伝的素質の上に発生し,往々数人の兄弟姉妹が同様におかされる。これに脊髄性型と小腦性型とを区別しうる。(1) 脊髄性型にありては,特に脚および胴,時としては手に,重症の運動失調がおこつて歩行はよろめき,倚坐および起立は不安定で,瞳孔強直を示し,腱反射は欠如し,眼球震盪症,凹足,並びに時としては筋萎縮症の型に属する筋萎縮をみとめる。解剖的には,後索の変性を証明する。(2) 小腦性型(Pierre Marie)にあつては,視神経の萎縮があり,重症の運動失調を,特に歩行時,起立時および倚坐時にみとめる。患者は,意思薄弱ないし白痴である。解剖的には,小腦が小さく且つ皮質の萎縮をみとめる。

多發神経炎 Polyneuritis. 原因は,鉛,砒素,「アルコール」の慢性中毒,伝染病(「ヂフテリア」)を経過したこと,強度の寒冒などである。初めには,全身狀態の違和,発熱.疼痛,四肢の感覚異常を覚えることが稀でない。急性ないし亞急性に四肢に麻痺が現われ,反射は消失する。皮膚には感覚過敏腓腸部には圧痛があり,後には通常四肢の末端部に,感覚鈍麻または脱失を來す。膀胱障碍は,純粋な多発神経炎の病狀には属しない。経過は慢性であるが,多くは良好である。重篤な場合には,嚥下障碍,心臟および呼吸障碍がおこる。

ランドリー氏麻痺 *Landry's Paralysis*. 亞急性に経過し,多くは死に終るところの上行性弛緩性麻痺で,多くは伝染性多発神経炎に基因する。

坐骨神經痛 Ischias. 坐骨神經の神経痛(神經炎 Neuritis)で,腰部に疼痛があつて,膝および足に放散する。ラセグ氏症狀 *Lasègue's Symptom* があり(第412頁參照),定型的の圧痛点は,臀部,大腿の中部,腓骨小頭に存する。慢性の場合には,時として「アヒレス」反射が消失する。鑑別を要するのは,腰痛 Lumbago,股関節炎 Coxitis で,疑わしい場合,特に婦人では,直腸内または腟内検査を行うことが必要である(仙骨の「カリエス」,子宮後屈,小骨盤内腫瘍)。なお両側性坐骨神経痛は,往々糖尿病の際にも見られる。

三叉神経痛 *Trigeminus*—および肋間神経痛 *Intercostal neuralgia* については(第413頁參照)

顔面神經 Facialis-, **橈骨神經** Radialis-, **尺骨神經** Ulnaris-, **腓骨神經の麻痺** Peroneus=Fibularis-*paralysis*などについては,既にそれぞれ脳および脊髄神経の部に述べた(第455頁,參458照)。

機能的神經症

神経病の診断にあたつては,常に器質的神経病と,機能的障碍(所謂「ノイローゼ」*Neurosis*,特に神経衰弱および「ヒステリー」)とを区別しなければならぬ。

神經衰弱 *Neurasthenia*, は,"過敏性衰弱"で,即ち異常に興奮しやすく,且つ容易に疲勞し,劣

弱感，気分の不安定（主として不機嫌および疾病妄想症 *Hypochondria* の傾向）を示すのが特有である。患者の訴えは，頗る多様で且つ変化を示す。その主なものは，頭痛，眩暈，不眠，発汗，動悸，心臓痙攣，食慾不振，胃部の圧感および胃痛，便秘，生殖機能の障碍などである。そして，これらの症狀は，感情によつて著しく変化する。腱反射は多くは亢進し，眼瞼は振動し，皮膚紋画症を示す。これに屢々内因性または外因的誘因によつて，一時性に現われる消耗型（困憊感性神経衰弱症）*exhaustion form* 体質性神経衰弱 *constitutional neurasthenia* とを区別する[1]。

「ヒステリー」*Hysteria.* 症狀は，1）持続的に存する症狀，即ち「ヒステリー」性標徴 Stigmata hysterica と，2）「ヒステリー」性発作とに二大別しうべく，且その精神狀態を知るを要する。主要症狀をあげると，各種の感覚障碍（半身感覚脱失 *Hemianaesthesia*, 散在性または帯狀感覚障碍），求心性視野縮小，味覚および嗅覚障碍，無声 *Aphonia*, 一種固有の嚥下障碍（「ヒステリー」球 Globus hystericus），震顫，「チック」*Tic*, 痙攣，「ヒステリー」発作 *hysteric attack*（癲癇様，しかし全然意識を失うにいたらず，瞳孔障碍がなく，舌をかまず，尿および便を排出しない），号叫-，笑-，および写字痙攣，呼吸頻数発作，歩行障碍（起立不能-歩行不能 *Astasia-Abasia*），拘縮 *Contracture*, 麻痺（驚愕麻痺）などである。なお角膜反射は，屢々減退或は消失し，また咽頭反射も欠如する。しかし器質的障碍の際に現われるような病的反射（例えば，バビンスキー），膀胱直腸障碍，電気変性反応は現われない。この他"「ヒステリー」性格"が存在し，身体的症狀は，精神内失調の表現と認むべきである。強い疾病観念が自己暗示性と相俟つて，身体の症狀が現われるのである。心理学的分析によると，往々"疾病でありたい"という希望，および疾病症狀を固持しようとする傾向（"疾病への逃避"）がある。また多くは，或る程度まで芝居風のことをする傾向がある。

1）神経衰弱および「ヒステリー」と鑑別すべきは，特に脳梅毒，脳腫瘍 Tumor cerebri, 進行性麻痺 *progressive Paralysis*, 癲癇 *Epilepsia*, 多発硬化症などである。

急性中毒表

無機性毒

毒物の種類	症狀	療法
一酸化炭素（CO）および燈用ガス	眩暈・頭痛・胃部圧感・嘔吐・眼華閃発・瞳孔の散大および反応消失・耳鳴・恐怖感・筋衰弱・麻痺・皮膚の著しい潮紅・失神・假死・嗜眠・全身痙攣・糖尿・蛋白尿・血液中一酸化炭素「ヘモグロビン」，後発病：皮膚發疹・膀胱および直腸麻痺・褥瘡・神經症および精神病	新鮮な空気または酸素の吸入，人工呼吸，「ロベリン」注射・瀉血し，次で輸血・食塩水注入・興奮剤
「クロル」Chlor：1）塩素「ガス」	烈しい咳嗽・「クシャミ」・呼吸困難・口，鼻，眼より粘液漏出・虚脱・「チアノーゼ」	新鮮な空気・重曹＋食塩水または水蒸気吸入・瀉血・時として気管切開
2）塩素水	口腔および咽頭粘膜の刺戟・「クロル」臭ある物の嘔吐。	亜硫酸「ソーダ」の稀薄水溶液の内服・卵白液・粘液性飲料・牛乳・胃洗滌
3）塩素酸「カリ」（塩剤）Kalium chloricum	嘔吐・下痢・呼吸困難・「メトヘモグロビン」血による皮膚粘膜の灰青色・黄疸・「メトヘモグロビン」尿（黒褐色尿）・乏尿 *Oliguria*・昏睡・痙攣・心臓麻痺	胃洗・洗腸・多量の液体（茶・リンゲル液の靜脈内注射または食塩水注入）。「ピロカルピン」（皮下）・氷塊・興奮剤
「ブロム」Brom：「ブロム」蒸氣	呼吸器粘膜の刺戟・咳嗽・窒息発作・昏迷・頭痛・粘膜の黄色・嘔吐・下痢・昏睡	新鮮な空気・水蒸気の吸入
「ヨード」Jod：「ヨード」溶液および「ヨードアルカリ」	口腔及び咽頭中の灼熱・鼻「カタル」・呼吸障碍（喉頭浮腫）・嘔氣・胃痛・嘔吐・頭痛・眩暈・「ヘモグロビン」尿或は無尿・痤瘡 *Acne*	胃洗・葛湯・蛋白・氷・興奮剤
無機酸：1）硫酸 H_2SO_4	口腔・咽頭・食道および胃粘膜の腐蝕・初め白色，後に黑色の痂皮・嘔吐・小脈・体温下降・昏迷・蛋白尿および血尿	軽度の場合には胃洗滌・卵白・油，後には水・牛乳・煆製「マグネシア」・白墨または石灰（壁）の浮游液・興奮剤または麻酔剤
塩酸：HCl	口腔および咽頭の腐蝕・「ヂフテリア」様白色痂皮・血液混和物の嘔吐・蛋白尿・血尿	同上
3）硝酸 HNO_3	口腔および咽頭の腐蝕・黄色痂皮・嘔吐・舌腫脹・尿停滞・便秘	同上
醋酸（酢の素＝80%醋酸）	口腔・咽頭・喉頭および食道入口の腐蝕・純白な痂皮・嘔吐	牛乳・水・「マグネシア」・胃洗滌
苛性「カリ」および苛性「ナトロン」	接触部の腐蝕・深部の腐蝕・痂皮の破壞液化・嘔吐	稀薄な植物酸（醋酸・「クエン」酸）・氷塊・氷水・粘液性煎剤・「コカイン」（局處麻酔）・阿片剤
アンモニア NH_3	粘膜腐蝕・白色痂皮・口内疼痛・嘔吐・流涎・呼吸困難・痙攣・眩暈・麻痺	弱い有機酸（醋酸または「クエン」酸の稀薄液）・卵白・牛乳・油類・粘滑剤，時として気管切開
燐（猫いらず）	暗處にて光を發する物の嘔吐・腹痛・下痢・血便・子宮出血・皮膚出血・熱・蛋白尿・数日の後黄疸および急性黄色肝萎縮の症狀	反復胃洗滌（獣炭を加える），時として1‰過「マンガン酸カリ」液にて胃洗滌・吐剤（硫酸銅）・葡萄糖液注射・硫苦（禁忌：すべての脂肪・「ヒマシ」油・牛乳）。

砒素 砒素剤	「コレラ」樣吐瀉・肢暈・頭痛・虛脫・麻痺・心臟衰弱。慢性中毒：多発神経炎性麻痺，色素沈着(砒素沈着症)	胃洗滌・時として吐剤・獸炭・煖製「マグネシア」・「ヒマシ」油・生理的食塩水の注入・葡萄糖注射．强心劑；「サルバルサン」中毒には 10%「チオ」硫酸「ソーダ」5-10 cc の靜注
硝酸銀 Argentum nitricum	口腔腐蝕・白色痂皮・乾酪樣塊(AgCl)の吐出・腹痛。慢性中毒：銀沈著症 (皮膚の灰色)	胃洗・食塩(少量)・卵白・牛乳・氷片
銅 (綠青及硫酸酸化銅)	局所腐蝕・鉱味・綠色塊の吐出・疝痛・血便下痢・裏急後重・黃疸・肢暈・痙攣・麻痺	多量の溫湯の飲用・吐剤・胃洗・卵白・牛乳・煖製「マグネシア」・獸炭
鉛化合物 (鉛丹・鉛白・鉛糖・「クロム」鉛鉱)	軽度の接触部腐蝕・灰白色塊の嘔吐・流涎・口腔炎・暗色の歯齦・劇烈な胃痛・血便後に便秘。 慢性鉛中毒：鉛毒疝痛・鉛毒性歯齦灰色変性・貧血・動脈硬化症・萎縮腎・麻痺(橈骨神經麻痺)・鉛毒性脳疾患 Encephalopathia saturina 赤血球の斑点	吐剤・胃洗・下剤・硫酸「ソーダ」・硫酸「マグネシウム」・卵白・牛乳・疝痛には「カルシウム」剤の注射・塩化「アンモン」の内服・後には「ヨードカリ」
水銀 1. 腐蝕剤(昇汞・沃化第二水銀)	口腔粘膜の腐蝕・强い鉱味・血塊嘔吐・血便・結腸炎 Colitis・流涎・口腔炎・無尿・蛋白尿・虛脫 慢性中毒：震顫 Tremor	胃及び腸洗滌・「ヒマシ」油・大量の牛乳または卵白液・木炭・煖製「マグネシア」，5-10%「チオ」硫酸「ソーダ」液の靜注
2. 緩和剤(甘汞・灰白水銀軟膏・沃化第一水銀)	口腔炎・胃炎の症狀・下痢	含嗽・利尿の催進
「クロム」化合物	触接部腐蝕・黃赤色の痂皮・嘔吐・下痢・血尿を伴つた腎臟炎・呼吸困難・失神・痙攣	胃洗・重炭酸「ソーダ」・炭酸「マグネシア」
硫化水素 硫化「アルカリ」 暗渠瓦斯	結膜および上気道の刺戟症狀・頭痛・肢暈・嘔吐戟刺・下痢・全身痙攣・失神	新鮮な空気・人工呼吸・興奮剤。豫防：暗渠汚水溜所の通気或は綠礬(硫酸第一鉄)液混和

脂肪屬炭素化合物

	症狀	療法
「ベンヂン」	頭痛・肢暈・虛脫(剖見上，肺実質に强度の出血がある)	新鮮な空気・人工呼吸・胃洗
炭化水素 (沼氣・石油產物)	酩酊樣狀態・肢暈・「チアノーゼ」・心臟衰弱・痙攣・嘔吐・胃痛・乏尿 *Oliguria*	新鮮な空気・人工呼吸・石油を飲んだ場合には胃洗・吐剤・下剤
硫化炭素	麻醉・顏面蒼白・青唇・瞳孔散大・体溫下降・呼気の「ニンジン」樣臭気・肢暈・頭痛	新鮮な空気・人工呼吸・刺戟藥
「アルコール」	酩酊・失神・瞳孔散大および反応消失・呼吸緩徐で停滯・小さい頻数脈・体溫下降，時として運動失調 *Ataxia*	胃洗滌・冷水灌注・人工呼吸・「カンフル」時として「ロベリン」
「メチルアルコール」	嘔吐・腹痛・肢暈感・麻痺・視力障碍・黑内障 *Amaurosis*・虛脫・呼吸障碍	胃洗・多量の液体飲用による利尿增加・濃厚な「コーヒー」・興奮剤
「クロロホルム」	嘔吐・興奮・瞳孔縮小，ついで散大・運動性不安・麻醉・心臟麻痺	新鮮な空気・人工呼吸・心臟「マッサージ」・「カンフル」・時として「アドレナリンの靜注
「ブロモホルム」	酩酊・麻醉・「チアノーゼ」・瞳孔縮小・呼吸障碍・不規則な頻数脈・虛脫	胃洗・「カンフル」・人工呼吸

「ヨードホルム」	不眠・嘔吐・心臟衰弱・肢暈・沈鬱・恐怖感・錯覚・思想混乱および興奮・虛脫	利尿增加(多量の液体・利尿剤)・食塩水の皮下注入・監視
「スルホナール」及び「トリオナール」	嗜眠・亞急性または慢性中毒では，頑固な便秘・「ボルフィリン」尿	微溫湯注腸・人工呼吸・「カフェイン」
「バルビタール」(及びその他の「バルビツール」酸誘導体＝溶性「バルビタール」，「フェノバルビタール」，「カルモチン」(「ブロムラール」)など	嗜眠・昏迷・肢暈感・輾転反側・嘔吐・四肢冷却・瞳孔反応消失・「チアノーゼ」・呼吸麻痺・「ボルフィリン」尿	(時として獸炭を加えて)胃洗滌・興奮剤(「カンフル」，「アミノコルヂン」「カルヂアゾール」など・人工呼吸
抱水「クロラール」	嗜眠・昏迷・「チアノーゼ」・呼吸緩徐・昏睡・心力減弱・体溫下降	胃洗滌・人工呼吸・「ストリキニーネ」，「カルヂアゾール」，「カフェイン」注射・皮膚に芥子泥
蓚酸	接触部腐蝕(白色痂皮)・嚥下困難・嘔吐・虛脫・「チアノーゼ」・瞳孔散大・呼吸緩徐・呼吸困難・高度の蛋白尿・無尿 *Anuria*・嗜眠・痙攣	特効藥として10%塩化「カルシウム」または「グルコン」酸「カルシウム」の靜脈内注射・白墨または石灰水・胃洗滌・牛乳・卵白・氷片・阿片劑・興奮剤
「シアン」化合物 (「シアン」化水素・青酸「カリ」)	窒息発作・呼吸困難・瞳孔散大・「チアノーゼ」・間代性强直性痙攣・全身麻痺・青酸臭のある呼気	吐剤(「アポモルヒネ」)・3 % 過酸化水素水を加えた水にて胃洗滌・「メチレン」青または「チオ」硫酸「ソーダ」の靜注・人工呼吸・興奮剤
「ニトログリセリン」	脈搏頻数・顏面潮紅・頭痛・蒼明・耳鳴り・悪心・嘔吐・腹痛・麻痺・呼吸困難・虛脫・血尿および糖尿	胃洗滌・興奮剤特に「カンフル」・人工呼吸

芳香屬炭素化合物

	症狀	療法
「ニトロベンツォール」	顏面及び皮膚の灰青色(「メトヘモグロビン」血による)・苦扁桃樣臭を帶びる呼気・頭痛・倦怠・嘔吐・失神(瞳孔縮小)。後には昏睡・瞳孔散大・不規則な小脈・全身痙攣 *Convulsion*・牙関緊急 *Trismus*	胃洗滌・洗腸・塩類下劑(油剤は不可)・輸血・人工呼吸・瀉血・强心剤(「アルコール」は不可)
「アニリン」 「アンチフェブリン」 「フェナセチン」	体溫下降・皮膚，口唇および口腔粘膜の蒼白色(「メトヘモグロビン」血による)・呼吸困難・心悸亢進・頭痛・全身痙攣・血色素尿(黑褐色尿)	新鮮な空氣・酸素吸入・胃洗滌・塩類下剤强心剤
石炭酸及び「リゾール」	接触部腐蝕・嘔吐・石炭酸(「リゾール」)の臭気・痙攣・昏睡・心臟衰弱・瞳孔縮小・角膜および膝蓋反射消失・暗綠色尿。尿は「グルクロン」酸のために左旋する。「エーテル」硫酸の增加	石灰水または煖製「マグネシア」を加えた水で胃洗滌・牛乳・卵白水・輸血・人工呼吸

植物質

	症狀	療法
「茸中毒」 1) 「ヘルベル」酸中毒(「シヤグマテングダケ」Helvella esculenta など)	急性胃腸炎・黃疸・血色素尿(腸性菌中毒 Mycetismus intestinalis)	

「ファリン」中毒 2) (タマゴテングダケ Amanita phalloides)	吐瀉すると共に虚脱・譫妄・昏睡(「コレラ」様菌中毒 Mycet. choleriformis)	獣炭を加えて胃洗滌・洗腸・下剤(「ヒマシ油」または硫苦)・生理的食塩水の注射・強心剤・「ムスカリン」作用にたいしては「アトロピン」・頭部に氷嚢・酸素吸入
「ムスカリン」中毒 3) 「ベニテングダケ」Amanita muscaria・「アセタケ」Inocybe rimosa など)	流涎・蠕動運動亢進・瞳孔縮小・虚脱(「ムスカリン」菌中毒 Mycet. muscarinicus)	
綿馬「エキス」 Extractum filicis maris	胃腸炎・眩暈・震顫・呼吸困難・意識昏迷・瞳孔縮小・視力障碍・視野狭小・黒内障	胃および腸洗滌(獣炭を加える)(「ヒマシ」油を与えてはならぬ)・氷片・阿片剤
「コルヒチン」 Colchicin	胃腸炎・下痢・虚脱・震顫・顔面及四肢の收縮・全身の強直性および間代性痙攣・昏蒙・Sopor・譫妄	胃および腸洗滌・下剤・「タンニン」酸・阿片剤・多量の液体飲用・食塩水注入
印度大麻 Cannabis indica	幻覚および錯覚を伴つた急性精神障碍・譫妄・口腔乾燥・不整の頻数脈・瞳孔散大	胃洗・吐剤・温浴・抱水「クロラール」
「コニイン」 Coniin	足に始り,腕,呼吸筋におよぶ麻痺,顫搦・痙攣・体温下降・脈搏緩徐・「チアノーゼ」・瞳孔散大	胃洗滌・吐剤・人工呼吸・興奮剤・利尿剤
「ヂギタリス」「ヂギトキシン」	悪心・嘔吐・下痢・頸部乾燥・呼吸困難・脈搏緩徐往々期外收縮・耳鳴・視力障碍・尿量減少・失神・昏睡	薬剤の中止・氷片・食塩水注入
「トロペイン」(「ヒオスチアミン」・「アトロピン」・「スコポラミン」・「ベラドンナ」または「ロート」毒)	口内および咽頭の乾燥・悪心・口渇・嚥下困難・頻数脈・頸動脈搏動・顔面潮紅・瞳孔散大・運動失調・著明な精神興奮・譫妄・間代性痙攣	胃および腸洗滌(獣炭を加える)・瀉下剤・興奮狀態にあつては催眠剤・但し「モルヒネ」は禁忌(呼吸麻痺!)
「ストリキニーネ」	筋痛・筋肉の強直性緊張および痙攣・牙関緊急・「テタヌス」・後弓反張 Opisthotonus・反射亢進・眼球突出・「チアノーゼ」・呼吸困難・窒息	獣炭を加えて胃洗滌・吐剤として「アポモルヒネ」痙攣期には麻酔剤(「エヴィパン」,溶性「フェノバルヒタール」,「レクチドン」)・「ブロムカリ」・絶対的安靜・人工呼吸
「クラレ」	運動神經末梢の完全麻痺により,全身筋肉および呼吸筋の麻痺・窒息による死	人工呼吸・興奮剤・「アルコール」
「サントニン」	黄視症 *Xanthopsia*・悪心・頭痛・眩暈・流涎・歩行蹣跚・不安・筋肉收縮・昏迷	胃および腸洗滌・下剤・痙攣には・麻酔剤・興奮剤
「モルヒネ」	嗜眠・利尿困難・悪心・嘔吐・瞳孔縮小(診断上重要!)・呼吸麻痺・脈搏緩徐・昏睡	胃洗滌(獣炭硫苦或は1‰過「マンガン」酸「カリ」を加える)の反復・下剤・皮膚刺戟・覚醒剤(「カンフル」「アミノコルヂン」「カルヂアゾール」)・人工呼吸・「ロベリン」・慢性中毒 *Morphinism* にありては禁断療法,高張葡萄糖液の靜注
「コカイン」1)	口腔および咽頭の乾燥・嚥下困難・虚脱・小さい頻数脈・心悸亢進・冷汗・尿意頻数・失神・幻覚・譫妄・收縮・全身痙攣・瞳孔散大・顔面および粘膜の蒼白・精神亢奮・「コカイン」を腰椎麻酔に使用した場合には,嘔気・嘔吐・頭痛・悪寒・戰慄・呼吸促迫・不眠・脚の感覚異常・高度の頻数脈・虚脱・昏睡	洗滌・不安にたいしては催眠剤麻痺には興奮剤。慢性中毒 *Cocainism* にあつては禁断療法

1) 「コカイン」中毒の際にも,「アトロピン」中毒と同様に,瞳孔は散大するが,しかし「コカイン」中毒の際には,外観は蒼白で,「アトロピン」中毒と異なり,顔面は潮紅せず,且つ動脈は怒動しない

麥角	食慾欠乏・悪気・悪心・頸中乾燥・嘔吐・疝痛・皮膚蒼白・蟻走感・小さい緊張脈・筋肉衰弱・眩暈・瞳孔散大・譫妄・昏睡・(「エルゴチン」中毒 *Ergotism*)	胃洗滌・吐剤・下剤・興奮剤
「ニコチン」	流涎・眩暈・嘔吐・冷汗・下痢・不規則な小脈・瞳孔縮小・視力障碍・全身痙攣・強直性收縮・昏睡。慢性濫用: 心臓障碍(期外收縮,動悸,狭心症様症狀)・動脈硬化症・胃および腸障碍	胃洗滌・興奮剤・喫煙の中止

動物性毒

	症狀	療法
蛇毒	咬傷部の炎症性腫脹 一般症狀: 震顫・視力障碍・呼吸困難・嘔吐・下痢・出血性素質・黄疸・全身痙攣・麻痺・譫妄・虚脱	局所: 結紮・吸角により創傷を吸引する・乱切 *Scarification*・燒灼 *Cauterization* 過「マンガン」酸「カリ」(1-3%) または塩素水にて処置する。 全身療法: 興奮剤・抗毒血清注射
河豚毒 (「テトロドトキシン」)	運動および感覚麻痺・不整脈・呼吸緩徐・死 輕症: 頭痛・嘔吐・舌運動および嚥下の困難・四肢厥冷・「チアノーゼ」・瞳孔の散大および反応消失	吐劑・胃洗滌・「ヒマシ」油・瀉血・食塩水の皮下注射・強心剤注射・人工呼吸

索　　引

A

アーガイルロバートソン氏現象 419
アーノー氏巨脾性肥大性硬変性 255
アセトン 110
———の検出 110
———の定量 111
———尿 110
———血症 309
「アセト」酸の証明 111
アダムス・ストークス氏症狀群 140
アデソン氏病 11,311,318
アチドージス 87,110,300,305
アテトーゼ 442
———運動 407
アデノイド 190
アドレナリン効果性 466
アナフイラキシー 337
———性「ショツク」 238
———様紫斑病 289
アナフィラクトゲン 337
アナフィラトキシン 337
アネルギー 338
アノフエレス 383
アヒレス腱反射 416,453
アフタ 375
——性口腔炎 375
アフリカ睡眠病 394
アムボツェプトール 335
「アメーバ」検出法 233
アメリカ鈎虫 229
アメリカ・トリパノソーマ病 395
「アメーバ」赤痢 233,386
アラストリム 370
アルカプトン尿 311
アルカロージス 87,317
「アルデヒード」試薬 115
アルブミンの定量 83
アレギー変作働 337,338
アレキシン 330
アロイケミー 288
アンギーナ 355
アンキロストマ 228
アンモニア 112
———計 112
アンチゲン 330
アンバー氏血液—尿—係数 270
嚶気 206
悪液質 11
悪性感冒 346
——水腫 382
——肉芽腫 288
——または重症貧血 286
圧痛 47
——点 40
安静空腹時價 293
Abdominal Reflex 416
Absence 473
Abscess of the Liver 256
——— lung 181
accidental murmurs 38
Accommodation reaction 419
Aceton 110
Acetonemia 308
Acetonuria 110
Achilles Tendon Reflex 416,453
Achylia gastrica 208
Acidosis 87,110,300,305
Actinomyces 374
Actinomycosis 238,374
actinomyotic granule 374
Acute Bronchitis 176
——Bronchiolitis obliterans 177
——dilatation of the Stomach 211
——Gastritis 208
——Glomerulonephritis 275
——Necrosis of the Pancreas 261
——Pancreatitis 262
——yellow Atrophy of liver 254
Acromegaly 318
Adams-Stokes Syndrome 141
Adenoids 190
Adiadochokinesis 443
adrenergic 466
Aerophagy 211
African Trypanosomiasis 394
Agglutinine 331
Agony 31,342
Agraphia 438
Agranulocytosis 70
Akinesia 441
Alastrim 370
Albers-Schönberg's Disease 328
Albuminometer 104
Albuminuria 102,266
Aleukia 70
Aleukemia 288
Alimentary glycosuria 105
Alexin 330
Alexia 439
Alkali Reserve 305
Alkaline reserve 87
Alkalosis 87,317
Alkaptonuria 311
Allergy 338
Alopecia areata syphilitica 380
Ambard氏血液—尿—係数 270
Amboceptor 335
Amebic Dysentery 233,386
Ammoniameter 112
Amnesia 399
Amnestic Aphasia 438
Amphoric breathing 29
Amyloid Disease of the Kidney 276
———Liver 256
Amyotrophic Lateralsclerosis 469
Anacidity 209
Anaemia perniciosa s. gravis (Addison Biermer) 286
———pseudoleucaemica infantum 288
———splenica 260
Anaesthesia dolorosa 411
Anal reflex 418
Analgesy 409
Anamnesis 1

Ananhylatoxine 337
Anaphylactogene 337
anaphylactoide Purpura 389
Anaphylaxis 337
Anchylostomum duodenale 228
Anergy 338,349
Anesthesia 409
Aneurysma aortae 163
Anisocytosis 64
Angina 355
——agranulocytotica 357
——catarrhalis 356
——follicularis 356
——gangraenosa 357
——lacumaris 356
——Ludovici 357
——necroticans 357
——pectoris 160
——pectoris vasomotoria 164
——phlegmonosa 356
——Plaut-Vinceti 357
——retronasalis 357
Anguilla intestinalis et stercoralis 229
Anisocoria 419,468
Ankle clonus 416
Anopheles 383
Anthrax 373
Antigen 330
Antitoxin 330
Anuria 266
Aortic insufficiency 157
——stenosis 157
Aortitis luica 163
Apathy 341,399
Apehand 460
Apex impulse 43
Aphasia 432,437
Aphthae 375
Aplastic Anemia 287
Apoplexy 470
Appendicitis 236
Argyll-Robertson Pupil 419
Arhythmia absoluta 141
Arrhythmia 138
Arteriosclerosis 163
Arteriosclerotic Gangrene 163
Arthritis 325
——deformans 326
——urica 309
Arthropathia tabic 468
Arthrosis 325
Ascaris lumbricoides 226
Ascites 47,241
Aschheim-Zondek 氏妊娠反応 320
Aschner 氏徴候 467
Astereognosis 411,434
Asthma bronchiale 177
——cardiale 160
Ataxia 405
Athetosis 407,442
Athletischer Typus 12
Atrophy of disuse 404
Atrophic Cirhosis(Laennec) 255
Auricular bibrillation 141
——Extrasystole 139
——flutter 141
Auscultation 27
Avitaminosis 320
Azoospermatiom 421
Azotorrhoe 218

B

バクテリオファージ 336
バクテリオトロピン 330
バセドウ氏病 316
——の甲狀腺腫 316
——併発甲狀腺腫 316
バビンスキー氏現象 417
——徴候 414
バラニー氏迷路機能検査法 406
バング氏病 391
バンサン氏「アンギーナ」 357
バンチ氏病 259
ビリルビン 114
——反応 94
——の検出 253
——の負荷 251
——血症 248
「ビウレット」反応 117
ビュルケル氏法 81
ビルハルツ氏住血吸蟲 281
「ブリアントクレジール」青 74
ブルセラ病 391
ブローカ氏回 438
ブロン・セカール氏偏側麻痺 452
「ベタ・オキシ」酪酸 111
——の証明 111
ベヒテレフ氏病 326
ベル氏現象 456
「ベンチヂン」試験 215
——ベルヒドロール液 78
ベンス・ジョーンスの蛋白質 104
ボタリ氏管の開存 158
梅毒 379
——性初発疽 195
——薔薇疹 380
——性「ゴム」腫 380
——性大動脈炎 163
——性区劃性禿頭 380
馬鼻疽 373
——菌 374
薔薇疹 10
万能給血者 88
——受血者 88
板槌打診 15
晩発性佝僂病 323
——先天性梅毒 380
尾狀核 440
病歴 1
病巣感染 325,350
——周囲炎症 349
鼻鏡検査法 189
鼻出血 189
鼻疾患 189
微小骨髄細胞 66
微熱 52
敏速反応 94
物質代謝病 291

——の症狀 307
葡萄糖の負荷 250
舞踏病狀運動 406
分光鏡像 84
分時搏出血量 149
分利 52,340
——直前昇熱 52
分裂小体 383
——生殖 383
鞭虫 227
便秘 213
——上行結腸型 213
——運動障碍性・痙攣性型 214
胼胝性潰瘍 209
舞蹈病 37
膀胱の打診 26
——結石 279
——鏡検査法 274
——疾患 277
——炎 278
乏尿 265
防禦素 330
苺舌 194
汎発性線維性骨炎 317,328
——嚢腫性線維性骨炎 328
B 型流行性腦炎 361
Babinski's sign 417
Bacillary dysentery 363
Bacillus anthracis Koch 373
——paratyphosa 345
——pestis 389
——tetani 371
——typhosus 343
Bacteriemia 350
Bacteriolysin 334
Bacteriophage 336
Bacteriotropine 330
Bacterium tularense 377
Bacteriuria 127,278
Balantidium coli 234
Bang's disease 391
Baranyi 氏迷路機能検査法 406
Basal Metabolism 293
Basophile Leukocytes 66
——Myelocytes 66
Bechterew-Pierre Maric's Disease 326
Beckmann 氏裝置 101
Bell's Phenomenen 456
Bell tympany 17
Bence-Jones 氏の蛋白質 104
Benedict-Becher 氏の迅速法 93
Benzidinperhydrol 液 78
Beriberi 321
bile acid 302
biliar cirrhosis of liver 230
biliöse Typhoid 387
Bilirubin 94,114
Bilirubinemia 248
biogene Amine 298
Biuret 反応 117
Black-fever 394
bleeding time 81
Blood pressure 135
——sugar 92,248
Boas 氏圧点 412
Bone Reflex 416
Bothriocephalus latus 224
Botulism 378
Bradycardia 41
Brillantkresylblue 74
Broca 氏式 14
Broca's Winding 438
bronchial breathing 28
Bronchiectasis 177
Bronchitis capillaris 176
——pituitosa 176
——putrida 176
Bronchoblenorrhoe 176
Bronchophony 32
Bronchopneumonia 179
Bronze diabates 310
Brown-Séquard's unilateral Paralysis 452
Brucellosis 391
Bruit de diable 39
——pot fêlé 20
bubonic Plague 388
Buffersubstances 305
Bulbus duodeni 59,213
Bulimia 206

C

チアノーゼ 8
チェーンストークス氏呼吸現象 167
チスチン尿 311
チツク 406
「チトコール」反応 336
「チフス」熱「コレラ」 390
「チフス」菌 343
——血液中の検出法 343
——の凝集反応 344
——尿よりの検出法 344
——糞便よりの検出法 344
チュルク氏稀釈液 73
——Türk 氏刺戟型 66
弛緩性麻痺 404,469
弛張熱 52
知覚 407
——障碍の分布 410
——性刺戟症狀 411
——路の径路 410
蜘蛛膜下出血 471
智能の障碍 399
痴愚 399
致死率 342
遲脈 42
膣「トリコモナス」 234
窒素下痢 218
——血症性尿毒症 268
中央野 56
中心性肺炎 179
中枢性麻痺 402
——神経をおかす伝染病 359
中性好性(多形核)白血球 65
——骨髄細胞 66
中毒 477
——腎 276
中腦 443

畫問「フィラリア」 281
虫様垂炎(虫垂炎) 236
蟲卵検出法 222
超生体染色 71
腸 211
腸液の検査 219
腸間膜の疾病 239
——淋巴管炎 241
——血管の「エムボリー」 240
——腺膿瘍 241
——腺結核 241
腸寄生虫 222
—結核 238
—腫瘍 237
—疾患の症狀 235
—詰中毒 378
—内細菌叢 219
—捻転 238
—脾脱疽 373
—閉塞 238
—の機能 212
—の放線狀菌病 238
—の梅毒 238
—のレントゲン検査 213
—「チフス」 342
—「トリコモナス」 234
—「ラムブリア」 234
聽覺過敏 456
——領域 435
聽診 27
——器 27
調節反応 419
貯気 168
直腸S狀部鏡 211
——癌 237
——検査 49
——性便秘 214
直接反応 94
直立性蛋白尿 103
沈降素 331
沈鬱 400
Cabot 氏輪狀体 64
Cachexia 11
Cachexia hypophyseopriva 319
——— Strumipriva 317
Cancer of the stomach 210
Capillary pulse 151
Caput Medusae 7
Carcinoma of the Esophagus 197
——— — —lung 184
——— — —Pancreas 262
——— —Prostata 281
———ventriculi 210
Cardiac insufficiency 153
——— Murmurs 35
Cardiospasm 197
Carnification 180
Carrion's disease 391
Caseous Pneumonia 182
Casts 126
Cataleptic musclar rigidity 407
Cavity 54
Central palsy 402
Cardiac dulness 22
Cardiac flatness 22
Cerebellar Ataxia 405,442
Cerebellum 442
Cerebral abscess 472
——— embolism 470
Cestoda 223
Chagas'disease 395
Charcot-Leyden's Crystal 172
Cheyne Stokes breathing 167
Chickenpox 370
Chlorosis 286
Choked papilla 454
Cholangitis 258
——— lenta 258
Cholecystography 253
Cholelithiasis 257
Cholera asiatica 389
——— nostras s. europae 390
Cholerine 390
Cholesteral 94,301
Cholinergic 466
Chorea minor 406,442,474
Choreic movement 406
Choroidaltubercle 183
Chromodiagnostics 251
Chronaxie 430
Chronic Appendicitis 237
——— Bronchitis 176
——— Gastritis 208
——— Glomerulonephritis 275
——— Perityphlitis 238
——— Pharyngitis 190
Chvostek's sign 317
Chyluria 101,112,300
Circum-anal anesthesia 451
Cirrhoses of liver 255
cirrhotic Phthisis 183
Cistern puncture 422
Citochol 反応 336
Clavus hystericus 400
Claw-hand 460
clonic cramp 406,473
Clonorchiosis 257
Clonorchis sinensis 230
Clostridium tetani 371
Clot retraction 81
Coagulation time 81
Cold sol reaktion 424
Calor-index 75
Cog-wheel breathing 29
Colica mucosa 235
Collapse 153
Coma 341,399
Commotio cerebri 471
Co-movement 407
Compensatory pause 139
Complement 334
Complemental air 168
Complete block 140
——— reaction of degeneration 430
Complex of amyostatic symptoms 441
——— Méniéres symptoms 456
Compressio cerebri 471

Concretio pericardii 162
Conditioned Reflex (Pawlow) 415
Conjunctival reflex 418
Constitution 11
Constitutional neurasthenia 476
Contraction 404
Contusio cerebri 471
Constipation 213
Constriction 238
Convergence reaction 419
Convulsion 406
Copper sulfate method 82
Corneal reflex 418
Cor nervosum 164
Corpus Striatum 440
Corynebacterium, diphtheriae 353
Cough 169
——— reflex 418
Courvoisier 氏症狀 261
Craniotabes 322
Cremaster reflex 417,453
Crepitatio 30
——— indux 30
——— redux 30
Cretinism 317
Crises laryngéennes 192
Crisis 52,340
Croupous or lobar Pneumonia 178
Crying fit 407
Cryoscopy 101
Curschmann's Spirals 172
Cutaneous Leishmaniasis 394
Cylindroide 127
Cystinuria 311
Cystitis 278
Cystoscopy 274
Cysts of the Kidney 280
——— Pancreas 262

D

『デング』熱 392
ドノバン氏「リイシュマン」小体 394
ドリガルスキー氏培養基 344
大呼吸 168
大食症 307
大喰細胞 69,330
大赤血球症 64
大腸「アメーバ」 234
——「バラメチウム」 234
——「バランチヂウム」 333
——菌敗血症 350
——レントゲン透射 60
大動脈瘤 163
———口狹窄症 37
———梅毒 163
———瓣閉鎖不全症 37,157
———瓣口狹窄症 157
———瓣型の心臟 134
———峡部の狹窄症 158
———の透射 56
大脈 42
大複殖門裂頭條虫 225
大便失禁 420
大理石骨病 328
大淋巴球 65
断續性言語 470
断続性呼吸音 29
打診 15
——音の性質 16
——と「オルヂャグラフィー」 134
彈性隆起 143
第I 斜径 54
第II —— 54
第四病 367
第四性病 381
濁音 16,19
——鼓性伴音を伴う濁音 19
唾液 193
電気泳動法 83
——心働図 144
電気的関係の検査 425
———興奮性の数量的変化 429
———の性狀変化 429
電撃痛 412,468
伝染病 329
———の診断 342
———の潜伏期一覧 396
———性病 378
———紅斑 371
澱粉様変性肝 256
———変性腎 276
動眼神経 454,466
———麻痺 455
動脈の触診 40
——硬化症 163
———性壞疽 163
———性歩行障碍 163
瞳孔反射 418
——不同症 419,468
銅貨法 17
道德的観念欠乏 400
同側半盲症 436,439
Decussatio lemniscorum 448
——— pyramidum 402
degenerative Atrophy 404
défense musculaire 43,236
Delirium 399
Deltoideus の麻痺 458
Dementia paralytica 473
Dengue 392
Depression 400
Dermatomyositis 328
Desquamatio furfuracea 368
Dextrocardia 24
Diabetes insipidus 319
——— mellitus 105,307
——— pancreaticus 261
diaphragm の麻痺 457
diaphragmatic hernia 55
Diarrhea 214
Diastole 34
diastolic murmur 36
Diazo 試薬 94
Dibothriocephalus decipiens 225
Dick Test 367
dicrotic pulse 143
Dilation 152

Diphtheria 353
——— bacillus 353
Diplogonoporus grandis 225
Dipylidium caninum 225
Disaccharide 105
Disposition 14,329
Distoma pulmonis 185
Distomum hepaticum spathulatum 230
Dittrich 氏栓子 172
Diuresis 265
Diverticulum 197
dominant 14
Ductus Botalei の開存 158
dullness 16,19
Duroziez double murmur 39
Dysathria 438
Dysbasia intermittens angiosclerotica 163
Dyschesia 214
Dysentery 362
dysplastischer Typus 12
dyspnea 153,169
Dyspragia intestinalis intermittens 163
Dystrophia adiposo-genitalis 318
——— musculorum progressiva 470
Dysury 266

E

「エオジン」好性骨髄細胞 66
——— 白血球 66
——— 細胞増多症 284
エスバッハ氏の蛋白計 104
エヂプト住血吸虫 281
エリス・ダモアソー氏曲線 20
エルブ氏麻痺 458
——— 筋緊張性反応 477
エレクトロカルヂオグラム 144
嬰兒類脂体症 260
栄養型 12
腋窩体溫 51
疫病 364
液浸屈折率測定器 82
壊死性「アンギーナ」 357
壊疽性口腔炎 195
鉛線 196
鉛毒麻痺 461
嚥下困難 196
——肺炎 180
塩基好性白血球 66
——骨髄細胞 66
——斑点のある赤血球 64
塩酸不足量 205
遠距離写眞法 132
遠藤氏培養基 343
延髄 444
円柱様体 127
——狀気管枝拡張症 177
EaR 429
Eberthella typhosa 343
Ecchymosis 10
Edema 9,267
egophony 32
Ehrlich 氏「トリアチド」染色法 78
Elastic fibre 173
Electrocardiogram 144
E.K.G. 144,146
Ellis-Damoiseau 氏曲線 20
Embolic Focal Nephritis 276
Embolism 164
Emphysema 178
Empyema 187
vesicae felleae 257
Encephalitis epidemica s. lethargica (Economo) 359
Encephalography 62
Encephalomalacia 471
Encephalon 432
Endocarditis 154
——— simplex 154,155
——— ulcerosa 155
Engfeld 氏法の変法 98
Entamoeba col 234
——— histolytica 233
Enteritis acuta 235
——— chronica 235
Enteroptosis 210
eosinophile Myelocytes 66
Eosinophilia 284
Eosinophile Leukocytes 66
Eosinophils 173
Epistaxis 189
Erbs' Paralysis 458
Erythema infectiosum 371
Erythremia 283
Erythrocytes 63
Erythrocytosis 283
Erythropenia 284
Esophagoscopy 196
Esophagus 196
Essential Hypertension 162
essential hypochromic Anemia 287
état mamelonné 208
Eumetry 442
Euphoria 341,400
Erentratio 55
Ewald 及び Boas 氏の試験朝食 202
Exanthem 341
Exanthema 10,367
exhaustion form 476
Exophthalmös 316
extrapyramidal motor System 403,441
Extrasystole 139
Exudate 47,241

F

「フェノル・テトラ・クロルフタレイン」試験 251
「フエノルフタレイン」試験 271
フォニオ氏の方法 73
「フクシン」乳糖寒天 343
「フルフロール」反応 250
フレーリッヒ氏病 318
風疹 368
負荷試験 250,272
不感期 130
不全麻痺 402
——心臓「ブロック」 140
不定呼吸音 29
不整脈 41,138
複糖類 105
腹水 7,47,241
——の原因 241
腹式型 166
腹部の打診 24
——聴診 39
——触診 45
腹膜の疾病 239
——の癌 240
——及腸間膜の疾病 239
——炎性滲出液 47
副神経 457
副腎 313
——の疾病 318
副甲狀腺 313
———の疾患 317
副行靜脈 7
副交感神経系 465
浮腫 9,267
——心臓性浮腫 10
——鬱血性浮腫 9
輩鞆反応 419
腐敗性消化障碍 235
——気管枝炎 176
振子調 35
糞便の検査 214
——の顕微鏡的検査 217
——の病的変化 216
——中の「ウロビリノゲーン」の直接証明法 219
——中における膽汁色素の検査 218
糞線虫 229
噴門痙攣 57,197
Facies febrilis 4
——— hectica 4
——— hippokratica 4
——— leontina 382
Fasciculus opticus 454
Fastigium 52
fat necrosis 261
fatty heart 161
Febrile Albuminuria 276
Febris continua 52
——— flava 393
——— intermittens 52
——— recurrens 386
——— remittens 52
——— undulans 391
——— ——— bovina 391
Feces 214
Fetal rhythm 35
Fibrillary Twitching 405
Fibularis 462
Filaria nocturna 281
——— diurna 281
Fila. Olfactoria 454
Filariasis 280
Filatow-Dukes 367
flatness 16
Flittering Scotoma 401
Fluctuation 47
Fluorescence 試験 113
focale Infection 325,350
Foetor ex ore 196
Folin-Wu の方法 91
Foot and Mouth Disease 375
Foramen ovale の開存 158
Forced movement 407
Framboesia tropica 388
free HCl の定量 205
friction rubs 32
Friedmann 氏排卵試験 320
Friedreich's Ataxia 475
functional lesion 401
Furfurolreaction 249

G

ガーランド氏三角 20
「ガラクトーゼ」の負荷 250
ガンビア・トリパノゾーマ 395
ギムザ氏染色法 77
——迅速染色法 379
グラム陰性菌 356
——陽性菌 356
「グルクロン」酸 110
———の証明 110
グロツコー・ラウフフース氏脊柱側三角 21
グロブリンの定量 83
グンブレヒト氏細胞影 65
グレーフェ氏症狀 317
ゴーシェ氏病 310,260
芽殖性幼裂頭條虫 226
外因性蛋白代謝 296
外転神経 455
——麻痺 455
牙関緊急 406
鵞口瘡 375
——菌 375
瓦斯壞疽 382
——菌 382
顏面の潮紅 9
——神経 455
——麻痺 456
———の末梢性麻痺 456
———中枢性麻痺 456
眼球乾燥症 320
——震盪症 406,470
——突出 316
含水炭素代謝 303
擬鈍性鬱憂病 407
牛波狀熱 391
凝固時間 81
凝集價 332
凝集素 333
凝集反応—載物「グラス」上の凝集反応 334
蟯虫 227
偶発性雜音 38
——蛋白尿 103,266
下痢 214
原発性貧血 286
眩暈 401
幻覚 400

現症 2
限局性痙攣 406
——腎臓病 277
——膿瘍 239
弦線電流計 145
原始性侏儒 319
原虫 233
原発萎縮腎 277
誤示 443
語聾 433
Gall bladder 243
—— —— reflex 219
——·stone 61
Galopp rhythm 35
Gamagonie 383
Gamete 383
Gangren of the lung 180
Gangrenous Stomatitis 195
Garland 氏三角 20
Gas-gangrene 382
Gastrectasis 211
Gastric atony 210
—— crisis 468
—— tube 202
Gastrogenous diarrhea 209
Gastroptosis 210
Gastroscop 201
Gaucher's Disease 260
Geine Epilepsia 473
Genotype 11
Gerhardt 氏塩化鉄反応 111
Gibbus 7
Gicht 309
Giemsa 氏染色法 77
Gigantismus 318
girdle sensation 412,468
Glanders 373
Glandula parathyreoidea 317
Globus hystericus 476
Glycosuria 105
Gmelin 氏試験 114
Goitre 316
Gonococcus 378
Gonorrhoea 378
gout 309
Graefe's Sign 316
Gram 氏複染色法 355
Granulocytes 68
Granuloma 195
Grarces' Disease 316
Grippe 346
Grocco-Rauchfusz 氏脊柱側三角 21
Gross-Fuld 氏法 221
Gruber-Widal 氏反応 344
Gum-line 196
Gumma 380
Guttadiaphot 70

H

ハイネ・メヂン氏病 362
ハウデツク壁竈 210
ハチンソン氏歯 195
ハンター氏舌炎 194
ハンチントン氏舞踏病 442,474
「ヒスタミン」不感性胃酸欠如症 209
ヒステリー 476
——性頭痛 400
——球 476
——性格 476
——発作 476
ヒベルエルギー 398
ヒポクラテス氏振盪音 187
ヒヨリン効果性 466
「フイラリア」病 280
フリードライヒ氏運動失調 475
ヘーゼル氏係数 102
ヘツド氏帯 412,40
ヘノッホ氏腸性紫斑病 289
ヘパタルギー 254
ヒポクラテス氏顔 4
ヘマトクリツト 82
ヘルニア 48
ホヂキン氏病 289
ホルツクネヒト氏形 198
——————窩 56
ホルナー氏症狀群 464
菌 194
波狀熱 391
波長 53
波動 47
破傷風 371
——菌 371
破壺音 20
敗血症 349
——性「ロイマトイード」 351
——の病原検出法 351
排便 420
——困難 214
排尿機能 419
——困難 266
——減数 266,274
排卵試験 320
廃用性萎縮 404
肺の触診 44
——打診 17
——聴診 27
——透射 54
——下界 17
肺疾患における打診音 19
肺葉の境界 18
肺活量 168
——測定法 168
肺領域における物理的症候 33
肺中煮沸 31
肺炎 178
——球菌 175,358
——の染色 359
——肺炎 358
——菌型の決定 360
肺の浸潤 32
肺尖部結核 349
肺門腺結核 349
肺萎縮 180
肺壞疽 180
肺癌 184
肺気腫 178
肺結核 181
肺梗塞 183

肺腫瘍 184
肺栓塞 183
肺動脈口狭窄 158
——狭窄 38
肺「ヂストマ」症 185
——————の虫卵 175
肺放線狀菌病 185
肺の肉様変性 180
肺膿瘍 181
肺梅毒 184
肺脾脱疽 373
肺「ペスト」 389
肺癆 181
肺胞呼吸音 28
——————の減弱 29
白血球 64,341
——の数 64
——の正常数 67
——数の計算 73
——各型の計算 75
——幼若型 66
——分葉核を有する白血球 66
——桿狀核をもつ白血球 66
——の左方推移 342
——過多症 284
——増多症 284
——減少症 284
——不増加症 288
——————性骨髄性白血病 70
——————淋巴性白血病 70
白血病 70,287
白痴 399
白斑 9
搏出血量 149
——————測定法 149
酸酵試験 108
——性消化障碍 234
発生期捻髮音 30,179
反射 413
——の種類 415
——の消失 413
——性瞳孔強直 419
——的瞳孔強直 468
反撞隆起 143
半身不随 402,432
半身舞踏病 406
半側感覚脱失 411
煩渇 265
粃糠狀落屑 368
脾臓 258
比較打診法 15
非器質性雑音 38
脾臓の打診 25
——の触診 46
——の機能 69
——増大 46
——性貧血 260
——の梗塞 259
脾肝腫大症 260
脾腫 46
脾脱疽 373
——菌 373
被殼 440
肥厚性縦隔洞炎 188
肥胖骨髄細胞 66
——性生殖器発育不全症 318
肥満型 12
——者の心臓 161
腓骨神経の麻痺 462
皮疹 10
皮膚の蒼白 8
——中の色素沈着 11
——の発疹 341
——筋炎 328
——反射 414,416
——リイシュマン氏病 394
泌尿器疾患 263
砒素沈着症 11
百日咳 357
——菌 358
表現型 11
表面知覚 408
標準血清 88
氷点降下測定 101
貧血 69,287
頻死 31,342
頻尿 266,274
風疹 370
腹壁反射 416
不全変性反応 430
閉鎖神経症狀 236
平均気量 168
平衡聴神経 456
平流電気による検査法 429
箆形二口虫 230
——————病 257
偏光(旋光)試験 108
偏癱 402,432
偏執病 400
偏頭痛 401
扁桃腺膿瘍 356
変性萎縮 404
変性反応 429
保菌者 331
補気 168
補足休止 139
補体 334
——測定法 339
蜂窩織炎性「アンギーナ」 356
胞子 383
放心 473
放線狀菌 374
——————塊 374
——————病 374
発疹 10
——「チフス」 345
——————の熱型 346
発作性心搏急速症 142
本態性血圧亢進症 162
本態的低血色素性貧血 287
奔馬調 35
Habitus asthenicus 12
Haeser 氏係数 102
Hagedorn-Jensen 氏法 92
Hallucination 400
Hand reflex, Meyer 416
Haudek's niche 210
Hay 氏硫黄華試験 249
Hayem 氏液 72

Head 412
Headache 400
Heart block 140
Heller 氏試験 103
Hematemesis 207
Hematochyluria 112,266,300
Hematokrit 82
Hematuria 112,266
Hemianaesthesia 411
Hemichorea 406
Hemiplegia 402
Hemiplegy 432
Hemiplegia alternans 444
Hemochromatosis 260
Hemoglobinometer 74
Hemoglobinuria 112,266
hemolysis 71
Hemolytic Anemia 287
——— Icterus 287
Hemophilus influenza 346
Hemophilns pertussis 358
Hemoptysis 171
hemorrhagie Diathesis 289
Hemophilia 290
Hemorrhoid 239
hemorrhoidal nodes 239
Hepatargie 255
Hepatolienography 254
Hepatose 254
Herpes febrilis 5
——— labialis 340
——— zoster 412,468
Histiocytes 69
Hodgkin's Disease 289
homonymous Hemianopsia 436,439
Holzknecht 氏窩 56
Horner's syndrome 464
heterotopic 130
hunterian chancre 380
Huntington's Chorea 442,474
Hutchinson's teeth 195
hydrogen-ion concentration 85
Hydronephrosis 279
Hydrophobia 372
Hydrops articulorum intermittens 327
Hydropsv 257
Hydrothorax 187
Hymans van den Bergh 氏定量法 95
Hymenolepis diminuta 225
Hypakusis 456
Hypalgesy 409
Hyperacidity 209
Hyperakusis 456
Hyperergy 338
Hyperglobulinemia 283
Hyperesthesia 409
Hyperleucocytosis 234
Hypersecretion 209
Hypertonia 404
hypertonic or spastic constipation 214
hypertrophic Cirrhosis(Hanot) 255
Hrpertrophy 152
Hypesthesia 409
Hypochromy 64
Hypoglycemia 309
Hypophysis 318
hypostatic Pneumonia 180
Hypotension 163
Hypotonia 404
hypotonic or atonic constipation 214
Hysteria 476
hysteric attack 476

I

イソステヌリー 101
イレウス 238
インドール 119
インドキシル 119
インドフェノール青合成 79
インヂカン 119
————の証明法 119
「————」測定法 270
「インヂゴカルミン」試験 271
インフルエンザ」 346
————肺炎 180
————桿菌（パイフェル氏） 346
————肺炎 347
————性多発神経炎 348
————脳炎 347
————脳膜炎 347
胃液の分劃採取法 203
——欠乏症 208
——漏 209
——分泌過多症 209
胃管 202
胃酸過多症 209
——欠如症 209
胃疾患の症状 208
胃洗滌液の顕微鏡的検査 202
胃癌 48,210
胃拡張 211
胃神経症 211
胃弛緩症 210
胃 197
胃の運動機能の検査 200
胃の打診 26
胃の触診 46
胃の機能診断 200
胃の充盈欠損 58
胃の分泌機能 200
胃の運動機能 199
胃の化学的機能の検査 201
胃の弛緩性拡張 210
胃鏡 201
胃潰瘍 209
胃下垂症 210
胃性下痢 209
胃腸管のレントゲン診断 57
胃内容物の逆流 211
胃疾患診断上の注意 206
胃発症 468
萎縮性鼻炎 189
硫黄華試験 249
異常体質型 12

異所的 130
位置反射 415
五日熱 377
井出氏反応 336
萎黄病 286
胃内における停滞時間 200
咽頭疾患 189
——反射 418
因子型 11
Icterus 9
catarrhalis 254
gravis 254
infectiosus 255,365
——— simplex 254
Idiocy 399
idiopathic Thrombopenia 289
Idiosyncrasy 238
Idiotype 11
Ileo-cecal tumor 214,237
Ileus 238
Illusion 400
imbecility 399
Impotentia coeundi 421
——— generandi 421
Incarceration 238
Incontinentia alvi 420
——— urinae 420
Indican 119
Indigocarmin test 271
indolent Bubo 380
Infarct 164
——— of the Spleen 259
Infarction of the Myocardium 159
Infections Diseases 329
Influenza 346
Influenzabacillus Pfeiffer 346
infraclavicular early infiltration 181
Inspection 4
Intention tremor 406,470
interlobar Empyema 187
Intermittent claudication 163
Intestinal Obstruction 238
Intestine 211
Intussusceptio 238
Invagination 238
Ischias 475
Ischuria paradoxa 420
Isodynamic equivalence 291
Isohydria 265
Isotonia 265
Isosthenuria 101,272
Isthmus の狭窄症 158

J

「ヂアスターゼ」の定量 220
ヂアツオ試薬 94
「———」反応 116
「———」——の陽性 116
ヂック氏試験 367
ヂットリツヒ氏栓子 172
「ヂフテリア」 353
「———」菌 353
「———」—の検出法 354
ヂユロヂーヅ氏重複雑音 39
ジェンドラシツク氏法 415
ジョリ氏小体 64
ジャクソン氏皮質癲癇 474
痔 239
痔核 239
時値 430
自働的後天性免疫 336
自律神経系 463
実性心機能障碍 150
実大透視測定法 132
衂血 189
静脈圧の測定 138
——凝塞 164
——洞性不整脈 138
——波 143
重感染 348
重潰 238
重症黄疸 254
——仮性麻痺性無力症 474
重聴 456
重複脈 143
充塞性「イレウス」 238
十二指腸液 252
———液の検査 219
———球 59,213
———虫 228
———潰瘍 59,237
———「ゾンデ」 201
———「———」による機能試験 252
縦隔胸膜炎 187
縦隔洞心嚢炎 162,188
——腫瘍 188
———の疾患 188
———の透射 55
循環器病 129
———の症状 152
——機能不全 153
——時間 150
——する血液量 150
純濁音 16
條件反射 415
情調の変化 400
條虫 類 223
乗馬袴形感覚脱失 451
上皮小体の疾患 317
上腹壁反射 453
上腹部における疼痛 206
上部咽頭炎 357
上腕反射 416
塵肺 184
腎盂炎 278
——腎炎 278
——造影法 62,273
腎結石 279
腎硬化症 277
腎性蛋白尿 266
腎疝痛 277
腎臓炎 266
———性視神経網膜炎 268
——症 276
腎臓の触診 46
———の打診 26
———の主な機能 264

——の解剖的構造 262
——及尿路の結核 279
——及膀胱の腫瘍 280
——機能検査法 269
——梗塞 280
——疾患の症狀 275
——水腫 279
——周囲織炎 279
——膿腫 279
Jacksonian Epilepsia 474
Jendrassik's technic 415
Jenner-May 氏染色法 76
Jodmethansulfosaures Na 62
Jodpyridinacetat 62
Jolly 氏小体 64

K

「カタル」性黄疸 254
「カタル」性「アンギーナ」 356
カシンベツク氏病 327
カツシング氏病 318
「カフェイン」試驗飲料 203
カボト氏輪狀体 64
カラ・アザール(黑熱病) 394
カリオン氏病 391
カルブンケル 373
キエルダール氏法 117
「キサントプロテイン」反応 269
クエツケンステツト氏症狀 422,472
クヴオステツク氏徵候 317
クルシュマン氏螺旋体 172
「クループ」性(眞性大葉性)肺炎 178
クルボアジェー氏症狀 261
クレーニヒ氏打診音界 18
グレチン病 317
————性侏儒 319
クロナキシー 430
「ケトン」血症 300
「————」体 110
ケルニイヒ氏症狀 361,412
「コーヒー」殘渣樣 207
コブリック氏斑 367
コルサコフ氏症狀群 399
コレステリン 301
「————」の檢出 253
コレラ 389
———— の診斷 390
「コンゴロート」紙 203
開張期初雜音 36
————性雜音 36
開放性結核 181
快感(陶醉) 341
潰瘍性心内膜炎 155
——壁龕 58
回歸神經麻痺 191
——熱 386
壞血病 290,322
海港檢疫 370
蛔虫 226
——の卵 226
廻転性眼球震盪症 406
——眩暈 401
廻盲部腫瘤 214,237
————結核 238
咳嗽反射 418
蝸牛神經 456
夏季腦炎 360
角狀後彎 7
角膜反射 418
仮性狹心症 160
——硬化症 474
——赤痢菌 363
——蛋白尿 103
——分利 179
——白血病性小兒貧血 288
——尿毒症 269
過敏症 337
化膿性門脈炎 259
————縱膈洞炎 188
————肋膜炎 187
喀血 171
渴試驗 272
渴減少症 266
下腹壁反射 453
果糖尿 109
脚気 321
——心 161
顆粒性白血球 68
——白血球消失症 70
————消失性「アンギーナ」 357
————反応 70
————「アンギーナ」 70
渙散 52,340
乾性心囊炎 161
——肋膜炎 186
乾燥標本の製法 76
乾酪性肺炎 182
緩解期 52
緩衝物質 305
間歇熱 52,383
——性跛行 163
——性鼓腸腹痛症 163
——性関節水腫 327
間代性痙攣 406,473
間接反応 94
関節炎 325
——結核 326
——疾患 325
————炎症性関節疾患 325
————変性関節疾患 325
——症 325
——痛風 309
——膜炎 325
——梅毒 327
感覚 407
——性失語症 438
——性運動失調 405
——性皮質領域 432
——異常 409
——過敏 409
——脱失 409
——鈍麻 409
感染性黄疸 255,365
感伝電気による檢査法 425
完全変性反応 430
——麻痺 402
——内転筋麻痺 192
——心臟「ブロック」 140
肝臟 243

——の打診 25
——の触診 46
——疾患の症狀 254
——症 254
——梅毒 256
——癌 256
——「ヂストマ」 230
——機能不全 255
————檢査 248
——のレントゲン檢査 253
——の生理的機能 244
——包虫 257
——「ヂストマ」病 257
——辺緣位 25
——縮小 46
——増大 46
肝脾造影法 254
肝硬変症 255
肝細胞性黄疸 247
肝中毒性黄疸 254
肝膿瘍 256
棍頭 238
簡便血液檢査法 75
鼾息 342
既往症 1
記憶減退 399
記憶力 399
期外收縮 139
気管水泡音 342
気管枝声 32
————呼吸音 28,30
————肺炎 179
————喘息 177
————膿漏 176
————及肺疾患の症狀 176
————拡張症 177
気胸 33,187
機械的黄疸 9,247
機関車雜音 38
機能性喉頭麻痺 191
——的雜音 38
————障碍 401
————神經症 475
————心臟疾患 164
亀背 7
基礎代謝 293
————測定法 314
起坐呼吸 153,169
起立性運動失調 405
寄生虫性肝硬変(山極氏) 232
稀釈試驗 272
器質的疾病 401
——性心臟雜音 36
畸形性関節炎 326
————骨炎 327
————脊椎症 326
——赤血球 63
————骨関節病 326
企動震顫 470,406
咿軋音 30
嗅覚 435
嗅神經 454
急性胃炎 208
——胃拡張 211
——黄色肝萎縮症 254
——関節「ロイマチス」 325
——気管枝炎 176
——糸毬体腎炎 275
——心筋炎 159
——脾臟炎 261
——脾壞死 261
——脊髓前角炎 362,470
——腸炎 235
——腦膜腦炎 360
——発疹病 365
——鼻炎 189
——腹膜炎 239
——閉塞性毛細気管枝炎 177
——淋巴性白血病 288
——「ロイマチス」性多発関節炎 325
吸引性肺炎 180
吸收熱 52
吸虫類 230
巨人症 318
巨大赤血球 64
————母細胞 64
巨脾症 259
挙睾筋反射 417,453
虚性心機能障碍 150
虚脱 153
——体温 52
恐水病 372
胸骨穿刺法 79
胸式型 166
胸水 187
胸髓炎 469
胸部の透射 54
胸壁穿孔性膿胸 187
胸膜炎 186
狂犬病 372
狹心症 160
狹長型 12,14
狂的多弁 438
橋 443
境界打診法 16
協力 442
叫喚痙攣 407
極期 52
強剛 403,441
強直性痙攣 406
————脊椎関節炎 326
強迫運動 407
——失笑 372
共伴凝集反応 332
鏡熱 377
拮抗運動反復不能症 443
均衡試驗 218
緊張狂性昏迷 407
金「ゾール」反応 424
筋萎縮性側索硬化症 469
筋炎 328
筋強剛 404
筋強剛性症狀群 441
筋緊張亢進 404
筋緊張減退 404
筋型 12
筋性防衛 48,236
筋線維下痢 218
筋線維攣縮 405

筋痛 328
筋肉の緊張 404
——疾患 328
——性閉鎖下全 38
——ロイマチス 328
筋無力性反応 474
筋力適合 442
菌血症 351
菌種確定法 344
菌持続排泄者 354
空気嚥下症 211
空洞の原因 33
——症狀 20
空腹時消息子法 201
佝僂病 322
——性侏儒 319
稽留熱 52
痙笑 4,372
痙攣 406
——性緊張亢進 404
——性脊髄麻痺 469
——性麻痺 404
——性および麻痺性「イレウス」 238
脛骨神経の麻痺 463
頸髄炎 468
傾眠(恍惚) 399
係蹄交叉 448
軽症「コレラ」 390
——瀕癇 473
——痘瘡 369
螢光試験 113
——顕微鏡 174
軽打診法 16
血圧測定 135
——の変化 267
——の病的変化 137
血液 63
——正常血液量 63
——検査法 70
——の形態学 63
——量測定法 151
——像の病的変化 283
——の分光鏡検査 85
——の化学的分析 89
——の化学的成分 89
——の化学的成分正常値 89
——蛋白質の定量 83
——中の「アセトン」定量法 98
——中に於ける「エチル・アルコール」の定量法 99
——滴映像法 70
——肥胖細胞 66
——中の燐 99
——疾患 283
——疾患の症狀 285
——型の遺伝式 89
——型の決定 87
血管の聴診 39
——及心臓の触診 40
——の疾病 162
——運動神経衰弱 153
————性狭心症 160,164
——性紫斑病 289
血球の生成 67
——計算法 71
——容積の測定 82
血小板 67
——数の計算 73
——減少出血性紫斑病 289
血色素尿 112,266
——減少症 64
——含量の測定 74
血清の色 71
——蛋白含量の測定 82
——中のコレステリン 94
——のビリルビン 94
——の「カルシウム」 96
——の食塩定量法 96
——の膽汁色素の定量法 95
——の尿酸 97
——病 337
血栓症 164
——静脈炎 164
血痰 171
血糖 248,92
——定量法 92
血餅の牽縮 81
血尿 112,266
血友病 290
結核 348
結核菌 173,349
——染色法 174
——の集菌法 173
——培養法 175
結核性の空洞 54
——脊髄炎 469
——脊髄カリエス 469
——脳膜炎 471
——腹膜炎 240
結節瘤 382
結膜反射 418
結合塩酸の測定 206
牽引性憩室 57
顕性 14
腱反射 415
——の病的亢進 413
健忘症 399
——性失語症 438
鼓音 16
鼓腸 7,238
鼓桴狀指 177
交感神経系 464
——緊張症 466
交叉性半身不随 444
——動眼神経麻痺を伴つた半身不随 443
交接不能性陰萎 421
交代脈 141
恒久性不整脈 141
後弓反張 361
後筋麻痺 191
後天性梅毒 380
後頭葉 438
後頭下穿刺 422
後鼻性「アンギーナ」 357
後方突進 474
後彎側彎症 7

口腔 193
——炎 195
——の疾病 195
口唇匍行疹 340
口蹄疫 375
口内悪臭 196
咬痙 4,371,406
咬筋反射 416
高血圧症 162
抗元 330
恍惚 341
構語障碍 438
——不能 438
——性言語障碍 438
絞窄性「イレウス」 238
拘縮 404
甲狀腺 313
——の疾患 316
——腫 316
——機能不全 319
——成形不全症 319
——性悪液質 317
鉱性音 17
廣節裂頭條虫 224
廣汎性腎臓疾患 275
梗塞 164
酵素の定量法 220
——の証明 220
硬直 403,441
硬性下痢 380
硬脈 42
硬変性肺癆 183
喉頭の検査 190
——鏡検査 190
——疾患 189
——狭窄 191
——痙攣 192
——発症 192
——硬皮症 191
——腫瘍 191
——結核 191
抗毒素 330
項部強直 341
肛門反射 418
絞扼反射 418
呼吸副音 30
——の延長 29
——型 12
——商 294
——性不整脈 139
——困難 153,169
——気 168
——の容積 168
——緩徐 167
——頻数症 167
——数 167
——器疾患 166
吸気困難 169
呼気困難 169
「ケトン」血症 110
黒痘 369
黒色素 113
黒色肉腫 113,256
骨疾患 327
骨質消耗症 327
骨反射 416
骨膜反射 416
骨軟化症 323
骨及異物のレントゲン検査 62
骨髄細胞 66,79
——像 67
——巨大細胞 67
——母細胞 66
————性「プラスマ」細胞 66
————性白血病 288
——性白血病 288
——消耗症 70
——様化生 69
骨盤神経 466
固定低張尿 101,272
悉無律 130
狗兒條虫 225
独樂音 39
仔虫培養法 222
混合性呼吸困難 169
昏睡 341,399
昏迷 341,399
昏蒙 399
溷濁反応 336
根疼痛 412
困憊感性神経衰弱症 476
Kala-Azar 394
Kaschin-Beck's Diease 327
Kernigs sign 362,412
Ketosis 110,300
Kjeldahl 氏法 117
Koplik spots 367
Korsakoff's Psychosis 399
Kreatorrhoe 218
Küster 氏徴候 236
Kyphoscoliosis 7
Kyphosis 7

L

Laevulosuria 109
Lagophthalmos 457
Lamblia intestinalis 234
Lancinating pain 412,468
Landry's Paralysis 475
Laryngeal paralysis 191
Laryngospasm 192
Larynx 190
Larynxstenosis 191
Laségue sign 412
lead palsy 461
Lecithin 302
Legal 氏反応 110
Leishmania Donovani 394
———— furunculosa 394
Leishmaniasis 394
Lepra 381
—— bacillus 381
—— nervosum 382
—— tuberosa 382
leptosom 14
leptosomer Typus 12
Leptospirosis autumnalis 365
Lethality 342
Leucoderma 9

Leucemia 70,287
Leucocytes 64
Leucocytosis 284
Leucopenia 284
Ligula mansoni 225
Lipase の定量 222
Lipaemia 71,300
Lipemia 300
Lipoid Nephrosis 276
Lipuria 300
Liquor cerebrospinalis 422
Liver 243
Lobar (croupous) Pneumonia 358
Lobus occipitalis 438
Loewi 氏アドレナリン試験 467
Löfler 氏染色 355
Logorrhöe 438
Lordosis 7
Lubular Pneumonia 180
Lues 379
—— cerebrospinalis 472
—— congenita 379
—— ——— tarda 380
Lumbago 328
Lumbae puncture 421
Lymphangitis mesenteriali 240
Lymphoblasts 65
Lymphocytes 65
Lymphocytosis 285
Lymphogenous Leukemia 288
Lymphogranuloma inguinale 381
Lymphogranulomatosis 288
Lymphopenia 285
Lysis 52,340
Lyssa 372

M

マイ・グリユンワルド氏染色法 76
マツク・バーネー氏点 236
——・———の圧痛 48
マラリア 383
「———」原虫証明法 385
マルタ熱 391
マンソン氏住血吸虫 233
ミオゲローゼ 328
ミクリッツ氏病 194
シンコウスキー氏商 300
「ムレキシード」試験 118
メガストーマ・エンテリクム 234
メンデル・ベヒテレウ氏現象 416
メヅサの頭 7
メニエール氏症狀群 456
メビウス氏症狀 316
メラニン 113
「———」試験 256
メルレル・バロウ氏病 290
毎日熱 384
摩擦水泡音 32
麻疹 367
——の発疹 10
——の熱型 368
麻痺性癡呆 473
末梢性麻痺 402
蹣跚狀歩行 462
満洲「チフス」 346
慢性「イレウス」 239
——腸「カタル」 235
——胃炎 208
——咽頭炎 190
——関節炎 325
———続発性
慢性多発関節炎 326
———原発性
慢性多発関節炎 326
——気管枝炎 176
——糸毬体腎炎 275
——心筋炎 159
——虫垂炎 237
——腹膜炎 240
——肺炎 180
——盲腸周囲炎 238
——微熱狀態 181
三日熱 383
———原虫 383
宮川氏法 222
脈圧下降の遅速 42
脈波計 143
——描写器 143
——描写法 142
脈搏の性狀 41
——の数 41
——の律動 41
——数 341
脈の張力 42
脈絡膜結核 183
矛盾性尿閉 420
無機塩類 304
無形便 214
無鉤條虫 224
無疹性痘瘡 369
無性生殖 383
無精虫症 421
無痛横痃 380
無動症 441
無尿 266
無反応 349
無慾(無関心) 399
——狀または無関心 341
無力性体型 12
迷走神経 130,457,466
———緊張症 466
毛細管の観察 151
———の顕微鏡的観察 152
——脈 151
毛細気管枝炎 176
——膽管炎 258
網狀細胞 69
——赤血球 64
———の計算 74
——線維狀物質 74
盲腸炎 236
——周囲炎 236
———腸腫瘤 236
———炎性膿瘍 236
妄想観念 400
朦朧狀態 399
門脈の血栓症 258
門(静)脈の疾病 258
Mac. Burney 氏点 236

Macroblasts 64
Macrocytes 64
Macrocytosis 64
Macrogametes 383
Macrophage 330
Macrophages 69
Malaria 383
——— quartana 383
———quotidiana 384
——— tertiana 383
——— tropica 383
Malignant edema 382
malignes Granulom 288
Malleus 373
Malta fever 391
Malum coxae senile 326
maniacal 400
Mantoux 氏皮内
「ツベルクリン」注射 338
Masern 367
Masseter reflex 416
Mastix Reaction 425
Mastmyelocytes 66
May-Giemsa 染色法 76,77
Mc Burney's Point 48,236
Melancholia attonita 407
Measles 367
Medianus の麻痺 459
Mediastinitis purulenta 188
Mediastinopericarditis 188
Mediastinum 188
Mediastinopericarditis 162
Medulla Oblongata 444
Megastoma entericum 234
Megaloblasts 64
Megalocytes 64
Meinicke 氏絮狀反応 336
melancholic 400
Melanin 113
Melanosarcom 113,256
Mendel-Bechterew sign 416
Meningitis cerebrospinalis
epidemica 360
——— tuberculosa 471
Meningoencephaltis acuta 360
Medulla spinalis 446
Merozoite 383
Mesencephalon 443
Messinger u. Huppert の方法 111
Metagonimus Yokogawai 231
Metastase 49
Meteorism 7,238
Meulengracht 氏法 95
Microcytes 64
Microcytosis 64
Microgametes 383
Microgametocytes 383
Micromyelocytes 66
Micorphage 330
Migraine 401
Miliary tuberculosis 349,182
Milzbrand 373
mind-blindness 439
Minkowski's Quotient 300
Miserere 238,208
Mitral insufficiency 155
——— stenosis 156
Miosis 419
Mikulicz's syndrome 194
Möbius' Sign 316
Möller-Barlow's Disease 290
Monarthritis gonorrhoica 326
Monocytes 65
Monocytosis 285
Monoplegia 402
Monoplegy 432
Monosaccharide 105
Morbidity 342
Morbilli 367
Morbus Addisonii 311,318
Morbus Banti 260
——— Basedowi 316
——— Cushing 318
———Fröhlich 318
——— Gaucher 310
——— Poncet 326
——— Weili 255,365
——— Werlhofi 289
Motility 402
motor Aphasia 438
——— Apraxia 437
——— centre 402
Müller 氏試験 134
Mumps 352
Murexid 試験 118
muscular insufficiency 38
Mutation 12
Myalgia 328
Myasthenia gravis
pseudoparalytica 474
Myasthenic Reaction 474
Mydriasis 419
Myelitis 468
——— cervicalis 468
——— dorsalis 469
——— lumbalis 469
Myeloblasts 66
——— Leukemia 288
Myelocytes 66
Myelogenous Leukemia 288
Myelogramm 67,79
Myelography 62
Mycobactercum leprae 381
Mycobacterinm tuberculosis 349
Myocarditis chronica 159
Myocarditis acuta 159
Myodegeneratio cordis 159
Myocarditis rheumatica 159
Myogelosis 328
Myomalacia cordis 159
Myositis 328
Myotonia congenita 474
——— Reaction, MyR, Erb. 475
Myxedema 316
Myxoneurosis intestinalis
menbranacea 235

N

「ナナ」條虫 225
ニーマン・ピック氏病 260
「ヌクレイン」代謝 298
ネフローゼ 266,276
ノンネ氏反応 424
內因性蛋白代謝 296
內攻 368
內臟下垂症 210
——錯位症 24
——神経 465
——大脱出 55
——知覚性反射 47
內臟反射 418,467
內分泌の障碍 312
——腺疾患の症狀 316
軟脈 42
軟性下疳 381
難聽 456
二連脈 140
日本住血吸虫 232
————病 256
日本流行性腦炎 360
乳香反応 425
乳酸の検出 201
乳頭様狀態 208
乳兒梅毒 380
乳糜血尿 112,266,300
乳糜尿 101,112,300
尿の一般的性狀 101
尿量 100
尿の色 101
尿の反応 101
尿成分 102
尿の「クロール」含量 120
尿酸 118
——塩尿 310
——の証明 118
尿素 116
——の証明 117
尿比重計 101
尿円柱 126
——蠟様円柱 126
——脂肪円柱 126
——「リポイド」円柱 126
——血球円柱 126
——上皮円柱 126
——硝子様円柱 126
——顆粒円柱 126
尿の溷濁 101
尿沈渣 122
——の検査 123
——非組織化性尿沈渣 123
——組織化性尿沈渣 125
尿結石の検査 127
尿毒症 269
尿閉 266,420
尿崩症 319
尿失禁 420
尿中糖の定量法 106
——蛋白の定量 104
——の糖検出法 105
——における膽汁酸の証明 249
————尿酸の定量 118
————「アンモニア」の定量 112
————「ポルフィリン」の証明 113
————薬剤の検出 120
————酵素の測定 120
——澄明法 103
——の塩素 120
——の微生物 127
——総窒素量の測定 117
——結核菌の証明 127
妊娠腎 277
妊娠反応 320
熱 51,339
熱型 52
熱の経過 52
熱及その他の症狀 340
熱病顔 4
熱性蛋白尿 276
熱曲線 52
熱性匍行疹 5
熱帶巨脾症 394
熱帶或は悪性「マラリア」 383
——熱原虫 383
——伝染病 383
——苺腫 388
——「リイシュマン」小体 394
粘液水腫 316
——疝痛 235
——気管枝炎 176
粘膜疹 367
——反射 418
——斑 380
粘稠度計 82
捻髮音 30,179
腦圧迫 471
腦神経 454
腦出(溢)血 470
腦栓塞 470
腦震盪 471
腦造影法 62
腦挫傷 471
腦腫瘍 471
腦膿瘍 472
腦型 12
腦髓 431
腦脊髓液 422
————検査法 421,422
腦脊髓梅毒 471
腦下垂体 312
————の疾病 318
————侏儒 319
————羸瘦症 319
————性悪液質 319
腦皮質性運動失調 405
腦膜炎球菌腦膜炎 360
腦軟化 470
膿球 66
膿気胸 187
膿胸 187
膿毒症 349
濃縮試験 272
膿尿 101

嚢胞腎 280
嚢狀気管枝拡張症 177
——腎 279
濃塗標本検査法 78
Nanosomia primordalis 319
Naunyn の表 109
Necator americanus 229
Neisser 氏極小体(異染体)染色法 355
Neisseria gonorrhoeae 378
Nematoidea 226
Nephritis 266
Nephrolithiasis 279
Nephrosclerosis 277
Nephroptosis 280
Nephrosis 266,276
Nervi splanchnici 465
—— abducens 455
—— accessorius 457
—— acceletantes 130
—— acusticus 456
—— cochleae 456
—— glosso-pharyngicus 456
—— hypoglossus 457
—— ischiadicus 462
—— medianus 459
—— oculomotorius 454
—— pelvicus 466
—— phrenicus 457
—— radialis の麻痺 460
—— stato-acusticus 456
—— trigeminus 455
—— ulnaris の麻痺 460
—— vagus 457
Nervous System 398
Neuralgia 412
Neurasthenia 475
Neuritis optica 454
Neuroretinitis nephritica 268
Neurosis 211
neutrophile Myelocytes 66
Neutrophile(Polymorphonuclear) Leukocytes 65
Nicturia 153
Niemamn-Pick's Disease 260
Nilbluesulfate test 217
Niveau diagnosis 449
Noma 195
nomotopic 130
Nonne-Apelt's reaction 424
Non-protein nitrogen 90
Normal (n-) solution 205
Normoblasts 64
Normocytes 63
normosom 14
Nucleus caudatus 440
Nucleus lentiformis 440
Nycturia 266
Nylander 氏試験 106
Nystagmus 470
———— horizontalis 400
———— rotatorius 400

O

オーキネット 383
オキシダーゼ反応 65,78
オツペンハイム氏現象 418
オプソニン 330
オリバー・カルダレリ氏症狀 189
オルトヂアグラフィー 132
オロヤ熱 391
悪寒戰慄 52,340
横膈膜の高さ 133
——型 166
——の麻痺 457
——下膿瘍 240
——弛緩症 55
——「ヘルニア」 55
——の透射 55
横膈神経 457
横膈肋骨洞 20
黄色調 423,472
黄疸 9,246
——出血「スピロヘータ」病 365
——の原因 247
嘔吐 207
——神経症 211
黄熱 393
鸚鵡病 393
音樂的心音 35
Obturatoriussymptom 236
Occlusionor Obturation 238
occult blood 210,215
Ocular micrometer 81
Oculomotorus 466
Oidium albicans 375
Oligakiuria 266,274
Oligodipsia 266
Oliguria 265
Oliver-Cardarelli 氏症狀 164
Ookinetes 383
Oppenheim's sign 418
Opsonine(Wright) 330
Optical Agnosia 439
Organic disease 401
Oriental Sore 394
Oroya-fever 391
Orthodiagram 133
Orthodiagraphy 132
Orthopnea 153,169
Orthostatic Albuminuria 103
Osteoarthropathia deformans 326
Osteoarthropathie hypertrophiante pneumique 177
Osteochondroarthrosis deformans endemica 327
Osteomelacy 323
Osteoporosis 327
Ostitis doformans 327
—— fibrosa cystica generalisata 328
—— fibrosa generalisata 317,328
Output 149
Oxalic Acid 310
Oxydase 反応 78
Oxydation-reduction Potential 294
Oxyuis vermicularis 227
Ozaena 189

P

パーキンソン氏病 474
「パーキンソニスムス」 442,360
「パパタチ」熱 392
「パラチフス」菌 345
パラ凝集反応 332
バンディ氏反応 424
ビネー氏指数 13
「プラマス」細胞 285
「プリン」体 118
ペスト 388
「———」菌 389
「———」の診断 389
ペラグラ 322
ペルオキシダーゼ反応 78
ペルアブロヂル 62
ペルー疣病 391
ペルテス氏病 326
ペジエット氏骨病 327
「ポルフィリン」尿 113
ポンセ氏病 326
Pachydermia laryngis 191
Paget disease 327
Palpation 39
Paltauf 氏侏儒 319
Pancreas 259
Pancreatic Calculus 261
Pandemie 346
Pandy's reaction 424
Pancarditis 159
Pankreas 313
Panmyelophthise 287
Pappataci fever 392
Pappenheim 氏複染色法 77
Paragonimiasis 185
Paralysis 402
Paramaecium coli 234
Paralysis agitans 474
Paralysis progressiva 473
Paralytic Obstruction 238
Paranoia 400
Paraphasia 438
Paraplegia 402,492
Parathyroid Gland 317
Paresis 402
Paresthesia 409
Parkinsonism 360
Parkinsonism 442
Parkinson' disease 474
Parotitis epidemica 352
Paroxysmal Tachrcardia 142
Pars pallida 440
Parthenogenesis 383
partial brock 140
Partial reaction of degeneration 430
Past-pointing 443
——————— test 443
Pathellar clonus 416
——————— reflex 415
Pavy 隈川，須藤氏
　葡萄糖定量法 106
Pellagra 322
Pendulum rhythm 35
Peptic ulcer 209
Perforations peritonitis 239
Pericardal friction rubs 38
periodontal disease 195
Perity phlitis 236
Peroxydase 反応 78
Perthes's Disease 326
Pertusris 357
Pest 388
Petechia 10
Pettenkofer 氏 Furfurolreaction 250
Percussion 15
Pericarditis exsudativa 161
Pericarditis sicca 161
Pericholecystitis 257
Precipitine 331
perifocal inflammation 349
Periost Reflex 416
peripheral palsy 402
Peritonitis chronica 240
Peritonitis tuberculosa 240
Peritoneum 239
Peritonitis acuta 239
Peronaeus の麻痺 462
Pes equinus 462
Pettenkofer 氏試験 116
Petit mal 473
Pfeiffer 氏現象 334
Pfeifferella mallei 374
Phagocyte 329
Phagocytosis 329
Pharyngeal reflex 418
Pharyngitis superior 357
Phenolsulfophtalein test
　(Rowntree) 271
Phenol tetrachlorphthalein test 251
Phenotype 10
Phosphaturia 311
Phthisis pulmonum 181
physiological low of
　contraction 429
Pimmaculatum 383
Pituitary basophilism 318
——————— Body 318
Plantar reflex 417
Plague 388
Plasmodum malariae 383
Plasmodum virax 383
Plaques muqueuses 380
Pleurisy 186
Pleuritis 186
——————— exsudativa 136
——————— mediatinalis 187
——————purulenta 187
——————— sicca 186
Pneumococcus 175
———————
　(Fraenkel Weichselbaum) 358
Pneumonia 178
Pneumonoconiosis 184
Pneumothorax 187
Pocken 369
Poikilocytes 63
Poikilocytosis 63
Polyphagia 307

Polarization による糖測定 108
Poliomyelitis anterior
　acuta 362,469
Pollakiuria 266,274
Polyarthritis rheumatica acuta 325
Polychromatophile Erythrocytes 64
Polycythaemia vera 283
Polydipsia 266
Polyneuritis 475
Polysaccharide 105
Polyserositis 161
Polyuria 265
Pons 443
presystolic murmur 36
Porphyrinuria 113
primary Complex 348
——————— Infectiox 348
Progressive bulbar paralysis 469
Propulsion 474
Prostata 281
Prostatic hypertrophy 281
Prostatitis 281
Protozoa 233
Pseudosclerosis 474
Pseudouremia 269
Psittacosis 393
Ptyalism 194
puerile breathing 29
Pulmonary actnomycosis 185
——————— atelectasis 180
——————— embolism 183
——————— infarct 183
——————— tuberculosis 181
Pulmonic stenosis 158
Pulsus alternans 141
——————— durus 42
——————— bigeminus 140
——————— celer 42
——————— epigastrica 44
——————— irregularis 41,138
——————— magnus 42
——————— mollis 42
——————— Parvus 42
——————— irregularis perpetuus 141
——————— irregularis respiratorius 139
——————— regularis 41
——————— tardus 42
——————— trigeminus 140
Pupillar reflex 418
Purpura 289
——————— abdominalis(Henoch) 289
——————— simplex 289
——————— rheumatica(Schoenlein) 289
——————— variolosa 369
Pustula maligna 373
Putamen 440
Pyknischer Typus 12
Pyelitis 279
Pyelography 62,273
Pyelonephritis 278
Pyemia 349
Pylephlebitis suppurativa 259
Pyonephrosis 279
Pyopneumothorax 187
Pyorrhea 195
Pyranidal tract 402
Pyrosis 206
Pyaria 101

Q

Quarantine 370
Queckenstedt's Symptom 422,472
Quintan fever 377

R

ライデン氏結晶 173
ラエンネツク氏萎縮性硬変症 255
「ラクムス」乳糖寒天 344
ラセグ氏現象 412
ランドリー氏麻痺 362,475
リイシユマン氏病 394
リケツチア病 395
リグラ條虫 225
リッテン氏現象 6
リーデル氏形 198
リバルタ氏反応 241
「リバーゼ」の定量 222
リポイドネフローゼ 276
リポイド代謝 301
リンネ氏試験 456
ルードウィヒ氏「アンギーナ」 357
ルードウヒ氏角 6
ルンペル・レーデ氏現象 366
レアギン 338
レチチン 302
レツクリングハウゼン氏病 317,328
レーノー氏病 467
レフラクトメーター 82
レリーフ 57
レントゲン線検査 53
———————硬い線 53
———————軟かい線 53
レンズ核 440
「ロイマチス」性紫斑病 289
「———————」心筋炎 159
ロイマトイード 325
「ロザニリン」試験 271
ロツキー山紅斑熱 395
ロツソリモ氏反射 418
ロデシア・トリパノソーマ 395
ローレル氏指数 13
ロンペルグ氏現象 405
癩菌 381
癩病 381
卵円孔の開存 158
罹患率 342
裏急後重 214
力覚 409
力士型 12
立体覚脱失 411,434
律動障碍 138
利尿 265
流涎 194
流行性感冒 346
流行性口腔炎 375
———(嗜眠性)脳炎 359
———脳脊髄膜炎 360

――耳下腺炎 352
――小兒麻痺 362
硫酸銅法 82
―「ナイル」靑試験 217
両側麻痺 402
淋菌 378
淋疾 378
淋巴球 65
――減少症 285
――増多症 285
淋巴肉芽腫病 288
―肉腫 289
―性白血病 288
・―性「プラスマ」細胞 65
―母細胞 65
―球性細胞「アンギーナ」 70
淋疾性單関節炎 326
燐酸塩尿 310
輪狀風疹 371
類鼾音 30
類脂体代謝 301
――変性「ネフローゼ」 276
類属凝集反応 332
連鎖狀球菌敗血症 350
蠟様强硬性筋强直 407
老人性股関節症 326
肋膜炎 186
――性滲出液 32
――性摩擦音 32
―心囊性摩擦音 39
――疾患 186
―滲漏液 20
―の透射 55
―肥厚 187
濾出液 241
滷性症 87,317
濾胞性「アンギーナ」 356
Rabies 372
Rachisit 322
Rachitis tarda 323
Radialis の麻痺 460
Radius periost reflex 416
Râles 30
―― dry 30
―― metallic cons. 31
―― moist 31
Rat-bite fever 375
Raynaud's disease 467
Reagin 338
Recklinghausen's Disease 328
Recklinghausen の血圧計 136
Rectormanoscope 211
recurrent nerve palsy 191
Redoxpotential 294
Reflex 413
――― stiff Pupill 419,468
Refractometer 82
refractory phase 130
Regurgitation 211
Reichmann氏病 209
Reinfection 348
Relapsing fever 386
Relaxatio diaphragmatica 55
Renal colik 277
Renal Infarct 280
Ren mobilis 280
reserve air 168
residual air 168
Resistance 329
respiratory Quotient 290
respired air 168
Retentio 420
Retentio urinae 266
Reticulocytes 64,74
Reticulum cells 69
Retinitis albuminurica 268
Retropulsion 474
Rheumatoid 325
Rhinitis acuta 189
――― atrophicaris 189
Rhinoscopy 189
Rhonchi sibilantes 30
――― sonori 30
Rhythmus 41
Rickets 322
Rigidity 403,441
Rigor 403,442
Rinnes test 456
Risus sardonicus 4,372
Rivalta's Reaction 241
Riva-Rocci 氏血圧計 135
Rocky Mountain Spotted Fever 395
Romberg's sign 405
Rosanilin test 271
Roseola 10
Roseola syphilitica 380
rotatory vertigo 401
Rotz 373
Rotzbacillus 374
RQ 294
Rubella 368
Rubeola 368
――― scarlatinosa 367
Romberg sign 468
Rossolimo's Reflex 418
Rumpel-Leede Phenomenon 366

S

「サルチルアルデヒド」試験 111
ショック 154
シモンズ氏病 319
シュラッテル氏病 326
シック氏試験 354
シャツテン 61
ミヤガス氏病 395
シヤルコー・ライデン氏結晶 172
「スタラグモメトリー」滴量計法 222
ステルワグ氏症狀 316
ストークス氏襟 188
「スルフォサリチル」酸試験 103
スピロヘータ・パリーダ 379
スプルー 235,322
スギウロン 62
催進神経 130
再感染 348
再生不能性貧血 287
再生不能性貧血癆 70
載癰 402
最高血圧 136

最小蛋白量 292
最低血圧 136
細菌性赤痢 363
細菌尿 127,279
細動脈硬化症 162
細網赤血球 64
錯覚 400
錯語症 438
醋酸―加―黄色血滷塩試験 103
左方推移 66,70
―――再生的左方推移 70
―――單純性の左方推移 70
左心室の増大 23
鎖骨下早期浸潤 181
猿手 460
三角筋の麻痺 458
三叉神経 455
三尖瓣閉鎖不全症 37,158
三連脉 140
酸性症 87,110,300,305
酸化還元電圧 294
酸度の曲線 204
酸滷平衡 265
散瞳症 419
残気 168
志賀菌 363
獅子面 382
子癇性尿毒症 268
雌性生殖体 383
視丘 439
―下中枢 440
視診 4
視神経 454
視神経炎 454
視神経の萎縮 454
視覚領域 435
視覚性認識欠如 439
刺戟伝達系 129
刺戟伝達障碍 140
嗜眠性脳炎 359
脂肪心 161
―血症 71,300
――代謝 299
――便 218,299
――尿 300
― の分解 300
―組織壊死 261
試験穿刺 186
試験朝食 202
指指打診法 15
指示試験 443
紫藍色 8
紫斑病 289
歯牙肉芽腫 195
歯牙周囲組織疾患 195
歯槽膿漏 195
死相 4
死亡率 342
死の徴候 342
死戰 342
糸狀虫病 280
色彩診断 251
色素係数 75
――代謝の障碍 310
膝現象 415
膝蓋反射 415
―搐搦 416
失語症 432,437
失書症 438
失読症 439
尺骨神経 460
―――の麻痺 460
斜頸 328
煮沸試験 103
就下性肺炎 180
秋季「レプトスピラ」病 365
收縮性雜音 36
―――前雜音 36
週期性蛋白尿 103
蓚酸 310
臭鼻症 189
縮瞳症 419
縮小條虫 224
出血時間の測定 81
出血性素質 289
出血性痘瘡 369
出血性肺梗塞 184
出血後熱 52
出血斑 10
腫痘 370
腫瘍の触診 48
手反射 416
初感染 348
―――病変群 348
笑痙 407
小赤血球 64
―――症 64
小喰細胞 329
小脈 42
小舞踏病 406,442,474
小脳 442
小脳性運動失調 405,442
小腸のレントゲン透射 60
小兒呼吸音 29
小葉性肺炎 179
漿液気胸 187
逍遙性肺炎 179
消化器病 193
消化型 12
消化管の透射 56
消退期捻髪音 30,179
消耗型 476
消耗顔 4
衝心 321
衝動 154
症候性癲癇 473
汞毒性口腔炎 196
昇汞試験 218
猩紅熱 365
猩紅熱「アンギーナ」 357
―――の発疹 10
―――の体温曲線 366
―――性風疹 367
喰細胞 329
喰作用 329
食塩の負荷試験 273
食餌性糖尿 105
食道 196

——のレントゲン検査 57
——の瘢痕狭窄 197
——の憩室 197
食道癌 57,197
食道鏡検査 196
食道靜脈瘤 57
食品の組成 305,306
植物性中枢 463
——神経異常徴候のある者 466
——神経系 463
——神経徴候を有する者 467
——神経不安定な者 466,467
触覚性行為錯誤症 411,434
触診 39
進行性筋萎縮症 470
——麻痺 473
——球麻痺 469
真性膿胸 473
真性(クループ)性肺炎 358
真性赤血球過多症 283
真性赤痢菌 363
真性尿毒症 268
新生児破傷風 372
深部感覚 409
身体計測法 13
身体望診法 14
震顫 406
——麻痺 474
振動測定法 136
振水音 47
神経系疾患 398
——痛 412
——衰弱 475
——癇 382
滲出液 240
——性心嚢炎 24,161
——肋膜炎 186
心音第1心音 34
——第2心音 34
——聴診の場所 34
——正常心音 34
——の鉱性 35
——の分裂 35
——の異常 35
心開張期 34
——血圧 136
心窩搏動 44
心筋の疾患 159
——軟化症 159
——変性症 159
心軽濁音界 22
心室性期外收縮 139
——中隔における欠損 158
心尖搏動 42,43
——の性狀 43
——震盪性 43
——陰性心尖博動 44
——扛挙性 43
——跳飛性 43
心純濁音界 22
心收縮期 34
心收縮期血圧 136
心收縮期靜脈波 144
心臓の打診 21
心臓の大さ 23,133
——の形狀の変化 135
——の肥大 152
——の拡張 152
——の機能診断 148
——の透射 56
——の負荷試験 148
——機能不全 153
——雑音 35
——性喘息 160
——神経症 164
——及血管の聴診 33
——或は心筋梗塞 159
——濁音界の病的変化 23
——「ブロツク」 140
——病性細胞 173
——瓣膜病 155
——のレントゲン線検査 131
心濁音界の大さ 22
心内膜の疾病 154
心内膜炎 154
心嚢の疾病 161
——心 161
——擦音 162
——摩擦音 38
——外壁擦音 39
——水腫 24
心博動 42
——緩徐 41
——急速 41
心房中隔の開放 158
——性期外收縮 139
——「フラツテルン」(振動) 141
——「フリンメルン」(顫動) 141
水癌 195
水試験 272
水素イオン濃度 305
——の測定 85
水痘 370
——の診断 371
——の体溫曲線 371
水平性眼球震盪症 406
水泡音 30
——乾性水泡音 30
——気管水泡音 31
——鉱性水泡音 31
——無響性湿性水泡音 31
——有響性湿性水泡音 31
——湿性水泡音 31
吹壺音 29
膵臓 260,313
——癌 261
——疾患の症狀 261
——嚢腫 262
——結石 261
——卒中 261
——性糖尿病 261
——機能不全 218
——のレントゲン検査 59
錘体路 402
錘体交叉 402
——外路運動系統 403,441
睡眠 400
末吉氏法 104
声音震顫 44

——診断的応用 45
声門痙攣 192
——開張筋麻痺 191
声帶麻痺 191
整脈 41
正位的 130
正中神経 459
——の麻痺 459
正常赤血球 63
——有核赤血球 64
——淋巴球 65
——型 14
——血圧の高さ 137
——の E. K. G. 145
生体「アミン」 298
生理的蛋白尿 103, 266
——攣縮律 429
生殖反射 421
——不能性陰萎 421
——腺の疾病 319
——性精神病 400
性ホルモン 313
精神障碍 400
——分裂病 400
——盲 439
青銅色糖尿病 11,310
世界的大流行 346
咳 169
赤血球 63
——の数 63
——の計算 71
——の抵抗力測定 80
——の沈附速度 176
——の測定 79
——の直径の測定 81
——大小不同症 64
——畸形症 63
——増多症 283
——過多症 69,283
——真性赤血球過多症 69
——減少症 284
赤色高血圧症 162
赤痢 362
——の伝播 363
——菌の証明法 364
脊髄 448
脊髄炎 468
——癆 468
——性関節病 468
——空洞症 470
——節 448
——疾患の節位診断 449
——の偏側損傷 451
——の腫瘍 472
——性進行性筋萎縮症 469
——造影法 62
——神経 457
脊柱前彎 7
——後彎 7
——側彎 7
接眼側微計 81
節性感覚脱失 407
接種「マラリア」 386
遷延性膽道炎 257
——心内膜炎 155
遷延反応 94
閃輝暗点 401
穿孔性腹膜炎 239
——潰瘍 209
腺・筋肉などの触診 49
腺「ペスト」 388
腺窩性「アンギーナ」 356
腺様増殖症 190
線狀体 440
線虫類 226
潜在血液 215
——の証明法 215
潜在出血 210
栓塞 164
——性局所腎炎 276
纖細型 12
尖足位 462
尖端肥大症 318
疝気 328
先天性梅毒 379
——筋強直症 474
——心臓瓣膜病及畸形 158
旋毛虫 230
——病 376
譫妄 399
素因 14,329
双攝体 335
双手触診 49
疎痘 369
僧帽瓣口狭窄症 37,156
僧帽瓣閉鎖不全症 37,155
僧帽瓣型の心臓 134
躁狂狀態 400
嘈雜(「ムネヤケ」) 206
早朝嘔吐 207
早期浸潤 349
早期空洞 349
総酸度の定量法 204
足蹠 417
足搐搦 416
連脈 42
鼠咬症 375
鼠蹊部淋巴肉芽腫 381
組織球 69
——破壞性「エントアメーバ」 233
卒中 470
Sachs-Georgi 氏沈附反応 336
Sahli 氏血色素計 74
Salicylaldehyd 試験 111
scanning speech 470
Scarlatina 365
Scharlach 365
Scarlet fever 365
Schick Test 354
Schistosomiasis jap. 256
Schistosomum haematobium (Bilharz) 281
——— mansoni 233
Schizont 383
Schizogny 383
Schizophrenia 400
Schlatter's Disease 326
Schlitosomum (haematobium) japonicum 232

Schmidt 氏の試験食 217
Sclerosis multiplex 470
Scoliosis 7
Scorbut 322
Scurvy 290,321
Sediment 122
Sedimentation rate(S.R.) 79,176
Segmental Anaesthesia 407
Seliwanoff 氏の反応 109
Sensibility 407
Sensory Aphasia 438
——— Ataxia 405
Sepsis 349
Septicemia 349
Sex Glands 319
Seropneumothorax 187
Sexhormones 314
Sexual reflex 421
Shigella dysenteriae 363
——— paradysenteriae 363
Shock 154
Signe du sou 17
Simmonds' Disease 319
Sinus phrenico-costalis 20
Situs viscerum inversus 24
Sinus arrhythmia 138
Skin Reflex 416
Skorbut 290
Slack Paraplegia 469
Sleeping Sickness 394
Spezific-dynamic action 315
Splenohepatomegaly 260
Splenomegaly 259
Smallpox 369
Somatometry 13
Somatoscopy 14
Somatoserology 14
Somnolence 399
Somnolentia 341
Soor 375
Sopor 399
South American
　Trypanosomiasis 395
Sparganum proliferum 226
Spasmodic laughing 407
Spasmophilia 192
Spasnius glottidis 192
Spastic Palsy 404
——— spinal paralysis 469
Spectroskopy 85
Spectrum 84
spezific dynatic action 292
Spinal progressive
　muscular atrophy 469
Spirochaetosis
　ictero-haemorrhagica 365
Spirocheta pallida 379
Spirometry 168
Sphygmograph 143
Sphygmomanometer 135
Spleen 259
Spondylarthritis ankylopoetica 326
Spondylitis tuberculosa 469
Spondylosis deformans 326
Sporogony 383
Sporozoite 383
Sprue 235,322
Sputum 170
Stadium decrementi 52
——— incrementi 52
Stalagmometrie 222
Status praesens 2
Steatorrhea 218,299
Stegomyia callopus s. fasciata 393
Stellwag's Sign 316
Stertor 342
Stethoscope 27
Stomatitis 195
——— aphthosa 375
——— epidemia 375
——— mercurialis 196
——— simplex 195
Stridor 190
String galvanometer 145
Strongyloides stercoralis 229
Struma basedowiana 316
——— basedowificata 316
Strümpell 氏脛骨現象 407
Stomach 197
Stuma 316
Stupor catatonicus 407
Subarachnoid hemorrhage 471
Sublimate test 218
Suboccipital puncture 422
Subphrenic Abscess 240
Substantia reticulo filamentosa 74
Subthalamis Centre 440
Succussio Hippokratis 187
Superacidity 208
Superinfection 349
Supersecretion 208
Suprarenal Body 319
Sympathicotonia 466
symptomatic Epilepsia 473
Synergy 442
Synovitis 325
Syphilis 379
——— of the Intestinum 238
——— of the Liver 256
———of the lung 148
Syringomyelia 470
Systole 34
Systolic murmur 36

T

「ツベルクリン」反応検査法 338
「テール」様便 215
テタニー 317
テトラ・ヨード・
　フェノルフタレイン 61,253
トラウベ氏腔 26
トムセン氏病 474
トルーソー氏現象 317
トレパネーマ・ペテルヌエ 388
「トリパノゾーマ」病 394
「トリプシン」の定量 221
体質 11
——性神経衰弱 476
——異常 41

——血清学的検査法 14
体温健康人の体温 51
苔を被る舌 194
胎兒調心音 35
帶狀感 468,412
帶狀疱疹 468,412
高田氏反応 251
高田荒氏脊髓液反応 426
多幸症 401
多発漿液膜炎 161
多発神経炎 475
多発性硬化症 470
多染性赤血球 64
多糖類 105
多尿 265
痰 170
痰の色 170
膽石 61,253
——病 257
胆汁鬱滯性黃疸 247
——欠乏性便 248
——色素 94,114
——酸 115,249,302
胆嚢 243
——結石 253
——癌 257
——反射 219,252
——周囲炎 257
——のレントゲン検査 61,253
——造影法 253
——水腫 257
——蓄膿 257
——性敗血症 350
胆性(膽路性)肝硬変症 230
——「チフス」様症 387
膽道炎 258
炭疽熱 373
炭酸結合能 86,305
單為生殖的発育 383
單核白血球増多症 285
單純性黃疸 254
——潰瘍 209
——口腔炎 195
——紫斑病 289
擡起性心尖博動 43
單瓣 432,402
蛋白質代謝 295
蛋白尿 265,102
——仮性蛋白尿 103
——偶発性蛋白尿 103
——眞性蛋白尿 102
——週期性蛋白尿 103
——生理的蛋白尿 103
——直立性蛋白尿 103
——性網膜炎 266
單核細胞「アンギーナ」 70
單核白血球 65
單純性心内膜炎 154
單糖類 105
痰の有形成分 171
痰中の「エオジン」好性細胞 173
痰の顯微鏡的検査 172
痰の臭気 171
痰の蛋白含量 171
痰中の彈力線維 173
淡蒼部 440
丹毒 352
——の熱型 351
弛緩期 34
地方病性畸形性骨軟骨関節病 327
沈降反応 79
槌柝板打診法 17
痛風 309
痛覚脱失 409
——鈍麻 409
——の遅滯 408
——の障碍 40
恙虫病 376
笛声 30
転位 49
展開性捻髮音 30
顚倒型 51
抵抗力 329
低能 399
低血糖症 309
低血圧症 163
定規液 205
滴狀心 24,134
点狀出血 10
天然痘 369
吐血 207
吐糞 208
吐糞症 238
鍍銀法(Levaditi 氏) 379
兎眼 456
糖質代謝 303
糖尿 105
——病 105,307
——性昏睡 308
橈骨神経 460
——骨膜反射 416
——神経の麻痺 460
疼痛 47
——点 468
——の性狀 40
痘瘡 369
——紫斑病 369
——の前驅疹 306
——の熱型 369
逃避反射 414
等「イオン」性 265
等張性 265
等力價の法則 291
東洋潰瘍 394
東洋毛様線虫 229
特異質 337
特異力学的作用 292,315
特発血小板減少症 289
突然変異 12
頓智熱 437
Tabes dorsalis 468
Tachycardia 41
tactile Apraxia 411,434
——— fremitus 44
Taenia echinococcus 225
——— nana 225
Taenia saginata=
——mediocanellata 224
Taenia solium 223

Takata-Ara-Liquor reaction 425
tape-worm 223
Teleröntgenography 132
Tendon Reflex 415
Tenesmus 214
test-breakfast 202
Tetanus 371,406
Tetanus neonatorum 372
Tetany 317
Tetrajodphenolphthalein 253
Thalamus 439
Thannhauser 氏尿定量法(変法) 97
Thoma-Zeiss 氏の算定器 71
Thomsen's disease 474
Thrombocytes 67
thrombopenic Purpura haemorrhagica 289
Thrombophlebitis 164
Thrombosis of r. portae 258
Thrush 375
Tibialis の麻痺 463
——— sign 407
Tic 406
Tiselius Electrophoresis 83
tonic cramp 406
total acidity 204
——— adductor palsy 192
Torticollis 328
tracheal rattling 31
Transudate 47,241
Traube 氏腔 26
Trematoda 230
Tremor 406
Trench fever 377
Trepanema pallidum 379
——————— pertenue (Castellani) 388
Triatoma megista 395
Trichomonas intestinalis 234
Trichina(Trichinella)spiralis 230
Trichinosis 377
Trichomonas vaginalis 234
Trichocephalus dispar s. trichiuris 227
Trichostrongylus orientalis 229
Tricuspid insufficiency 158
Tripper 378
Trismus 4,371,406
Trommer 氏試験 106
Trousseau's Sign 317
Trypanosomiasis 394
Trypanosoma gambiense 395
——————— rhodesiense 395
Trypsin の定量 221
Tschermak 氏圧迫試験 467
Tsutsugamushi disease 376
Tubercelbacillus(Koch) 349
Tubercle bacillus 173
Tuberculosis 348
Tuberculous laryngitis 191
——————— vertebral Caries 469
Tularemia 377
Tumor cerebri 471
——— medullae spinalis 472
Tumors of the larynx 191
——— of the lung 184
——— of the Mediastinum 188
Tycos(タイコス)氏血圧計 136
tympanity 16
Type Duchenne-Aran 469
Typhlitis 236
Typhoid fever 342
Typhus abdominalis 166,342
——— exanthematicus 345
——— Fever 345
——— mandschuricus 346
Typus abdominalis 166
——— cerebralis 12
——— costalis 166
———digestivus 12
——— inversus 51
——— muscularis 12
——— respiratorius 12

U

ウイダール氏反応の実施 333
ウイルヒヨー氏腺 5,50
ウィントリヒ氏音響変換 20
ウイルソン氏病 474
ウイルヒヨウ氏腺の増大 210
ウオルニア熱 377
ウェルホーフ氏病 289
ウェーベル氏試験 456
ウェーベル・ファンデーン氏 癒瘡木試験法 216
ウェストファール氏徴候 416
ウロビリン 114
———尿 115,247
———の証明法 115
ウロビリノゲーン 114
———————尿 115,247,249
ウロゼレクタン 62
右片手打姿勢 54
運動性刺戟症狀 406
———失語症 438
———行為錯誤症 437
———中枢 402
———領域 431
———機能 402
———の検査 403
運動器疾患 325
運動失調 405
鬱憂狀態 400
鬱血肝 255
———腎 277
———性濾出液 47
———乳頭 454
鬱滯性黄疸 9
右胸心 24
右心室の増大 23
瓜実條虫 225
Ulcus callosum 209
——— duodeni 237
——— molle 381
——— penetrans 209
——— simplex 209
——— ventriculi 209
Ulnaris の麻痺 460
undulant fever 391

unilateral lesion 451
Upper arm reflex 416
Uraturia 310
Urea 116
Uremia 268
Ureteral catheter 275
uric acid 118
Urine の一般的性狀 101
Urometer 101
Urobilinogenuria 115,247,249
Urobilinuria 115,247

V

ヴィタミン A 320
———B 321
———C 322
———D 322
———E及F 323
———H 323
———K 323
———L 324
———欠乏症 320
———の障碍 312
Vaccination 370
Vagotonia 466
Vagus 130,466
Valsalva 氏圧迫試験 134
Varicella 370
Variola 369
——— confluens 369
——— discreta 369
——— haemorrhagica 369
———Rash 369
——— sine exanthemate 369
Vegetativer Typus 12
venous pulse 143
——— thrombosis 164
ventricular Extrasystole 139
Verruga peruviana 391
Vertigo 401
vesicular breathing 28
Virchow 氏腺 50
visceral reflex 469
Viscosimeter 82
Vital capacity 168
Vitium cordis 155
Volhard 氏試験 120
Valvular defect 37
Volvulus 238
Vomiting 207
——— reflex 418
Vomitus matutinus 207
v. Pirquet 氏皮膚接種 339

W

ワール氏症狀 238
ワイル氏病 255,365
ワッセルマン氏反応 335
矮小條虫 225
鴛爪手 460
Waddling gait 467
Wahl's Symptom 238
Wassermann 氏反応 335
Wasserpocken 370
Webers' test 456
Weber-van Deen's Guaiacum test 216
Welch-E. Fränkel 382
Weltmann 氏凝固帶 252
——— Barrenschren 氏尿素反応 270
Westphal sign 416
Whooping Cough 357
(Widmark) 氏法 99
Wiliamson 氏症狀 182
Wilson's disease 474
Windpocken 370
Wohlgemuth 氏法 220
Wolhynian fever 377
Word-deafness 438

X

Xanthochromia 472,423
Xanthoprotein Reaction 269
Xerophthalmia 320

Y

ヨードテトラグノスト 61
ヨーロッパコレラ 390
矢尾板氏法 222
夜間多尿症 153,266
夜間「フィラリア」 281
山羊声 32
野兎病 377
有核大赤血球 64
有形便 214
有鈎條虫 223
有性生殖 383
有性生殖体 383
有痛感覚脱失 411
融合性痘瘡 369
遊走腎 280
游離塩酸の定量法 204,205
雄性生殖母体 383
——— 体 383
幽門潰瘍 59
——及十二指腸の検査 59
輸尿管「カテーテル」 275
葉間蓄膿 187
腰痛 328
幼虫体 383
腰髄炎 469
腰椎穿刺 421
陽性靜脈波 144
陽性「アレルギー」 338
養素の吸收 306
——の生理的燃燒價 291
幼若骨髄細胞 67
溶菌素 334
溶血 71
溶血性黄疸 9,287
———型 247
溶血性貧血 287
吉川・斎藤氏法 83
予備アルカリ 87,305
———の測定 86
予防接種 370

横川氏吸虫 231
四日熱 383
——原虫 383
Yellow fever 393

Z

ゼンナー・マイ氏染色法 76
坐骨神経 462
——痛 475
蛭瘧熱 377
残余窒素 90
——測定法 90
随伴運動 407
蠕動減退性便秘 214
頭痛 400
頭蓋癆 322
喘鳴 190,342
舌 194
舌下神経 457
舌咽神経 456
絶対不整脈 141
全骨髄癆 70,287
全身痙攣 406
——痙攣質 192
——強直痙攣 406
——性血色素沈着症 260
全心臓炎 159
前立腺炎 281
——癌 281
——肥大 281
——の疾病 281
前方突進 474
前頭脳皮質 436
善飢症 206
増菌法 343
増進期 52
続発性貧血 285
——脳膜炎 362
粟粒結核 182,349
Zambrini—渡辺氏唾液反応 193
Ziehl-Gabett 氏法 174
——-Neelsen 氏法 174

明治45年 6月 1日第 1版発行
大正 6年 1月 5日第 2版発行
大正 6年 6月 1日第 3版発行
大正 9年 8月20日第 4版発行
大正13年10月 5日第 5版発行
大正14年11月10日第 6版発行
昭和 2年 3月10日第 7版発行
昭和 4年 4月 5日第 8版発行
昭和 5年 3月10日第 9版発行
昭和 5年12月 5日第10版発行
昭和 7年 6月15日第 11版発行
昭和 9年 3月 3日第 12版発行
昭和10年 4月20日第 13版発行
昭和11年10月 5日増刷第 14版発行
昭和13年 5月 5日増刷第 15版発行
昭和15年 5月20日増刷第 16版発行
昭和16年 4月15日第 17版発行
昭和21年12月30日第 18版発行
昭和22年 5月25日第 19版発行
昭和23年 2月10日第 20版発行

昭和26年9月15日　改訂第21版印刷
昭和26年9月20日　改訂第21版発行

診　断　学
下　巻
定價 ¥ 900.00

弊社は捺印又は貼付紙を以つて定價を変更せず

著　者　額田晉（ヌカダ ススム）
発行者　金原四郎
東京都文京区湯島切通坂町21
印刷者　小林光次
東京都中央区入船町 1−8
印刷所　明石印刷株式会社
東京都中央区入船町 1−8

東京都文京区湯島切通坂町 21
發行所　日本醫書出版株式會社
電話小石川(85)518.948.4322
振替口座東京 151494

京都支社
京都市上京区河原町通丸太町上ル
電話（上）4114　振替京都 25642

納本

山田詩朗著	内科臨牀の爲に	¥ 800.00 〒 35.00
調来助著	外科臨牀の爲に	¥ 400.00 〒 35.00
久慈直太郎著	産婦人科臨牀の爲に	¥ 450.00 〒 35.00
西成甫著	小解剖學	¥ 500.00 〒 65.00
西成甫著	小解剖學圖譜	¥ 500.00 〒 65·00
金井泉 杉田保共著	臨牀檢査法提要	¥ 700.00 〒 65.00
分担執筆	新内科學 上卷 下卷	各¥ 800.00 各〒 65.00
呉建 沖中重雄著	自律神經系 総論 各論	¥ 800.00 ¥ 650.00 〒 65.00

492.1
N984s
(t21)
00247002